

大阪働き方改革にかかる基本方針・ロードマップの進捗について（構成員からの報告）

目 次

第1章 大阪労働局の取組

- 1 非正規雇用労働者の待遇改善
- 2 労働生産性向上等を通じた、超過勤務の削減等職場環境の整備
- 3 高齢者及び障がい者の雇用の促進
- 4 女性の活躍促進
- 5 若者の活躍促進
- 6 最低賃金引上げのための環境整備
- 7 ワーク・ライフ・バランスの実現
- 8 外国人留学生の就職促進と成長戦略
- 9 人材の育成支援
- 10 金融機関との連携
- 11 「働き方改革推進企業」の顕彰・動機づけ制度創設に向けた検討
- 12 運輸事業における取組
- 13 介護事業における取組
- 14 広報・啓発活動

第2章 大阪府の取組

- 1 非正規雇用労働者の待遇改善
- 2 労働生産性向上等を通じた、超過勤務の削減等職場環境の整備
- 3 高齢者及び障がい者の雇用の促進
- 4 女性の活躍促進
- 5 若者の活躍促進
- 7 ワーク・ライフ・バランスの実現
- 8 外国人留学生の就職促進と成長戦略
- 9 人材の育成支援
- 11 「働き方改革推進企業」の顕彰・動機づけ制度創設に向けた検討
- 12 運輸事業における取組
- 13 介護事業における取組

第3章 大阪市の取組

- 3 高齢者及び障がい者の雇用の促進
- 4 女性の活躍促進
- 5 若者の活躍促進
- 7 ワーク・ライフ・バランスの実現
- 11 「働き方改革推進企業」の顕彰・動機づけ制度創設に向けた検討

- 13 介護事業における取組
- 第4章 堺市の取組
 - 1 非正規雇用労働者の待遇改善
 - 3 高齢者及び障がい者の雇用の促進
 - 4 女性の活躍促進
 - 5 若者の活躍促進
 - 7 ワーク・ライフ・バランスの実現
 - 8 外国人留学生の就職促進と成長戦略
- 13 介護事業における取組
- 14 広報・啓発活動
- 第5章 日本労働組合総連合会 大阪府連合会の取組
 - 1 非正規雇用労働者の待遇改善
 - 2 労働生産性向上等を通じた、超過勤務の削減等職場環境の整備
 - 3 高齢者及び障がい者の雇用の促進
 - 4 女性の活躍促進
 - 5 若者の活躍促進
 - 6 最低賃金の引上げのための環境整備
 - 7 ワーク・ライフ・バランスの実現
- 12 運輸事業における取組
- 14 広報・啓発活動
- 第6章 公益社団法人 関西経済連合会の取組
 - 1 関経連の雇用・労働政策関連事業の運営についての基本方針
 - 2 取組内容・成果
 - 3 評価と課題
 - 4 2017年度の取組方向
- 第7章 大阪商工会議所の取組
 - 4 女性の活躍促進
 - 5 若者の活躍促進
 - 8 外国人留学生の就職促進と成長戦略
- 第8章 堺商工会議所の取組
 - 4 女性の活躍促進
 - 7 ワーク・ライフ・バランスの実現
 - 8 外国人留学生の就職促進と成長戦略
- 14 広報・啓発活動
- 第9章 近畿経済産業局の取組
 - 4 女性の活躍促進

- 5 若者の活躍促進
- 8 外国人留学生の就職促進と成長戦略
- 第10章 近畿運輸局の取組
 - 12 運輸事業における取組
- 第11章 大阪信用金庫の取組
 - 10 金融機関との連携
- 第12章 株式会社池田泉州銀行の取組
 - 1 非正規雇用労働者の待遇改善
 - 2 労働生産性向上等を通じた、超過勤務の削減等職場環境の整備
 - 4 女性の活躍促進
 - 5 若者の活躍促進
 - 6 最低賃金引上げのための環境整備
 - 7 ワーク・ライフ・バランスの実現
 - 9 人材の育成支援
 - 10 金融機関との連携
 - 11 「働き方改革推進企業」の顕彰・動機づけ制度創設に向けた検討
- 第13章 株式会社りそな銀行・株式会社近畿大阪銀行の取組
 - 1 非正規雇用労働者の待遇改善
 - 3 高齢者及び障がい者の雇用の促進
 - 8 外国人留学生の就職促進と成長戦略
 - 10 金融機関との連携

第1章 大阪労働局の取組

1 非正規雇用労働者の待遇改善

基本方針及びロードマップでは、「金融機関を通じたキャリアアップ助成金の浸透」、「介護労働に関する作業部会で非正規雇用労働者の処遇の在り方について勉強会・意見交換」、「高校生・大学生等に対する職業教育・労働教育」、「無期転換ルールの周知徹底」を行うこととなっている。

また、基本方針では「働き方改革推進企業」制度創設の検討を行うこととなっている。

(1) 金融機関を通じたキャリアアップ助成金の浸透

有期契約労働者、短時間労働者、派遣労働者といったいわゆる非正規雇用の労働者の企業内でのキャリアアップ等を促進するため、正社員化、人材育成、処遇改善の取組を実施した事業主に対して助成する制度としてキャリアアップ助成金を設けている。

大阪労働局においては、平成28年8月2日に大阪信用金庫と、同年10月21日に池田泉州銀行と、同年10月25日にりそな銀行、近畿大阪銀行と、平成29年5月16日に北おおさか信用金庫と働き方改革にかかる包括連携協定を締結し、協定締結後、助成金制度その他の国の施策・方針を理解した金融機関の職員がその見識を活用して適時適切なアドバイスを中小企業事業主に行えるようにするため、「働き方改革・助成金等勉強会」を開催している。これまでに、大阪信用金庫に対し3回、りそな銀行、近畿大阪銀行、池田泉州銀行に対し1回開催し、助成金等の制度や事業主に必要な労働関係法令について説明を行った。今後も継続して実施していく。

(2) 介護労働に関する作業部会等

平成28年12月9日からスタートした「介護労働に関する作業部会」の第2回において、事前提出を求めた「賃金制度改善のための目標シート」（現状と改善目標、その実現のための取組等を記載）には、正規労働者と同様に非正規労働者の賃金・処遇改善も目標に取り入れ、今後の取組を促すとともに、同一労働同一賃金に近づけていくことについても提言している。

同作業部会の第3回においては、非正規労働者の昇給の仕組みが、正社員とかなり相違しており、その違いが合理的に説明できるかどうか具体的に整理・検討することとする事例が出るなど、具体的検討が進んでいる。

また、平成29年6月には、派遣労働者とその派遣先で同種の業務に従事する労働者との均等・均衡待遇の確保に向け、派遣元事業主や派遣労働者の代表の参集を求め、「派遣労働に関する作業部会」を開催し、派遣労働者の職務の内容、成果、意欲、能力、経験等を勘案した賃金の決定などについて検討を進めていく。

(3) 労働法制セミナー

不本意非正規労働者をできる限り少なくするため、大阪労働局では、幹部職員が、高校生、短大生、大学生だけでなく専修学校生まで対象を広げて、大企業や中小企業など企業規模の大小を問わず正社員就職の重要性などの職業教育や、労働者の権利及び働くルールなどの労働教育を積極的に実施している。

(ア) 取組の成果

平成28年度において、大阪労働局が実施した労働法制セミナーの受講者数は3,712人（前年比27.3%増）であり、内訳は、大学生1,418人（15校）、短期大学生331人（5校）、専修学校生424人（8校）、高校生1,539人（15校）である。

セミナーの受講生からは、

- ・これから一生仕事をしていくうえで、勉強になったし、これからどの会社に勤めるか決めるのに役立てたい。
- ・働くうえで認められている権利や問題が起きた時に相談できる機関について知ることができた。
- ・どのくらい働いたら、違法になるのか知ることができたので、役に立った。
- ・雇用保険、社会保険などの保険制度について知らなかったなので、知ることができてよかった。
- ・働くことについて実感がなかったが、セミナーを受けて、働くときの注意点について知ることができたので、セミナーの話を踏まえて働きたい仕事を見つけないかと思った。
- ・アルバイトだから、何でも言うことを聞かないかと思っていただけで、とてもためになった。
- ・マンガでの説明がとてもわかりやすかった。

などの感想を頂いている。

(イ) 今後の展開

多くの学生に労働法制セミナーを受講してもらうために、引き続き、大阪労働局が同セミナーの講師派遣の用意があることについて、大阪労働局ホームページに掲載するとともに、大阪府内の全大学、高校等に対し周知文書を送付した。

また、大学、高校等の進路指導担当者が集まる関西学生就職指導研究会や府教育庁が開催する進路指導担当者打合せ会議の機会等をとらえて、大阪労働局が実施する労働法制セミナーの必要性について説明を行うこととする。

(4) 無期転換ルールの周知徹底

平成24年の労働契約法改正により、有期労働契約が反復更新されて通算5年を超えたときは、労働者の申込みにより、期間の定めのない労働契約（無期労働契約）に転換できる、いわゆる「無期転換ルール」が平成25年4月1日から施行され、平成30

年4月以降に無期労働契約への無期転換申込みが本格化することが見込まれる。

大阪労働局では、平成25年4月以降、説明会の開催や周知広報等を通じて啓発活動を進めてきたところであるが、特に平成30年が間近になってきた平成28年度は、①大阪労働局が主催した働き方改革セミナー（平成28年8月2日300名参加、同年12月16日200名参加）や育児・介護休業法説明会（同年11月1日・7日・11日各回600名参加）を始め、各種事業主団体等を対象とした説明会における無期転換ルールと有期契約特別措置法に基づく第二種計画認定申請の説明（計13回、計約3,200名参加）、②本省委託事業である「労働契約法等解説セミナー」の広報とセミナー終了後の個別相談会への職員の派遣（5回）、③新聞に記事掲載（1紙）、④府内の各商工会議所・商工会や地方公共団体が発行する広報紙誌に記事の掲載依頼（商工会議所関係ではこれまでに9機関が掲載及びその予定、地方公共団体関係では7団体が掲載予定。）、⑤均等法・育児法・パート労働法に基づく報告徴収時、働き方・休み方改善コンサルタントによる企業訪問時、有期契約特別措置法に基づく第二種計画認定申請の受付時又は認定通知書の交付時における周知広報用リーフレットやキャリアアップ助成金の案内リーフレットの配付（延べ約450社）等これまで以上に重点的な取組を進めてきた。

労働局幹部によるリーディングカンパニー訪問時に無期転換ルールへの対応状況を確認したところでは、平成29年3月末現在、訪問75社中9社がすでに取り組みしており、契約社員のほとんどを正社員化した製造業者や、パートタイム労働者には長期勤続者が多く、既に社会保険にも加入しているので、全員がスムーズに無期転換できるという製造業者がある一方で、無期転換ルールへの対応はこれからという企業も少なくなかった。

今後、事業主がこのルールを知らなかったことによる混乱を避け、ルールの適用回避を目的とした雇止めを防止するには、これまで以上に周知啓発に取り組むとともに、公正で透明性・納得性のある社内制度の確立を呼びかける必要がある。

取り組みが遅れている企業に対しては、無期転換のメリットや無期転換に向けた社内制度整備の好事例を情報提供し、公正で透明性・納得性のある社内制度の整備を呼びかけることが効果的であることから、リーディングカンパニー訪問時等において府内の企業から好事例を収集し、セミナー、労働局ホームページ、会議資料等で積極的に発信することにより、社内制度整備の浸透を図ることとする。

本年度は、無期転換への申込みが本格化する平成30年4月まで残り1年となることから、これまで進めてきた上記の各取組を継続することと併せ、収集した社内制度の好事例の周知を目的に、平成29年3月末から5月にかけて集中的なキャンペーンを実施している。

3月には、「無期転換ルールの本格適用に向けた周知啓発キャンペーン」の取組をプレスリリースするとともに、関係機関・団体に対し、メールマガジン等を利用した社内制度の好事例などを含む周知用資料の配信を依頼した。

4月19日には、大阪労働局主催のセミナーを開催し、無期転換ルールについての説

明と個別相談会を実施した。

5月22日には、連携協定を締結した金融機関との共催により、無期転換ルールと社内制度の好事例についての説明とキャリアアップ助成金に関するセミナーを開催した。

(5) 「働き方改革推進企業」制度創設の検討

11 「働き方改革推進企業」の顕彰・動機づけ制度創設に向けた検討」を参照

2 労働生産性向上等を通じた、超過勤務の削減等職場環境の整備

基本方針及びロードマップにおいて、「長時間労働実施事業場に対する監督指導や捜査」「トラックやバス等自動車運転者の労働時間短縮のための施策の実施」、「下請たたきに対する通報制度の励行」、「有給休暇の取得促進」、「金融機関を通じた職場意識改善助成金の浸透」を行うこととしている。

(1) 長時間労働実施事業場及び企業に対する監督指導や捜査など

平成 28 年度より、月 80 時間を超える時間外・休日労働を行う事業場に対して監督指導を実施しているところである。平成 28 年度は、1,755 件の監督指導を実施し、所要の指導を行った。

平成 29 年度も平成 28 年度と同様の方針で長時間労働を行っている事業場に対する監督指導を実施する。

過重労働の見られる事案のうち、特に重大悪質なものについては司法処分により厳正に対処することとしているところである。平成 28 年度長時間労働事案 14 件を検察庁に書類送検し、このうち、2 事案については、過重労働撲滅特別対策班が捜査を行った。

さらに、違法な長時間労働等を複数の事業場で行うなどの企業に対する全社的な是正指導の実施、是正指導段階での企業名公表について積極的に取り組む。

また、過労死等のリスクが高い状況にある労働者を見逃さないため、月 100 時間超の時間外・休日労働を行う労働者の情報等を事業者が産業医へ提供することを義務化する産業医制度の充実等について、金融機関を通じた広報を行うとともに、リーディングカンパニー訪問、集団指導、監督指導、個別指導を通じて労働者 50 人以上の事業場に指導を行う。

(2) トラックやバス等自動車運転者の労働時間短縮のための施策

12 「運輸事業における取組」を参照

(3) 下請たたきに対する通報制度の励行

下請企業や運送会社では、発注者や荷主によるいわゆる下請たたきが要因となり、長時間労働が発生している現状がある。これを防止するため、大阪労働局では、労働基準法令違反が認められ、当該違反の背景にいわゆる下請たたきに当たる行為が存在している恐れのある事案を把握した場合に、トラック輸送業者を含む下請事業者等の意向をふまえて、公正取引委員会又は経済産業省に当該事案を通報することとしている。

現在、通報に沿った制度運用を行うこととしているものの、これまでのところ通報の実績はない。通報要件を満たす事案が確実に通報されるよう、労働基準監督官に対する意識付けを繰り返し実施しており、平成 29 年 1 月 23 日には、公正取引委員会よ

り講師を招き、中堅監督官を対象に当該通報制度の研修を実施した。

各労働基準監督署の監督官が監督指導の実施時に通報制度の周知を行った事案は 25 件（平成 28 年度の第 3 四半期）となっている。

（4）建設業

建設業については、適正な工期設定や適切な賃金水準の確保、週休 2 日の推進等の休日確保など、民間も含めた発注者の理解と協力が不可欠であることから、発注者を含めた関係者で構成する協議会の設置、制度的な対応を含めた時間外労働規制の適用に向けた必要な環境整備、あわせて業界等の取組に対する支援措置の実施など、厚生労働省での検討を注視しつつ、今後対応する。

（5）有給休暇の取得促進

新成長戦略（平成 22 年 6 月 18 日閣議決定）において、2020 年までに年次有給休暇の取得率を 70%とすることが目標とされているが、大阪の年次有給休暇の取得率はここ 10 年ほど 50%前後で推移しており、平成 27 年では 49.9%（全国 47.6%）となっている。

また、年次有給休暇は、労働者が心身の疲労を回復し、ゆとりある生活を送るために必要な制度であるが、取得率の状況から十分に活用されていない。

大阪労働局では、平成 28 年度ゴールデンウィークと夏季期間中の連続休暇の実施状況について府内 400 社を対象に通信調査を行いその結果を広報したほか、夏季・年末年始や年次有給休暇取得期間（10 月）を中心に、年次有給休暇の計画的活用とプラスワン休暇について広報し、年次有給休暇の取得促進のための啓発に取り組んだ。

今後は、連携金融機関に対して、働き方・休み方改善ハンドブックを配布する等により、中小零細企業に対する働きかけに取り組んでいく。

また、是正指導については、労働者が年次有給休暇を請求できる環境に置かれずに実質的に請求権を侵害していると認められる事業所に対しては積極的に是正指導を実施しており、平成 28 年 4 月から 12 月までに 27 件の指導を行っている。

（6）金融機関を通じた職場意識改善助成金の浸透

10 「金融機関との連携」を参照

3 高齢者及び障がい者の雇用の促進

基本方針及びロードマップでは、「高齢者の雇用の推進」、「障がい者の雇用の推進」及び「OSAKAしごとフィールドにおける就業支援のハローワークとの一体的実施の強化」を行うことになっている。

(1) 高齢者の雇用の推進

高齢者の雇用推進については、「ニッポン一億総活躍プラン」の中で「生涯現役社会を実現するため、雇用継続の延長や定年引上げに向けた環境を整えるとともに、働きたいと願う高齢者の希望を叶えるための就職支援を充実する必要がある」とし、施策推進のため、平成28年10月19日に「65歳超雇用推進助成金」を創設して就労環境を整備したほか、平成29年1月1日から65歳以上の労働者を雇用保険の適用対象としたところである。そのような中、大阪労働局では平成28年度からハローワーク大阪東、ハローワーク梅田に設置した「生涯現役支援窓口」を中心に高齢者への就職支援に取り組むと共に、各ハローワークにおいて「高年齢者が応募しやすい求人」(以下「Y60求人」という。)の確保に取り組み、確保した求人については各所の求人情報提供パソコンにおいて、「Y60求人」用の検索ボタンを設定し、その情報提供(見える化)に努めてきた(後掲 ハローワーク梅田の取組事例)。

また、大阪府が策定した平成28年度大阪府高年齢者就業機会確保計画に基づき、大阪府が中心となり運営する大阪府高年齢者就業機会確保地域連携協議会に協力し、協議会が行う平成28年度生涯現役促進地域連携事業(以下「地域連携事業」という。)において、高年齢者の就業機会の確保に取り組んでいる。

(ア) 取組の成果

大阪労働局では、「65歳超雇用推進助成金」の周知に関し、「10 金融機関との連携」にて後述する「働き方改革・助成金勉強会」において、金融機関の職員により助成金制度について周知啓発されるような連携が図られた。

(イ) 今後の取組

大阪労働局では、これまでの取組に加え、年齢に関わらず働きたいと希望する高齢者への就職支援強化を図るため、ハローワーク大阪東、梅田の2所に設置している「生涯現役支援窓口」について、平成29年度からハローワーク阿倍野、堺、茨木、門真にも増設し更なる支援強化を図ることとした。

また、大阪府における平成29年度以降の新たな高年齢者就業機会確保計画及び当該計画に基づく地域連携事業の実施について引き続き必要な協力を行うと共に、大阪府を含めた地方公共団体が「生涯活躍のまち(日本版 CCRC)」に取り組む場合にあっては、地方公共団体と調整のうえ必要な連携を図る(例えば既に取組を進めている北大阪健康医療都市(愛称:健都)における「生涯活躍のまち」(健都版 CCRC)の取組において、全国ネットワークを活かして、U・I・J ターンも含めた高齢者の就労促進に係る連携を図る等)。

(2) 障がい者の雇用の推進

民間企業における法定雇用率は2.0%と定められているが、平成28年6月1日現在の大阪における障害者雇用状況を集計した結果、法定雇用率達成企業割合は、45.3%と、平成27年の44.0%より1.3ポイント上昇したものの、平成27年に引き続き東京都に次いで全国ワースト2位で、未達成企業数は3,945社となっている。

(ア) 「障害者雇用に関する事業主指導ローラー作戦」について

障がい者雇用の推進をより一層強化するため、「大阪働き方改革にかかる今後の基本方針」と連動した障害者雇用率達成指導についての通知文を平成28年11月に発出し、平成30年6月1日現在の雇用状況報告において、法定雇用率（現行雇用率の2%として）達成企業割合が50%以上（見込みとして約350社の達成企業数の増加が必要）となるよう目指し、ハローワークの所長を筆頭に幹部職員で障害者雇用率未達成企業すべてに対し、達成指導を行うためのローラー作戦を実施している。

(イ) 取組の成果

障がい者雇用の周知・啓発が重要であることから、事業主向け「障害者雇用のすすめ」のリーフレットを作成し、事業所訪問時の配布資料として活用するほか、労働局内での連携した取組として、労働基準部、労働基準監督署の協力を得て、ハローワークとの接触が少ない事業所に対しても同様に周知・啓発を実施している。

当面の目標として、平成29年5月末までの訪問計画を2,377社とし、平成29年3月末現在において2,125の達成指導を実施し、その結果、111社の未達成企業を達成企業へと導けた。

(ウ) 今後の取組

大阪労働局は、ローラー作戦で現況を把握した結果、障がい者雇用が進んでいない企業等の雇用機会の拡大を図るため、今秋開催予定の「障害者就職面接会」の参加企業数を昨年の84社から120社と大幅に拡大させ、一人でも多くの障がい者の雇用促進に努めるとともに、法定雇用率達成企業割合の向上を目指していく。また、各ハローワークにおいても、達成指導を実施していく中で、求人の受理や事業所ニーズに応じた面接会・管理選考等を実施し、障がい者の雇用の促進に努める。

また、難病患者に対する就職支援については、平成29年度よりハローワーク大阪東所以外にハローワーク堺にも難病患者就職サポーターを配置し、難病患者への専門的な相談支援や大阪難病相談支援センター等との連携を図ることにより、難病患者の雇用の促進に努める。

(3) OSAKAしごとフィールドにおける就業支援のハローワークとの一体的実施の強化

OSAKAしごとフィールドは大阪府と大阪労働局が若者、中高年者、障がい者等への総合的な就業支援等を行うための一体的実施施設であり、大阪労働局は大阪東ハ

ローワークコーナーを設置し、OSAKAしごとフィールドの利用者に対する求人情報提供、職業相談・職業紹介及び職業訓練に関する相談を実施している。

高齢者への就職支援については、大阪府がキャリアカウンセリング、面接特訓、ワンポイントコーナーでの各種相談、セミナー等を実施し、ハローワークコーナーはハローワーク大阪東の高齢者窓口と連携しながら職業相談・紹介等による就業支援を実施している。

障がい者への就職支援については、これまで、ハローワークコーナーに毎週金曜午後、ハローワーク大阪東の障害者専門職業相談員を配置し、大阪府の支援（カウンセリング、職場体験・実習、セミナー等）により就職準備性が高まった障がい者に対する予約制による職業相談を実施していた。

大阪府は平成29年5月8日にOSAKAしごとフィールドをリニューアルし、カウンセリング機能の強化や新たな支援手法の開発など、大阪府の専門的な支援を強化している。

リニューアルを機に、ハローワークコーナーでは、高齢者に対する担当者制による個別支援と大阪府の専門的な支援を協働させた効果的な就業支援の実施や障害者の職業相談を予約制から随時対応に変更するなど、一体的実施の強化を図っている。

以上のように大阪労働局としては、高齢者及び障がい者の雇用を推進していくが、その他「ニッポン一億総活躍プラン」でも記載されているとおり、あらゆる人材が社会参加しやすい環境づくりの取組を推進する。

中でも、刑務所出所者等の就労支援については、法務省・関係団体と連携を行い、ハローワーク職員が刑務所等を訪問の上、在所中から職業相談・職業紹介等を実施し、出所前の採用内定、出所後の就労による自立に向けた取組を行っている。

今年度から刑務所出所者等就労支援事業に係るトライアル雇用助成金の対象が満期釈放者等にも拡充されたことから、その活用を促進していく。

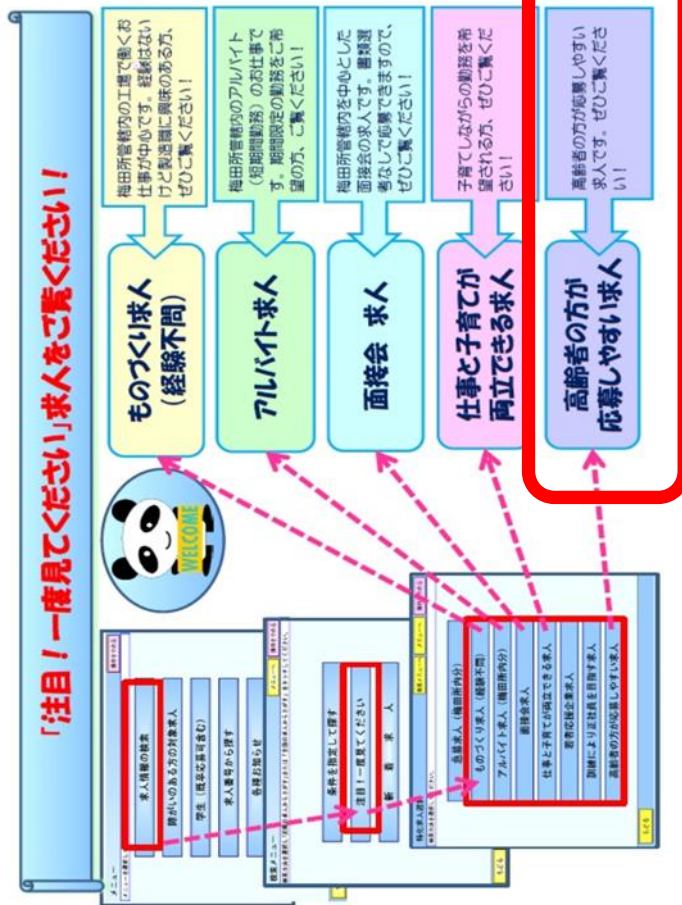
なお、出所後の帰住地が大阪だけでなく他府県になる者もいるため、ハローワークが全国ネットで受理した受刑者等専用求人をはじめ、現在、人材不足になっている分野への働きかけなど、法務省所管の矯正就労支援情報センター室（通称：コレワーク）と連携を図り、就職率の向上を目指す。

お知らせ情報表示

操作をやめる

「すすむ」をタッチしてください。画面をタッチすると、拡大／縮小されます。

2 / 3



高齢者が応募しやすい求人
の取組事例 (ハローワーク梅田)

もどる

すすむ

4 女性の活躍促進

基本方針では、「子育てをしながら働くことのできる環境整備」「ママの就活応援キッズ安心事業（仮称）の創設」「女性の就業環境の整備・意識改革」「女性の活躍促進企業の推進」「OSAKAしごとフィールド等を軸とした女性の就業支援」が挙げられている。ロードマップでは、「えるぼし・くるみん認定企業に対する公共調達における評価の仕組みの導入」及び「OSAKAしごとフィールド」における就業支援のハローワークとの一体的実施の強化」が挙げられている。

また、基本方針及びロードマップでは「高校生・大学生への女性就業率向上のための職業教育」を推進することとなっている。

(1) 子育てをしながら働くことのできる環境整備

大阪労働局においては、「事業所内保育施設設置・運営等助成金」により、従業員の
お子さんを預かる保育施設の設置、運営などの費用を助成している。平成28年度から、
内閣府が行っている「企業主導型保育事業」により、事業所内保育施設の設置・運営
を行う事業主を助成していることから、新規設置・運営計画の認定申請受付を停止し
ているが、平成28年3月31日までに運営を開始した施設に係る運営の費用については
引き続き助成していくとともに、申請の際には、保育士の適正な配置について指導を
行う。

また、新規設置の相談等に対しては、企業主導型保育事業へ円滑に誘導できるよう、
大阪府との連携を図っていく。

(2) 女性の就業環境の整備・意識改革

平成28年4月の女性活躍推進法の施行により、301人以上の企業に一般事業主行動
計画の策定届出義務が課せられたことから、義務企業を中心に、女性活躍推進法で定
められている行動計画策定・届出の指導や、女性が働きやすい職場環境の整備を促し、
平成29年2月末現在1,494件の届出（うち義務企業1,419件、努力義務企業75件）
が得られた。

大阪において、多くの企業が女性が活躍できる環境を整備し、女性活躍推進の取組
が進むために、大阪労働局は「OSAKA女性活躍推進会議」（平成27年7月発足）
の構成員として、9月の「女性活躍推進月間」（大阪府主催）を中心に、女性活躍推進
に関する機運の醸成のための記念イベントやシンポジウムの開催、構成員団体が行う
事業主向けの女性活躍推進に関するセミナーへの講師派遣、事業主及び女性労働者等
を対象とする労働相談会などを行った。また、大阪市の「大阪女性きらめき応援会議」

（平成28年3月発足）の構成員として、8月の「大阪市ワーク・ライフ・バランス推
進月間」（大阪市主催）中に、女性活躍の取組が進んでいる企業の事例紹介などを内容
とする「働き方改革セミナー」を開催した。

また、大阪労働局では、局幹部による地域・業界のリーディングカンパニー訪問の際に女性の状況を把握し、女性活躍推進のための取組について、56社（平成29年2月末現在）に対して要請しているが、リーディングカンパニー訪問時に女性活躍推進の取組状況を確認したところでは、ほとんどの企業が女性活躍推進について何らかの取組を行っている。

事例として、

- ・20年以上前から男女の働き方の見直しを行い、女性が働き続けられる職場づくりに取り組んできた結果、女性の割合が半数を超え、リーダー職の女性も増加した
 - ・3～4年前から女性の技術職採用を開始し、現場勤務の女性が増加した
 - ・更衣室やシャワー室を設置し、女性運転手の採用に力を入れている
- といった取組等、大企業では女性活躍推進の取組が着実に進んでいることがうかがえる。

リーディングカンパニーなど、女性活躍推進の取組にすでに着手し成果を上げつつある企業もあるが、今後は中小企業における取組の推進が重要であり、そのためには、地域レベルできめ細かな取組が必要である。平成28年6月29日にはハローワーク布施・東大阪市・東大阪商工会議所が連携して「モノづくり女子と企業を結ぶセミナー&ミニ面接会・説明会」(のべ148名参加)を開催したが、これは、事業主に対しては、製造現場に新たに女性を採用・配置するために知っておくべき均等法等の労働法制や、女性が働きやすい環境整備の後押しとなる女性活躍加速化助成金を知ってもらう場として、また、女性求職者に対しては、製造現場は機械化・省力化が進み、女性が働きやすい環境が整いつつあるといった実態を知ってもらう場として、大阪労働局・地方公共団体・事業主団体が連携して事業を行った。

ここで行ったアンケート調査の結果、女性がものづくり企業に就職することに不安を覚える割合が8割に達することが判明した。求人者も漠然と求人を出すのではなく、女性にとって魅力ある職場作りを心がけるとともに、その取組を「見える化」していくことが重要である。ハローワークや労働基準監督署は、こういった企業の取組を指導したり支援することを強化する。まずは、東大阪労働基準監督署とハローワーク布施が、金融機関や大学と連携して東大阪地域のものづくり企業を支援する体制作りを行う(10(4)参照)。

このような製造業が多いなどといった地域の特性を活かした女性活躍推進の取組を、今後、大阪府下全域に拡大させていく。

地域レベルでの、中小企業における取組を一層進めるため、今後は10で後述する「働き方改革にかかる包括連携協定」を締結した金融機関の支店も含めた、ハローワーク、労働基準監督署との連携による事業を進め、女性活躍推進の取組を地域レベルに広げていく。

また、女性が活躍するためには、女性を部下に持つ管理職の意識啓発が重要である。平成29年度は、管理職に対する意識改革として、平成29年4月19日に労働局主催セ

セミナーにおいて、人事労務担当者に対し、女性労働者を部下に持つ管理職に対する研修の重要性を説明し、社内での自主的な取組を促したところであり、5～6月にかけて金融機関と連携し開催するセミナーでも社内研修の取組を促す。併せて大阪府や大阪市及び関係機関等と連携した事業を行うことがより一層効果的であることから、9月の「OSAKA女性活躍推進月間」に合わせた労働局主催セミナー（9月1日）において、参加者に対して管理職研修の重要性の説明と、社内での自主的な研修の実施を促す。また、「OSAKA女性活躍推進会議」の構成団体と連携し、女性を部下に持つ管理職に対する研修を行う。

女性労働者自身が管理職としてのキャリアアップを目指すことも重要であり、大阪労働局では、前述のセミナー等で人事労務担当者に対し、役職員候補段階の女性を対象とするリーダー育成研修の取組を、リーディングカンパニー訪問時、無期転換ルール等の説明会、金融機関と連携して開催するセミナー等において促すと共に、「OSAKA女性活躍推進会議」の構成団体と連携し、女性リーダー育成研修等を実施する。また、(6)で後述する女子学生等を対象とした「労働法制セミナー」において、女性が就業前から長期的なキャリア形成のプランを描き、将来管理職として働き続けるイメージを持てるよう、意識改革のための研修を行う。

(3) 女性の活躍促進企業の推進

企業が女性活躍推進の取組を進め、「えるぼし」等の認定を目指すためには、女性活躍推進の取組についてモデルとなる先進企業の事例を参考にすることも効果的であり、大阪労働局では、平成28年8月2日の「働き方改革セミナー」において「えるぼし」認定を受けた企業の事例を、12月16日の「働き方改革セミナー」では、均等推進企業として厚生労働大臣の表彰を受けた企業の事例を紹介した。

また、基本方針策定後は「えるぼし（3段階目）」認定企業に対し、認定通知書交付式を行ったところ、業界紙に掲載されるなどの反響があった。

これらの取組に加えて、「えるぼし」「くるみん」等認定企業や、働き方改革の取組に優れた企業を対象とした面接会や説明会（「拡大R.M.B with「くるみん」認定企業」（平成28年9月28日 162名参加）、「若者・女性の活躍とワークライフバランスを推進する企業の合同説明会」（12月15日 117名参加）、「大学生等就活フェア2017」（平成29年3月9日 155名参加）を開催し、来場者に対して認定制度や認定企業のPRを行った。

大阪労働局では、多くの企業が「えるぼし」「くるみん」等の認定を目指す動機づけとなるよう、金融機関に対して優遇措置の構築を積極的に働きかけており、平成28年12月には全国初の取組として、「働き方改革にかかる包括連携協定」を締結した池田泉州銀行が、厚生労働省が認定する「くるみん」「プラチナくるみん」「えるぼし」「ユースエール」の認定企業と雇用関係助成金受給企業等に対する融資金利の優遇制度を開始した。

さらに、平成 29 年 4 月には、大阪信用金庫が「くるみん」「プラチナくるみん」「えるぼし」「ユースエール」の認定企業と大阪市女性活躍推進企業認証企業に対して融資金利を優遇する「働き方改革支援融資『いきいき』」の取り扱いを開始した。

女性活躍推進法に基づく「えるぼし」、次世代育成支援対策推進法に基づく「くるみん」「プラチナくるみん」認定を受けた事業主は、女性活躍や子育てサポート優良企業として対外的にアピールできるほか、平成 28 年度からは、各府省等が行う総合評価落札方式又は企画競争方式による公共調達を実施する場合に、「えるぼし」「くるみん」などの認定企業や、女性活躍推進法に基づく行動計画の策定・労働局長への届出を行った 300 人以下の中小企業が加点评価される仕組みが始まっている。

今後は、さらに融資金利の優遇制度が他の包括連携協定を締結した金融機関において広がるよう、働きかけを行っていく。また、より多くの企業が認定に向けて取り組むよう、認定申請を検討している企業に対しては個別に指導援助を行うほか、金融機関とも連携して、認定制度の説明会の開催や、認定企業等を対象とした面接会・説明会の開催等を通じ、公共調達における加点评価等、認定取得によるメリットの周知を行うことによって、認定取得や働き方改革の取組に積極的に取り組む企業の増加を目指していく。

(4) えるぼし・くるみん認定企業に対する公共調達における評価の仕組みの導入

平成 27 年に成立した女性活躍推進法の第 20 条第 1 項では、国は、公共調達において、女性活躍推進法に関する取組の実施状況が優良な一般事業主（以下「認定一般事業主等」という。）の受注の機会の増大その他の必要な施策を実施することとされ、同条第 2 項では、地方公共団体は、国の施策に準じて、必要な施策を実施するように努めることとされた。

この規定に基づき平成 26 年 10 月 3 日の閣議決定により設置されていた「すべての女性が輝く社会づくり本部」（本部長：内閣総理大臣）において、平成 28 年 3 月 22 日に「女性の活躍推進に向けた公共調達及び補助金に関する取組指針」（以下「取組指針」という。）が決定された。

認定一般事業主に対する公共調達における評価の仕組みの導入については、認定一般事業主等の発注先候補となる機会の増大を図るため、大阪労働局ホームページの改正（認定制度のサイトにおいて、厚生労働省ホームページ（公共調達情報）への案内を追記）を行ったほか、平成 29 年度総合評価落札方式における調達において評価の仕組みの導入を行った（平成 29 年 4 月 3 日現在、総合評価落札方式 7 事業のうち 4 事業で応札したくるみん認定事業所、えるぼし認定（行動計画）事業所に対し加点、うち 2 事業でえるぼし認定（行動計画）事業所が落札）。また、見積もり合わせ（少額随意契約等）への参加を促すため、認定一般事業主等の業種別企業リストを作成の上、各企業の取扱商品・業務内容等の精査を行ったところであり、今後発注の機会に見積もり合わせへの参加を要請する予定である。

事業主等に対して、公共調達における優遇措置を周知するため、大阪労働局ホームページの認定制度のサイトに記事を掲載し、厚生労働省（公共調達情報）へリンクさせた。

また、事業主に対し一般事業主行動計画策定の勧奨を行う際や、えるぼし、くるみんの認定に係る相談及び認定時にはリーフレットを配布し、優遇措置の周知を行っている。

さらに、地方公共団体に対し、国に準じた施策を実施するよう働きかけるため、大阪府に働きかけを行い、平成 29 年 4 月 24 日、大阪府及び各市町村の商工労働施策担当者に対し、また局内の連携を図り、平成 29 年 4 月 26 日、大阪府及び各市町村の男女共同参画行政所管課長に対し説明を行った結果、両日併せて 39 地方公共団体に説明することができた。また、平成 29 年 9 月ごろに大阪府及び各市町村の契約事務担当者に対しても説明を行う予定で調整を進めている。

(5) 「OSAKAしごとフィールド」における就業支援のハローワークとの一体的実施の強化

OSAKAしごとフィールドは大阪府と大阪労働局が若者、中高年者、障がい者等への総合的な就業支援等を行うための一体的実施施設であり、大阪府は保育スペースを併設した就活と保活のためのワンストップコーナーを設置し、大阪労働局は大阪東ハローワークコーナーを設置し、求人情報提供、職業相談・職業紹介及び職業訓練に関する相談を実施している。

ハローワークコーナーでは、大阪府がOSAKAしごとフィールドで実施している子育て女性向け支援の対象者に対して、担当者制による個別支援等、きめ細やかな就職支援を実施し、紹介就職に繋げている。併せて、OSAKAしごとフィールドで女性向けの企業面接会・セミナー等のイベントが実施される場合、ハローワークコーナーでイベント内容にあった求人票の冊子を用意し、参加者に配布することで、ハローワークコーナーの利用勧奨に取り組んでいる。

また、大阪労働局が「OSAKAしごとフィールド女性活躍支援ネットワーク会議」の構成員となるなど、OSAKAしごとフィールド関連事業へ積極的に協力している。

大阪府は平成 29 年 5 月 8 日にOSAKAしごとフィールドをリニューアルし、カウンセリング機能の強化や新たな支援手法の開発など、大阪府の専門的な支援を強化している。また、6 月には施設内に開設する民間保育所と連携し、就職活動時の一時保育だけでなく、就職後の保育にも対応できるようになる（ママの就活応援キッズ安心事業（仮称）。第 2 章大阪府の取組参照）。

リニューアルを機に、ハローワークコーナーでは、担当者制による個別支援と大阪府の専門的な支援を協働させた効果的な就業支援を実施し、女性に対する就業支援の強化を図っている。

さらに、大阪府が大阪労働局他関係機関と連携して実施する製造・運輸・建設分野

を中心とした「働き方改革」の促進においては、主な対象者を女性、若者としており、大阪労働局は就職面接会等を実施し、人材不足分野企業の人材確保に努める。

大阪市と大阪労働局との一体的実施事業である「しごと情報ひろば」の3拠点（西淀川、天下茶屋、平野）においては、担当者制による個別支援などのきめ細やかな支援を実施しており、今後も大阪市、区役所と連携し、女性の就職支援に取り組んでいく。

また、大阪マザーズハローワーク、ハローワークプラザ難波女性活躍応援コーナーが、大阪府と連携したセミナーを昨年12月、大阪市と連携したセミナー・面接会を本年1月に開催した。地方公共団体と連携することにより、地下鉄の中吊広告や地方公共団体の広報紙、公共施設でのチラシ配布等を活用することができたため、より効果的な広報が可能となった。セミナーの参加者からは、「出産・育児でブランクを抱えていたが、セミナーを受けて、仕事をしていた時の感覚を取り戻すことができた。」「再就職に向けて自信がついた。」等の感想をいただいたところである。今年度においても、5月に大阪市と連携したセミナー・面接会を実施するなど、引き続き大阪府、大阪市と連携した女性の就職支援に取り組んでいく。

(6) 高校生・大学生等に対する職業教育・労働教育（労働法制セミナー）

大阪労働局は、大阪の女性就業率に関して、いわゆる「M字カーブのへこみ」が、全国平均よりも鮮明に現れている原因を分析している過程で、子育て期の女性の就業率と強い因果関係を有する要素を発見した。それが「30～44歳の女性1000人に対する保育所定員」であった。これを横軸に、30～44歳の女性の就業率を縦軸にして、都道府県ごとに座標をとると、相関係数が0.7の相関直線が現れた。この相関直線を基礎として、女性就業率の高低の原因を科学的に分析することが可能となった。この相関直線を下回って女性就業率が低いグループをみると、大阪を含む近畿2府4県が全てこのグループに含まれていた。その原因は、性別役割分担意識など子育て期の女性の就業意欲や男性の家事参加意欲の低さに求められると考える（詳細について、大阪労働局のホームページ参照

<http://osaka-roudoukyoku.jsite.mhlw.go.jp/library/osaka-roudoukyoku/H29/press/4/2904-2.pdf>）。

このため、大阪を含めた近畿ブロックにおいては、高校生、大学生の頃から、社会活動や家事への男女共同参画の意義を含めた職業教育、労働教育が特に重要である。

女性就業率向上のため、大阪労働局では、幹部職員が、高校生、短大生、大学生だけでなく専修学校生まで対象を広げて、社会に参加することの意義を含む職業教育や、労働者の権利及び働くルールなどの労働教育、イクメンなどの家事への男女共同参画の啓発などを、積極的に実施することとしている。

取組の成果及び今後の展開については、「1 非正規雇用労働者の待遇改善（3）労働法制セミナー」を参照。

また、セミナーの受講生からは、

- ・これから世の中に出るにあたって、社会の厳しきや労働法制について真剣に学ぶことが大切だと思った。
 - ・育児休業の他にも、看護休暇などもあるということを知ることができたので、今後役に立てたい。
 - ・男女雇用機会均等法の内容について知ることができてよかった。
 - ・親が最近、監督署に相談に行ったという話を聞いていたので、今回労働法に関する話が聞けて、理解ができたのでよかった。
 - ・36協定が重要であることがわかった。
- などの感想を頂いている。

5 若者の活躍促進

基本方針及びロードマップにおいては、「就労型インターンシップ事業の実施を検討」「ユースエール認定企業に対する公共調達における評価の仕組みの導入及びユースエール認定一般事業主対象合同就職面接会開催」「OSAKAしごとフィールドにおける就業支援のハローワークとの一体的実施の強化」を行うこととしている。

また、基本方針では「働き方改革推進企業」制度の計画的構築を行う、ロードマップでは「高校生・大学生等に対する職業教育」を実施することとなっている。

大阪の雇用環境において、若者層の東京圏への流出が大きな課題となっており、安定就職を目指す若者が、大阪府内の優良中小企業に就職することが極めて重要となっている。若者が安心して中小企業で働けるようにするために、若者雇用促進法に基づくユースエール認定企業などの普及促進や、わかものハローワーク、新卒応援ハローワーク等での職業相談・職業指導を効果的に推進しているところである。併せて企業側に対する支援強化として、「働き方改革推進企業」制度創設に向けた検討や、認定企業に対する公共調達での加点評価の実施等を進めている。

(1) 「若者に対する就労型インターンシップ」の実施について

現在、本モデル事業に参加する大学について関西学生就職指導研究会を通じて募集を行っている。既に参加を決定している大学もあるが、他にも参加の意向や興味を示す大学も多く、現在、参加意向確認を各大学に行っているところである。

一方、受入企業については、建設業で大阪初となるユースエール認定企業のほか、えるぼし認定企業等の数社が本モデル事業への参加を表明しているが、より多くの学生が参加できるように更なる受入企業の拡大を図っている。大阪労働局が実施する本モデル事業については、インターンシップ本来の目的である職業理解に効果が見込めるとして大学側の期待も高い。これらの点を踏まえると、雇用管理が優良である企業の参加が望ましいことから、現在「えるぼし認定企業」、「くるみん認定企業」及び「プラチナくるみん認定企業」並びに「ユースエール認定企業」等の認定一般事業主及びこれに準じた雇用管理が優良な企業を中心に募集を行っている。

同時にモデル事業としての検証方法等を含む具体的なスキームの構築を図り、本年夏季休暇中の実施に向けて関係機関との調整を進めているところである。

なお、本事業は実際に雇用関係により実施されるものであり、ハローワークや労働基準監督署が関与することが可能で、運営の適正化がより図られるものである。

また、昨年度、ハローワーク河内柏原（現：ハローワーク藤井寺）において、若者サポートステーション利用者の就労型職場体験実習を実施し、就職に結びつけ、本人をはじめ、関係者から好評を得た。そのノウハウを活用し、引き続きハローワークにおいて、就労型職場体験実習の本格実施を目指す。

- (2) 認定一般事業主に対する公共調達における評価の仕組みの導入について
- 4 (4) 「えるぼし・くるみん認定企業に対する公共調達における評価の仕組みの導入」を参照
- (3) 「働き方改革推進企業」制度創設の検討
- 11 「「働き方改革推進企業」の顕彰・動機づけ制度創設に向けた検討」を参照
- (4) 「OSAKAしごとフィールド」における就業支援のハローワークとの一体的実施の強化
- OSAKAしごとフィールドは大阪府と大阪労働局が若者、中高年者、障がい者等への総合的な就業支援等を行うための一体的実施施設であり、大阪労働局は大阪東ハローワークコーナーを設置し、求人情報提供、職業相談・職業紹介及び職業訓練に関する相談を実施している。
- ハローワークコーナーでは、OSAKAしごとフィールドのカウンセリングや若者サポートステーションで支援を受けた若年求職者に対して、担当者制による個別支援等、きめ細やかな就職支援を実施し、紹介就職に繋げている。併せて、OSAKAしごとフィールドで若者向けの企業面接会・セミナー等のイベントが実施される場合、ハローワークコーナーでイベント内容にあった求人票の冊子を用意し、参加者に配布することで、ハローワークコーナー利用勧奨に取り組んでいる。
- 大阪府は平成29年5月8日にOSAKAしごとフィールドをリニューアルし、カウンセリング機能の強化や新たな支援手法の開発など、大阪府の専門的な支援を強化している。
- リニューアルを機に、ハローワークコーナーでは、担当者制による個別支援と大阪府の専門的な支援を協働させた効果的な就業支援を実施し、若者に対する就業支援の強化を図っている。
- さらに、大阪府が大阪労働局他関係機関と連携して実施する製造・運輸・建設分野を中心とした「働き方改革」の促進においては、主な対象者を女性、若者としており、大阪労働局は就職面接会等を実施し、人材不足分野企業の人材確保に努める。

(5) 高校生・大学生等に対する職業教育・労働教育（労働法制セミナー）

労働者の関係法令の不知による問題事案の発生を未然に防止する等のため、大阪労働局では、幹部職員が、高校生、短大生、大学生だけでなく専修学校生まで対象を広げて、労働者の権利及び働くルールなどの労働教育を積極的に実施することとしている。

取組の成果及び今後の展開については、「1 非正規雇用労働者の待遇改善（3）労働法制セミナー」を参照。

また、セミナーの受講生からは、

- ・これから社会人になるので、労働基準法などについて詳しく説明してもらって助かった。
- ・自分たちがアルバイトする中で、知らないこともあり、大人の方は何も教えてくれないので、とても勉強になりました。
- ・様々なトラブルを知ることができたと同時に、自分が『おかしい』と感じたことはため込まず、相談等をするべきだと思った。
- ・私がアルバイトをしていた時に、あてはまるトラブルの事例について説明をしてくれたので、とてもわかりやすかった。
- ・割増賃金がアルバイトにも適用されると思わなかったなので、勉強になった。などの感想を頂いている。

(6) その他

大阪の中小企業には、世界一・日本一の技術や製品をもつものづくり企業が多数存在しているが、学生や若者の認知度が低く、人材確保に苦慮している状況があった。ハローワーク梅田では、平成27年3月にそのような世界一・日本一企業21社を集め、合同企業説明会「Made in 大阪はすごい！世界一・日本一企業集まる！！」を開催し、中小企業を広く周知した。結果、500名を超える学生や若者が参加し、関心度の高さがうかがえた。また、マスメディアにも大きく取り上げられ、参加企業からは、再開催を求める声が多くあった。このようなニーズに応えるため、大阪労働局・ハローワークは、「Made in 大阪はすごい！世界一・日本一企業集まる！！」の年度内開催を目指し、中小企業の魅力発信、中小企業への若者の正社員就職促進を図る。

6 最低賃金引上げのための環境整備

基本方針及びロードマップにおいて、大阪労働局は、最低賃金審議会での審議を踏まえた上で、適正な最低賃金額の引上げと、その履行確保に尽力すること及び最低賃金引上げのために中小企業・小規模事業者が取り組む生産性向上等に対する支援策の利活用を促進することとしている。

(1) 「履行確保」について

「履行確保」には、最低賃金の周知と個別企業への指導等がある。

(ア) 「最低賃金の周知」については、官報公示後、速やかに大阪府、府内地方公共団体の広報誌等へ改定された大阪府最低賃金額の掲載を求めるなど、労働者・使用者を含む府市民に広く最低賃金制度の周知を図るとともに、使用者団体、労働団体、中小企業団体等に協力を求めて、労使への周知に取り組む。また、こうした従来からの取組に加えて、平成 28 年度に金融機関と締結した働き方改革にかかる包括連携協定に基づき、中小企業等と密接な関係を有する金融機関の協力等も得て、効果的な周知に取り組む。

(イ) 「個別企業への指導等」については、第 4 四半期（1 月～3 月）に最低賃金の履行確保をはかるための監督指導を集中的に実施する。監督指導に際しては、各種の統計、情報等に基づき、最低賃金の引上げの影響が高い中小企業・小規模事業者を選定するなどその履行確保の実効性を高めていく。

(ウ) 中央最低賃金審議会、大阪地方最低賃金審議会の答申において「行政機関が民間企業に業務委託を行っている場合に、年度途中の最低賃金額改定によって、委託先における最低賃金の履行確保に支障が生じることがないように、発注時において特段の配慮が行われること。」が要請されたことを踏まえ、発注者となる大阪府内の地方公共団体に対して、平成 28 年 10 月に配慮要請を実施するとともに、大阪府、大阪市、堺市ほかの地方公共団体との意見交換の機会を設け、引き続き、最低賃金の順守に関する情報交換を進めていく。このほか、平成 29 年度以降に大阪府内の地方公共団体に対して「大阪労働局の公共調達に関する実施状況等」の説明を予定しており、当該説明会において、最低賃金の順守に関する取組について要請を行う。

(2) 「最低賃金引上げのために中小企業・小規模事業者が取り組む生産性向上等に対する支援策の利活用の促進」については、監督指導等の機会に加えて、働き方改革にかかる包括連携協定を締結した金融機関の職員を通じて「業務改善助成金及び業種別中小企業団体助成金」の利活用の促進を図っていく。このほか、近畿経済産業局等他行政機関の中小企業支援策に関する情報収集を行い、当該支援策関連資料の相互提供と周知協力を進めている。既に収集した資料については、平成 28 年度最低賃金の履行確保に係る監督指導等の機会を活用して、中小企業・小規模事業者等に提供している。

7 ワーク・ライフ・バランスの実現

基本方針及びロードマップでは「各業界トップ企業への働きかけの強化」、「働き方改革宣言企業の募集」、「好事例の収集・広報」と「働き方改革セミナーの開催」を行うこととなっている。

- (1) 各業界のトップ企業への働きかけの強化（リーディングカンパニー訪問）について
- 大阪労働局においては、平成27年1月21日に大阪労働局長を本部長とする大阪労働局働き方改革推進本部を設置し、労働局の幹部が管内のリーディングカンパニーを訪問するなどの5つの推進プランを掲げ、長時間労働の削減などの取組を推進している。
- 企業において、働き方の見直しを効果的に進めるためには、企業トップの発意並びにその発意のメッセージ発信等を通じた意識改革等による自主的な取組が不可欠であり、直接企業のトップに対し、長時間労働時間の削減、年次有給休暇の取得促進、テレワークの導入、女性の活躍促進等について要請し、運用に当たっての課題等について意見交換を行っており、訪問をきっかけにテレワークの導入の検討を開始した企業もある。また、訪問の際に把握した好事例や課題を今後の行政運営に反映することとしている。
- 平成28年度は75件の企業を訪問しており、今後も月11件の訪問を目標として、リーディングカンパニーだけでなく、社会的な影響力が大きな中堅・中小企業や長時間労働の傾向が見られる業種の企業にも働きかけを実施していく。

- (2) 働き方改革宣言企業の募集について
- 大阪労働局では、地域のリーディングカンパニーによる働き方改革宣言を募集し公表してきているが、その数は平成27年度末現在で14社にとどまっている。
- 平成28年度は、労働局幹部によるリーディングカンパニー訪問を契機として、良い取組を行っている企業に対して働き方改革宣言への勧奨を行い、これまでに7社があらたに宣言を行うに至った。
- 今後も、リーディングカンパニー訪問等で良い取組を収集した場合には、働き方改革宣言への勧奨に取り組んでいく。

- (3) ワーク・ライフ・バランスの普及（働き方改革セミナー等）について
- ワーク・ライフ・バランスの実現のための施策は、育児休業・介護休業など各種休暇制度の整備、育児・介護のための短時間勤務制度や超過勤務の制限、フレックスタイム制、ゆう活（朝型勤務）、テレワーク、勤務間インターバルなど多岐に及ぶ。
- 大阪労働局は、平成29年1月1日に改正育児・介護休業法の施行があったことから、育児休業、介護休業、育児・介護のための短時間勤務制度や超過勤務の制限等について、府内の事業主を対象とした改正法説明会を平成28年11月に3回（計約1,800名参加）開催し、その内容の周知を図ったほか、各種団体等に対する同様の説明会の開催（計

27回) や広報に重点的に取り組んできた。併せて、中小企業等に対して法改正に則した就業規則の規定方法について個別指導を行った。

さらに、保育所に入れない場合に育児休業できる期間を子が2歳に達するまでとする育児・介護休業法の改正が平成29年3月31日に成立し、同年10月1日に施行されることとなったことから、4月19日に大阪労働局が主催するセミナーにおいて事業主に対してその説明を行った。今後も各種機会を利用した説明会等によりその周知を行っていくほか、労働者に対しては、市町村と連携してその保育所入所申請窓口での周知を行うこととしている。

テレワークについては、テレワーク月間(11月)を中心に事業主団体に対する広報、各種会議でのリーフレット配布、ホームページに記事掲載等の周知の取組を行ったほか、厚生労働省が実施するセミナーの参加勧奨のための広報に取り組んだ。

また、平成28年8月2日と12月16日に働き方改革セミナーを開催し、働き方改革に取り組む先進企業による事例発表などを行い、多くの参加者から有意義であったとの感想を得たところである。平成29年度においても2回開催し、働き方改革への一層の取組の推進を行うこととしている。

勤務間インターバル制度については、平成29年1月に厚生労働省が勤務間インターバル制度普及のための事業を開始したところであるので、それを活用した制度の周知に取り組んでいく。

(4) ワーク・ライフ・バランス推進のための好事例の収集・広報について

大阪労働局では、平成28年度、リーディングカンパニー訪問時に把握した良い取組を行っている企業の実例や、表彰受賞企業の事例等を収集し、働き方改革セミナーの事例発表として社会に周知してきた。

今後は、他機関が持つ好事例の情報や、報道情報等を基に良い取組を行っている企業の情報の収集をさらに進め、社会に周知していく。

(5) 治療と仕事の両立に向けたトライアングル型支援の推進

労働人口の3人に1人が治療を受けながら仕事を続けている現状であり、病気を理由に仕事を辞めざるを得ない労働者や、仕事を続けていても職場の理解が乏しいなど治療と仕事の両立が困難な状況に直面している労働者も多いことから、治療と仕事の両立は社会として避けて通ることができない状況になっている。また、企業内資源である労働力を確保する点からも、すぐに退職しないよう会社の相談窓口を整備するなど、会社やそのトップの意識改革を図ることが重要である。

そこで、治療と仕事の両立に向けて、大阪産業保健総合支援センター(両立支援コーディネーター。以下「センター」という。)、医療機関(主治医)、企業(産業保健スタッフ)のトライアングル型支援を推進するため、「事業場における治療と職業生活の両立支援のためのガイドライン」(以下「ガイドライン」という。)を以下の方法によ

り周知する。

- ・企業への対応として、リーディングカンパニー訪問、大阪健康フォーラム等の
集団指導等、監督指導、個別指導を通じて指導、周知するとともに、局署の幹部
等が企業トップと面接する際にもパンフレット等を用いて丁寧に説明する。
- ・医療機関への対応として、大阪府医師会の産業部会でパンフレット等を用いて
説明し、医師会の広報紙に掲載を依頼する。

また、厚生労働省から別途指示があるセンターのほか医療機関、企業の団体を構成
員とする「地域両立支援推進チーム（仮称）」を7月を目途に立ち上げ、情報交換を行
うことによってトライアングル型支援を推進する。

(6) 新たな取組

平成28年12月には、池田泉州銀行が、厚生労働省が認定する「くるみん」「プラチナ
くるみん」「えるぼし」「ユースエール」の認定企業と雇用関係助成金受給企業等に対
し融資金利を優遇する「人材活躍応援融資『輝きひろがる』」の取扱を開始した。

また、平成29年4月には、大阪信用金庫が「くるみん」「プラチナくるみん」「える
ぼし」「ユースエール」の認定企業と大阪市女性活躍推進企業認証企業に対して融資金
利を優遇する「働き方改革支援融資『いきいき』」の取り扱いを開始した。

8 外国人留学生の就職促進と成長戦略

基本方針及びロードマップでは、「外国人留学生向け企業説明会」と「外国人留学生に対する就職促進（就労型インターンシップ事業の実施検討）」を行うことになっている。

(1) 「外国人留学生向け企業説明会」について

大阪労働局では、近畿ブロック労働局（滋賀、京都、兵庫、奈良、和歌山）と連携（平成 28 年 12 月 2 日、平成 29 年 2 月 8 日及び 4 月 21 日に担当者会議を実施）し、関係省庁や関係団体の協力を得て、平成 29 年 5 月 26 日に参加企業 150 社規模の「近畿ブロック外国人留学生合同企業説明会 2017」を開催し、地元企業と外国人留学生のマッチング促進を図るとともに、併せて参加企業を対象に、外国人労働者雇用の留意点をはじめ労働法、入管法の改正等を踏まえた「雇用啓発セミナー」を同時開催し、外国人留学生の雇用促進に向けた企業支援を行うこととしている。

参加企業 150 社については、各ブロック労働局で参加勧奨を進めた結果、平成 29 年 4 月に 150 社を確保した。

(2) 「外国人留学生に対する就職促進（就労型インターンシップ事業の実施検討）」について

平成 20 年から大阪労働局が外国人留学生を対象に実施している「大阪ビジネスインターンシップ」では、職場体験を通して日本企業への就職に向けた職業意識啓発を行うとともに、企業においても今後の経営戦略を考える上で、留学生の活用に目を向けて頂く良い機会として着実に事業実績を上げてきている。

平成 28 年夏期の事業実績は、受入実施企業数 28 社（企業確保数 46 社）、参加大学数 23 大学（参加希望大学数 25 大学）、参加学生 51 名（参加希望者数 80 名）。

また、平成 29 年春期の事業実績は、受入実施企業数 13 社（企業確保数 36 社）、参加大学数 14 大学（参加希望大学数 17 大学）、参加学生 28 名（参加希望者数 44 名）であり、特に平成 28 年夏期については、事業開始以来、過去最高の実績となっている。

(3) 今後の取組み

「外国人留学生向け企業説明会」については、現在、留学生の参加勧奨を各ブロック労働局で進めており、各大学・関係団体等の協力を得て、積極的に周知を行い、参加留学生 1,000 人以上を目指す。

「外国人留学生に対する就職促進」については、今般、実施を進めている「外国人留学生向け企業説明会」参加企業及び春期ビジネスインターンシップ受入企業に対し、「就労型インターンシップ」に係るアンケートを行い、受入企業のニーズを把握し、効果的な実施に向けて検討を進めて行く。

9 人材の育成支援

基本方針及びロードマップでは、「「公的職業訓練の総合的な訓練計画」を定めるに当たり、人材育成についてその活躍促進の観点から方向性を検討」するとなっている。

公的職業訓練の総合的な訓練計画

平成 29 年度公的職業訓練計画（総合計画）においては、大阪府をはじめとした関係機関と強力な連携のもと、「女性・若者の活躍促進」「人手不足分野における人材確保」を最大の目標に、以下に示す、訓練設定を行うなどの人材育成支援に取り組んでいく。

（1）女性・若者の活躍促進に向けた人材育成支援

全国的に見て大阪府の女性の就業率は低水準にあり、その向上を目指し、子育て女性等の訓練機会を確保するため、託児サービス付き訓練コース・短時間訓練コースの設定を大幅に拡充する。

若者を中心とした非正規労働者について、職業訓練を通じて、安定した就職に結びつけるため、新たな訓練コースを設定するとともに、訓練生一人ひとりに対して、ハローワークによる個別支援を実施し、正社員就職の実現を目指す。

また、建設・運輸・製造などの人材不足分野における人材確保の取組を進めていくためには、女性と若者のこれらの分野への誘導が不可欠であり、そのための取組を進めていく。

（ア）託児付き・短時間訓練コースの拡充（労働局 支援訓練） **拡充**

- ・託児サービス支援付き訓練コース【H28 年度 534 人⇒H29 年度 1,110 人】
- ・短時間訓練（1 日 4～6 時間）コース【H28 年度 14 人⇒H29 年度 600 人】

（イ）女性・若者の職域拡大訓練の実施（大阪府 委託訓練） **新規**

建設・運輸・製造分野など人材不足分野へ人材を供給するため、若者や女性の職種志向の転換を図る訓練（仕事力の養成、業界知識の習得、業界企業での実習等 2 ヶ月間の訓練）を新設する。【60 人】

（ウ）若者正社員育成コース等の設定（労働局 支援訓練） **新規**

若者向けコースの企業実習を拡充（実習割合の引き上げ 15%→20%）し、より実践的なスキルを身に着け、正社員就職につなげるための訓練コースを新設。【500 人】

（エ）若年者就職困難層対象訓練の設定（大阪府 委託訓練） **新規**

コミュニケーション力や、就職準備の整っていない若者を中心に、カウンセリングや企業自習を通じて、社会人基礎力を身に着け、早期の就職を実現する。【20 人】

（2）人手不足分野における人材確保のための訓練の実施

特に人材不足が深刻である「製造」「運輸」「建設」及び福祉分野（介護、保育）の人材確保に向けた訓練設定を拡充する。

（ア）介護分野における職業訓練の拡充（労働局 支援訓練・大阪府 委託訓練） **拡充**

全訓練科目に占める割合を拡大し、介護人材確保の促進を図る。

【H28年度 18.5% 3,725人 → H29年度 21.6% 3,746人】

(イ) 建設分野における職業訓練の設定(大阪府 委託訓練) **新規**

建設業・総務・経理事務科を新設する。【40名】

(ウ) 保育分野における職業訓練の設定(大阪府 委託訓練) **新規**

保育人材養成科を常設化する。【40名】

(エ) 製造分野への積極的誘導(労働局 大阪府 機構) **新規**

府立技術専門校等でのものづくりを中心とした訓練コースに対してのハローワーク等における誘導強化に取り組む。

また、わかものハローワーク利用者等に対し、訓練校見学会・事業所見学会(ツアー型見学会)等を通じて、若者の職種志向の転換を図り、上記訓練コースへ積極的に誘導し、人材確保につなげる。【年間3回】

(オ) 運輸分野における職業訓練の設定等(労働局) **継続**

運輸分野での運転手不足が深刻であり、その人材確保が急務となっており、大型免許取得を含む訓練コース設定が求められているが、制度面、委託費等の課題により、設定に至っておらず、引き続き、制度面等課題を整理しながら設定に向け、関係機関に働きかけていく。

上記取り組みを効果的に推進するため、府内の全ハローワークにおいて、訓練コース説明会、見学会等を引き続き開催するとともに、新たにブロック単位で大規模な訓練コース説明会を開催する。(6ブロック程度設定)

さらに、わかものハローワーク・マザーズハローワークにおいて、就職支援ナビゲーターを増員し、新たに、若者、女性等に対する受講あっせん、受講給付金支給、就職支援までをワンストップで提供するとともに、新規・拡充コース、人材不足分野への職種転換に向けた訓練誘導を積極的に行う。

10 金融機関との連携

基本方針及びロードマップでは、「働き方改革・助成金等勉強会の開催」と「金融機関と連携して国や地方公共団体の企業に対する支援策の浸透」を行うことになっている。

大阪労働局では、平成28年8月2日に大阪信用金庫と、同年10月21日に池田泉州銀行と、同年10月25日にりそな銀行、近畿大阪銀行と、平成29年5月16日に北おおさか信用金庫と働き方改革にかかる包括連携協定を締結した。

(1) 「働き方改革・助成金等勉強会の開催」について

協定締結後、助成金制度その他の国の施策・方針を理解した金融機関の職員がその見識を活用して適時適切なアドバイスを中小企業事業主に行えるようにするため、「働き方改革・助成金等勉強会」を大阪信用金庫に対し3回、りそな銀行、近畿大阪銀行、池田泉州銀行に対し1回開催し、助成金等の制度や事業主に必要な労働関係法令について説明を行った。

このような取組の結果、金融機関の職員のアドバイスを受けた事業主からの助成金の申請や、例えば中小企業事業主がストレスチェックの実施方法について金融機関へ相談するなど、金融機関へ労働局の所管業務に係る相談をし、相談を受けた金融機関が労働局への橋渡しをするような事例も出てきている。

(2) 「金融機関と連携して国や地方公共団体の企業に対する支援策の浸透」について

現在、各包括連携協定締結金融機関において、労働局の施策やセミナーの実施等について、広報紙への掲載、リーフレット、ポスターの掲示、店舗モニターでの表示等を行っている。

5月には池田泉州銀行や大阪府と連携して中小企業事業主を対象に助成金のセミナーの開催を検討中である。

また、5、6月頃には大阪府及び金融機関と連携した助成金セミナーの開催も予定している。

(3) 取組の成果

平成28年12月には、池田泉州銀行が、厚生労働省が認定する「くるみん」「プラチナくるみん」「えるぼし」「ユースエール」の認定企業と雇用関係助成金受給企業等に対し融資金利を優遇する「人財活躍応援融資『輝きひろがる』」の取扱を開始した。

また、平成29年4月には、大阪信用金庫が「くるみん」「プラチナくるみん」「えるぼし」「ユースエール」の認定企業と大阪市女性活躍推進企業認証企業に対して融資金利を優遇する「働き方改革支援融資『いきいき』」の取り扱いを開始した。

(4) 今後のさらなる展開

今後は、金融機関の支店とハローワーク、労働基準監督署の連携による取組を広げ

ていくが、そのはじめとして、3月16日に大阪信用金庫堺東店とハローワーク堺、堺労働基準監督署が、人材不足や人材の定着に悩んでいる介護事業者を対象に課題解決に向けた「雇用管理改善セミナー」を開催した。また、東大阪市はモノづくりのまちで中小零細の製造業が多く、若者や女性から職場環境が悪いというイメージを持たれがちなために人材不足という課題を抱えている。そこで、大阪信用金庫永和支店とハローワーク布施、東大阪労働基準監督署も、近畿大学とも連携して、就職意識や採用に係る問題点や企業ニーズ等について本音で語ってもらう「地元企業が元気になるための座談会&個別相談会(仮称)」を開催予定である。

平成29年1月には、労働移動支援助成金(受け入れ人材育成支援奨励金)における、優遇助成の対象となる特例事業主の要件について、生産性の伸び率が一定要件を満たす場合に、金融機関が行う与信取引状況及び企業の事業に関する見立てを参考に、申請事業主の成長性・将来性が見込まれる場合についても対象とする等の見直しが行われた。

そこで、5月には「ローカルベンチマーク」や「企業の成長性」の活用等についての勉強会を開催するなど金融機関との連携を強化していく。

今後は、金融機関が推薦する成長性・将来性のある企業の合同就職面接会の開催等にもつなげていくとともに、企業の生産性向上を支援するため、働き方改革を進める企業への融資商品の開発の検討を要望していく。

連携協定については、希望する金融機関と随時締結することとしており、現在も、協定を希望する金融機関から相談が入っている。すでに協定を締結している金融機関とは、随時、意見交換等を行い、連携を強めていくとともに、今後も連携金融機関を拡大して、さらなる国の政策の浸透に努める。

11 「働き方改革推進企業」の顕彰・動機づけ制度創設に向けた検討

基本方針及びロードマップでは、「「えるぼし認定企業」(女性活躍推進法)、「くるみん認定企業」及び「プラチナくるみん認定企業」(次世代法)並びに「ユースエール認定企業」(若者雇用促進法)に対する公共調達における評価の仕組みの導入」、「認定一般事業主等を対象とした合同就職面接会」、「働き方改革推進企業」制度創設の検討」を行うことになっている。

- (1) 「えるぼし認定企業」、「くるみん認定企業」及び「プラチナくるみん認定企業」並びに「ユースエール認定企業」に対する公共調達における評価の仕組みの導入

4 (4) 「えるぼし・くるみん認定企業に対する公共調達における評価の仕組みの導入」、5 (2) 「認定一般事業主に対する公共調達における評価の仕組みの導入について」を参照

- (2) 「認定一般事業主等を対象とした合同就職面接会」について

ユースエール認定企業をはじめとする認定一般事業主を対象とした合同企業面接会・説明会については、雇用管理が優良な企業に対する最も有効な支援サービスであり、認定後の具体的なメリットを示すと共に、認定を目指す企業の意欲喚起につながる効果も大きいことから大阪労働局においては積極的に開催している。

平成 28 年 12 月 15 日に梅田センタービルにおいて「若者・女性の活躍とワークライフバランスを推進する企業の合同説明会」を開催した。認定一般事業主 13 社のほか、ユースエール認定基準要件 5 項目のうち 3 項目以上満たしていれば参加可能とした独自の参加要件により 35 社が参加可能となり、併せて 48 社が参加するイベントとなった。

また、第 2 弾として 3 月 9 日に OMMビルにおいて「大学生等就活フェア 2017」を開催した。新規大卒者等に係る採用選考スケジュールは広報活動が開始される 3 月から一気に本格化するが、大阪労働局では、前回に引き続き優良な雇用管理をひとつの大きなテーマとして、「えるぼし認定企業」(女性活躍推進法)、「くるみん認定企業」及び「プラチナくるみん認定企業」(次世代法)並びに「ユースエール認定企業」(若者雇用促進法)等の認定一般事業主等のほか、ユースエール認定基準のうち最も厳しいとされる有給休暇の取得実績について緩和した独自要件での参加も可とし 40 社が参加した。当日はオープニングセミナーとしてテレビ・ラジオで活躍中のコメンテーターによる講演を行ったほか、参加企業による業界研究トークショーを実施した。当日は 155 名の参加があり、アンケート結果をみると「良かった」との意見が約 8 割を占め、自由意見でも「地元(大阪)で大手有名企業だけでは無く、優良企業とお会いして企業担当者の方とゆっくりお話しする機会が得られて良かった。」等肯定的な意見を多く頂いたところである。

大阪労働局では、これからも学生等が優良な雇用管理を推進する企業と出会う機会

の確保と、企業の取組み推進のため合同企業説明会等を積極的に開催していく。実施にあたってはコンテンツにも工夫を凝らし、単に企業ブースによる業界・企業説明にとどまらない参加者の意識啓発も目的に含めた事業運営に努める。

(3) 「働き方改革推進企業」制度創設の検討

安心して就職できる企業の指標として、くるみん、プラチナくるみん、えるぼし、ユースエールといった認定制度があるが、ユースエール認定制度については、従業員300人以下の中小企業を対象としており、男性の育児休業の実績や年次有給休暇の取得実績等が認定基準を満たさないケースも多く、その認定数は大阪労働局管内でわずか8企業である。また、プラチナくるみん、えるぼし第3段階についても、その認定一般事業主は大阪労働局管内でそれぞれ2企業、19企業にとどまっており、さらに、平成29年4月にはこれら認定制度の認定基準が厳格化されたことから、認定一般事業主数が大きく増加するとは考えられない。

一方、認定制度ではないが、パートタイム労働者活躍推進企業表彰、女性の活躍を推進している企業やファミリー・フレンドリーな企業を表彰する均等・両立支援企業表彰などの表彰制度もあるが、これら表彰企業も多いとはいえない。

以上のような状況から、より多くの安心して就職できる企業情報を提供し、また、そのような企業を増やしていくという観点からは、上記認定制度の周知を行う一方、認定基準のすべてを満たさないものの労働関係法令違反のない働きやすい環境の企業等を顕彰し、そのような企業を目指すよう動機づけを行うことが重要である。

今後は、認定一般事業主に準じた大阪独自の「働き方改革推進企業」に対する顕彰・動機づけ制度の創設に向けて、具体的な検討を開始する。さらに、「働き方改革推進企業」に対する顕彰・動機づけ制度の創設と併せ、安全衛生優良企業や表彰企業のほか、大阪市の「大阪市女性活躍リーディングカンパニー」認証企業など、大阪労働局以外の大阪会議メンバーの認証企業等も含めた企業に対する総合評価落札方式における加^点を行う大阪労働局独自の公共調達^の制度も検討していく。

「働き方改革推進企業」に対する顕彰・動機づけ制度創設後は、これらの企業を対象とした合同就職面接会を開催していくとともに、公共調達面での配慮、金融機関へ融資等の支援の検討を進めるよう働きかけ行っていく。

12 運輸事業における取組

基本方針及びロードマップにおいて、トラックやバス等自動車運転者の労働時間短縮のための施策を実施することとしている。

(1) トラック運転者の労働時間短縮のための施策

トラック輸送における取引環境・労働時間改善協議会及びパイロット事業を通じて、トラック運転者の労働時間短縮を図ることとしている。平成28年度は、食品卸から食品小売店への配送工程をパイロット事業の対象として実証実験を行い、現在その取りまとめを行っているところである。取りまとめ完了が3月末となることから、第4回協議会を6月に目途に開催する予定である。

さらに平成29年度も新たな配送工程を対象にパイロット事業を行うこととしており、現在対象となる配送工程を選定中である。

(2) バス運転者の労働時間短縮のための施策

ツアーバスの運転者の労働条件を改善するためには、発注者であるツアー会社の協力が不可欠であることから、ツアー会社、バス会社双方に対して関係法令等の理解促進を図る取組を行うこととしている。

具体的な取組内容は、旅行関係団体に対する要請、ツアー会社及びバス会社を対象としたセミナーの開催を行うこととしており、現在近畿運輸局、大阪府、大阪観光協会と実施方法等について検討を重ねているところである。

要請は6月中、セミナーは9月中に実施することで調整している。

13 介護事業における取組

基本方針には、介護職場の構造的問題からキャリア制度・キャリアラダーの確立の必要性和、その実現のための作業部会の開催、さらに介護ロボット等の開発促進に向けた支援の必要性が謳われている。

また、ロードマップには平成 28 年度～29 年度における作業部会の開催と、平成 30 年度以降の検討結果の公表・普及、さらに平成 29 年度以降の介護ロボット等の開発促進支援を実施することとなっている。

(1) 「介護労働に関する作業部会（キャリアラダー確立）」の開催

ホームページ等により参加法人を募ったところ、特別養護老人ホームの経営者の有志（15 法人）の参加を得て、介護労働者の代表（UA ゼンセン 介護クラフトユニオン）とともに作業部会を開催した。

第 1 回作業部会（H28. 12. 9）では、部会の開催趣旨の説明と目的の共有、介護分野における雇用失業情勢等についての説明の後、参加一法人から同法人におけるキャリアラダー制度及び改善に向けた取組等について、現在使用している賃金規定等を用いた発表がなされた。他の参加法人からも賃金事情を中心に、施設の稼働率と収益の関係性、業界のイメージアップの必要性等、様々な意見交換が行われた。

今後、1～2 か月ごとに本部会を開催し、平成 29 年 6 月頃を目途に一定の成果物を得るべく取り組むこととなった。

第 2 回作業部会（H29. 1. 23）では、事前に提出依頼を行っていた「賃金制度改善のための目標シート」（現状と改善目標、その実現のための取組等を記載）に基づき、3 法人からの説明及び意見交換を行ったところ、それぞれ従業員のよりよい処遇に向けて努力しており、勤続 15 年目で 500 万円前後（年収ベース）となる法人もあった。具体的な取組としては、経費削減の対象に人件費は加えないとしていること、その代わりに業務委託を厳しく見直すこと、介護リフトの導入により二人での移動介助を一人で行えるようになったことによる効率化が図られていること、加えて介助者がもう一人の作業を止めて手伝ってもらう精神的ストレスが減じたこと、介護機器の導入による作業工程の改善が職員のモチベーションの向上に役立ち離職率が低下したこと、人事評価を工夫して職員のモチベーションを上げ離職率の低下につなげたこと等有意義な意見交換を行った。

第 3 回作業部会（H29. 4. 19）では第 2 回に引き続き、2 法人から賃金制度改善等に係る説明があり、ユニット型での夜勤は一人で 20 人を担当することもあり、新規採用者には精神的負担になり、離職につながっていたため、介護職員が自主的にチームで話し合い、相談し合う体制を作り、勤続 3 年以内の離職率が 8%程度になったという取組もあり、活発な意見交換が行われた。さらに参集メンバーから「第 2 回特養実態調査」（大阪府社会福祉協議会老人施設部会にて賃金・経営実態について行った調査）の結果について説明があり、人件費率は、約 6 割から 64%に上昇した。一方で、事務費率

が約 11%から約 5%に、減価償却費率が約 8.7%から約 5.7%に、それぞれ低下しており、節約の努力の跡が見られることや、介護職の派遣労働者の一人当たり委託費が約 286 万円に及び、地域によっては、約 476 万円、433 万円に及ぶところもあり、それほど介護職員の人材確保が切羽詰まって来ているとの説明もあり、データから浮かび上がる現状の問題等に対し、活発な意見交換が行われた。大阪労働局からは助成金・中退金など国の各種支援制度の説明と、今後実施する施設見学会等の案内を行った。

(2) 介護ロボット等の開発促進支援

経済産業省と厚生労働省が公表している「ロボット技術の介護利用における重点分野」では、開発支援や大規模実証等を行うこととされている。厚生労働省では、平成 28 年 8 月から介護施設における課題（ニーズ）とそれを解決するための技術（シーズ）をマッチングさせる「介護ロボットのニーズ・シーズ連携協調協議会設置事業」を開始したところであり、この事業が府内施設や企業等に活用されるよう、事業周知等に協力する必要がある。

14 広報・啓発活動

基本方針及びロードマップでは、「広報・啓発活動の有機的協力関係の構築」を行うため、大阪労働局企画課がハブ(結節点)となり、情報を集約した上でリンクを張るなどの創意工夫を進めていくこととしている。

「広報・啓発活動の有機的協力関係の構築」について

第2回大阪働き方改革推進会議を開催後、大阪労働局ホームページの「働き方改革推進」のバナーをわかりやすく表示し、「働き方改革推進」の中に大阪働き方改革推進会議で策定した「大阪働き方改革にかかる今後の基本方針」及びロードマップを掲載した。

今後、効率的に広報・啓発活動を行うための第一歩として大阪労働局ホームページに情報を集約し、基本方針の項目ごとに会議メンバーのホームページの関連ページへリンクを貼る作業を行っている

(http://osaka-roudoukyoku.jsite.mhlw.go.jp/hourei_seido_tetsuzuki/_121761/roadmap.html)。

ホームページに掲載したロードマップの各項目をクリックすると、それぞれ14項目の基本方針のページに移る。基本方針の各ページには、それぞれの項目に関連するリンクや、会議メンバーの取組状況も確認できるようになっている。

今後も、会議メンバーから定期的に取り組状況を報告してもらい、同ページにそれぞれの取組も掲載していく。

第2章 大阪府の取組

1 非正規雇用労働者の待遇改善

大阪府総合労働事務所を中心に、労働相談や、労使関係者に対する非正規労働の労働契約・労働条件等を内容とする研修やセミナーを実施するほか、啓発冊子を作成・配布し、労働関連法規の普及啓発に取り組んでいる。

(1) 労働相談

大阪府総合労働事務所で開催する労働相談について、平成28年11月から平成29年3月の相談件数（項目数）は4,489件であり、そのうち、非正規労働者からの相談は1,389件であった。

また、労働情報発信ステーション事業として、集客の見込める場所で職場のハラスメントと労働契約・労働条件を中心とした労働相談会を集中的に実施した。

（実施回数13回／相談者数57名、情報提供数2,994件（平成28年11月から平成29年3月実施分））

(2) 労働関係法規の周知啓発

① 研修

高等学校の生徒・教職員、府立高等職業技術専門校等、中小企業、労働組合などを対象に、労働法の基本ルールなどについて研修する、労働法・労働問題基本出前研修（きまえ研修）を実施した。

（実施回数11回／受講者数631名（平成28年11月から平成29年3月実施分））

② セミナー等

中小企業の労使関係者を対象に、労働法の基礎的知識を周知・普及する中小企業労働環境向上塾を開催した。

（実施回数12回／受講者数578名（平成28年11月から平成29年3月実施分））

また、地域課題（きめ細かな地域雇用対策、労使関係の安定、労働関係法令の普及啓発）などの解決を促進するため、国（ハローワーク、労働基準監督署）、府（総合労働事務所）、市町村、労働団体（連合大阪地域組織等）、使用者団体（関経連等）、経済団体（商工会議所・商工会）が構成機関となり、府が事務局を担っている地域労働ネットワークを活用し、構成機関の協働・協力のもと、労働関係セミナーを実施した。

（実施回数13回（堺市域を除く）（平成28年11月から平成29年3月実施分））

(3) 啓発冊子の作成配布

「労働契約・解雇・雇止め・退職勧奨・未払賃金トラブル防止Q&A」(1,300部)、
「働く人雇う人のためのハンドブック」(6,000部)、「働く若者のハンドブック」
(28,000部)、「働くルールBOOK」(120,000部)、「女性のための働くルールB
OOK」(50,000部)を作成し、労働者、労働団体、事業主、経営者団体、労働行
政機関、市町村などに配布した。

<課題及び今後の取組み>

引き続き、労働相談や、国や市町村等関係機関との連携による各種啓発事業に取り
組むとともに、今後は、学生アルバイト等を含め非正規雇用労働者の労働条件の
適正化に向けた周知啓発に取り組んでいく。

2 労働生産性向上等を通じた、超過勤務の削減等職場環境の整備

超過勤務の削減等について、労使間のトラブルを未然に防止するとともに、労働環境の整備・改善に資するため、大阪府総合労働事務所を中心に、労働相談の実施や、関係セミナーや啓発冊子の作成・配布を通じて労働関係法規等の普及啓発を行っている。

(1) 労働相談

1 (1) に記載の労働相談において、労働時間、休日等に関する相談に対応しており、平成 28 年 11 月から平成 29 年 3 月の相談件数（項目数）4,489 件のうち、労働時間、休日等に関する相談は 342 件であった。

また、1 (1) に記載の労働情報発信ステーション事業を実施した。（再掲）
（実績は 1 (1) に記載）

(2) 労働関係法規の周知啓発（再掲）

① 研修

1 (2) ① に記載の労働法・労働問題基本出前研修（きまえ研修）を実施した。
（実績は 1 (2) ① に記載）

② セミナー等

1 (2) ② に記載の中小企業労働環境向上塾、地域労働ネットワークを活用した労働関係セミナーを開催した。
（実績は 1 (2) ② に記載）

(3) 啓発冊子の作成配布（再掲）

1 (3) に記載の啓発冊子を作成配付した。

<課題及び今後の取組み>

引き続き、労働相談や、国や市町村等関係機関との連携による各種啓発事業に取り組む。また、OSAKAしごとフィールド内に平成 29 年 5 月に設置した「大阪働き方改革支援センター」を軸とし、製造・運輸・建設分野を中心に、職場環境の改善に向けて、公民連携により取り組む（4 にも後述）。

3 高齢者及び障がい者の雇用の促進

(1) 高齢者の雇用の促進について

大阪府の就業支援機関であるOSAKAしごとフィールドにおける就業支援や、シニア就業促進センターを通じた就業機会の確保等に取り組んでいる。

① OSAKAしごとフィールドにおける支援

OSAKAしごとフィールドにおいて、相談、各種セミナーの実施及びハローワークとの一体的実施による職業紹介などの就業支援サービスを提供しており、平成28年度は、これらの支援を通じて68名の方が就職した。

② シニア就業促進センターを通じた支援

大阪府高年齢者就業機会確保地域連携協議会（事務局：大阪府）において、国の生涯現役促進地域連携事業により、平成28年11月にシニア就業促進センターを設置し、高年齢者の相談対応、意識啓発、職域拡大の実践による就業機会の確保事業等を実施している。平成28年度は、相談機能事業として、就業関連情報の提供や就業アドバイスを実施しており、407件の相談があった。また、意識啓発事業として、高年齢者活躍促進ガイドブック2,500部の作成や、「職業生活設計」、「ニッポン一億総活躍プランと企業経営～生涯現役社会に企業はどう向き合うべきか～」をテーマとしたセミナーを開催した。さらに、職域拡大実践事業として、「シニア人財雇用促進ガイドブック」を作成するとともに、セブン-イレブン仕事説明会（12回開催、参加者191名）やガソリンスタンド仕事説明会（2回開催、参加者67名）、企業面接会（3回開催、参加者19名）を行った。

(2) 障がい者の雇用の促進について

OSAKAしごとフィールドにおける就業支援や、大阪ハートフル基金（障害者雇用促進基金）を活用した取組みを行っている。

① OSAKAしごとフィールドにおける支援

OSAKAしごとフィールドにおいて、カウンセリングや各種セミナー、職場体験等を実施しており、平成28年度はこれらの支援を通じて167名の方が就職した。

② 大阪ハートフル基金（障害者雇用促進基金）を活用した取組み

大阪府障がい者サポートカンパニー制度や、大阪府障がい者雇用貢献（ハートフル）企業顕彰事業等を実施している。

大阪府障がい者サポートカンパニー制度については、障がい者雇用や就労支援に積極的・先駆的に取り組む企業を、障がい者サポートカンパニーとして登録し、その取組みを広く周知することにより、障がい者雇用の機運の醸成と更なる拡大をめざすものであり、平成29年3月末現在で登録企業数は198社となっている。

大阪府障がい者雇用貢献（ハートフル）企業顕彰事業については、障がい者の雇

用促進につながる各種活動を評価し、それらの企業活動を広く府民に紹介することで、障がい者雇用に関する企業と府民の意識・関心を高め、障がい者の雇用の一層の拡大につなげる知事表彰事業であり、平成 28 年度は 4 社を表彰した。表彰した企業については、表彰状授与式に加えて、「障がい者サポートカンパニーの集い」（平成 28 年 9 月 21 日開催）や大阪府のホームページにおいて、広く府民・企業に紹介した。

また、大阪府と連携している金融機関を対象に、大阪ハートフル基金への寄附付き定期預金や積立預金創設の募集を行った結果、3 金融機関において実施に至った。

さらに、障がい者雇用に関するセミナーや合同企業説明会等を開催しており、セミナーについては、大阪労働局との共催による「発達障がい者等雇用促進セミナー」など、平成 28 年度は 34 回開催し、約 900 社、1,000 名の参加があった。

<課題及び今後の取組み>

高齢者については、「シニア就業促進センター」事業を通じ、府の公民連携の仕組み等を活用しながら新たな職域の開拓を図るとともに、就業支援に取り組んでいく。

障がい者については、引き続き、大阪府ハートフル条例を活用した雇用の確保等に努めるとともに、大阪労働局と連携し、府の「障がい者雇用促進センター」を活用した事業主への雇用支援等を行う。また、職場定着が課題である精神・発達障がい者について、雇用管理手法の普及等に取り組む。

4 女性の活躍促進

OSAKAしごとフィールドにおける就業支援や、地方創生交付金を活用した事業等をOSAKAしごとフィールドと連携して展開している。

(1) OSAKAしごとフィールドにおける支援

働くママ応援コーナーにおいて、育児等で離職した「働きたいママ」の保活と就活の両立支援を行っており、平成28年度は232名の方が就職した。さらに、女性が働きやすい環境整備のため、事業所内保育施設の設置促進のための企業向けセミナーを、平成28年11月以降に4回開催した。セミナーには計315名の参加があり、支援企業のうち、府内で35施設が国の整備費助成を受けることになった。

(2) 地方創生交付金を活用した取組み

地方創生交付金を活用し、女性・若者働き方改革推進事業、若年非労働力層の女性に対する就業支援、働き続けるための「しごと力」を養う人材育成プログラムの開発、資格や経験のある女性の再就職支援、女性の就業等に関する相談機関のワンストップ化に取り組んだ。

① 女性・若者働き方改革推進事業

人材確保を必要とする製造・運輸・建設業を中心とする業界について、業界団体等と連携した働く環境整備に取り組むとともに、事務職志向の女性・若者等の意識転換を図る取組みを行っている。平成28年12月8日には、業界団体や関係機関等との連携を図るための大阪人材確保推進会議の発足式を行い、平成28年度の事業計画の策定や行動宣言を発表した。さらに、平成29年3月22日には、同会議の合同分科会を開催した。

また、業界のイメージアップを図る取組みとして、平成28年11月以降、「人材確保のための女性、若者向け広報術セミナー」（参加者82名）、「職場環境改善に向けたセミナー&相談会」（参加者 セミナー80名、相談会4名）、「魅力発信・広報力強化シンポジウム」（参加者82名）を開催し、雇用促進のための取組みとして、業界魅力発信セミナー「自分に合ったしごとの見つけ方セミナー」（参加者214名）を開催した。

② 若年非労働力層の女性に対する就業支援

若年女性を就業支援の場に誘導し、経済的自立を支援する取組みを行うことで、平成28年度は108名の方が就職した。

③ 女性が採用され、働き続けるための力（しごと力）を身につけるための「人材育成プログラム」を開発した。

④ 資格や経験を持ち、キャリアブランクのある女性への支援については、再就職に向けた訓練を実施することで、平成28年度は117名の方が就職した。

- ⑤ 女性の就業等に関する相談機関のワンストップ化については、府内の関係機関をネットワーク化し、女性の就業等に関する相談にワンストップで対応する体制づくりに取り組んだ。平成 29 年 2 月 10 日、11 日には 11 機関が参画したワンストップ相談会を開催し、43 名の参加があった。

(3) 「男女いきいき・共同宣言」事業者登録制度

「女性の能力活用」や「仕事と家庭の両立支援」など、男性も女性もいきいきと働くことのできる取組みを進める意欲のある事業者を、「男女いきいき・元気宣言」事業者として登録し、その取組みを応援している。平成 29 年 3 月末時点で 336 社が登録している。

<課題及び今後の取組み>

就業支援機関である O S A K A しごとフィールドについて、就職に困難性を有する方への支援や、女性や若者に多くみられる特定の業種・職種へのこだわりへの対応、「製造」、「運輸」、「建設」分野を中心とする業界の人材確保の支援などに取組むため、平成 29 年 5 月にリニューアルを行った。カウンセリング体制を強化し、適職診断や職場体験等を通じ、「製造」、「運輸」、「建設」分野等への求職者の業種・職種志向の拡大を図り、これらの業界へチャレンジしようとする求職者の知識・技能の習得から就職までの一貫した支援を行っていく。さらに、新たに設置した「大阪働き方改革支援センター」において、「製造」、「運輸」、「建設」分野を中心とする業界において、働き方改革に取組み、職場の環境改善を行うとともに、働く魅力を向上・発信する取組みを強化していく。

さらに、これまで O S A K A しごとフィールドの利用者を対象としていた、子どもの一時預かりについては、平成 29 年 6 月に O S A K A しごとフィールドと連携する、社会福祉法人による企業主導型保育施設において実施し、希望者に対しては就職決定後も引き続き子どもを預けることができるよう体制を整備する。

5 若者の活躍促進

OSAKAしごとフィールドにおける就業支援や、地方創生交付金の活用による東京圏等からの若者の還流促進、金融機関との連携による安定就職支援を実施している。また、職業訓練を通じて若者を産業人材として育成している。

(1) OSAKAしごとフィールドにおける支援

OSAKAしごとフィールドのJOBカフェコーナーや地域若者サポートステーションにおいて、カウンセリングや各種セミナー、ハローワークと連携した職業紹介などを実施しており、平成28年度はこれらの支援を通じ、6,757人の若者が就職した。

(2) 東京圏等からの若者の還流促進

東京圏等からの若者の還流促進に向け、平成28年11月以降、東京圏等の学生による府内中小企業の課題解決プログラム「大阪ブレインストーミング」、東京に居ながら、大阪の企業と交流できる「ライブストーリーミング交流会」、「KYOTOジョブフェア」において参加企業が東京圏の求職者とSkype（スカイプ）で交流するウェブ合同企業説明会、大阪・京都の優良企業との大面談会、関西+九州・山口の「しごと」の魅力を体感できる「OSAKA「E」FESTIVAL」を開催するとともに、府内企業の魅力発信WEBサイトを開設した。平成28年度は、これらの取組みにより、66名の方が府内企業へUIJターン就職した。

(3) 若者の安定就職支援

金融機関との連携により、平成28年11月以降、「親子で参加する究極の面談会」、「内定エクスプレス（年内に就職をめざす合同企業説明会）」、「KYOTOジョブフェア」（共催）、様々な業界の中小企業が集まる業界研究会「就活ソニック」、「枚方市若者しごとマッチングフェスタ（合同企業説明会）」（共催）、「しごと応援フェア2017（合同企業説明会）」（共催）、「ジョブマッチ交流会～人に関するおしごと編～（業種別企業交流会）」、「社会人☆キックオフ&交流会（内定者研修）」等の合同企業説明会や面談会を開催した。平成28年度は、これらの取組みにより、742名の方が安定就職した。

(4) 職業訓練を通じた人材育成

府立高等職業技術専門校において、北大阪・東大阪・南大阪の3校を中心に、産業界のニーズを踏まえた職業訓練を実施し、ものづくり分野で活躍できる中核的人材を育成している。平成28年度は、北大阪校141名、東大阪校80名、南大阪校165名、計386名に対し、職業訓練を行った。

<課題及び今後の取組み>

引き続き、東京圏等からのU I Jターン就職や金融機関と連携した若者の安定就職に取り組むとともに、4に記載の女性・若者働き方改革推進事業を通じて、人材確保に課題のある業界・企業の職場環境の改善と若者の就業支援を実施する。

加えて、コミュニケーション力等に課題があり、就職や定着に困難性を有する若者について、リニューアルしたOSAKAしごとフィールドにおいて支援手法の開発に取り組む。

7 ワーク・ライフ・バランスの実現

大阪府総合労働事務所において、企業や労働者を対象に、啓発リーフレット「ワーク・ライフ・バランスーすすめよう！仕事と生活の調和のとれた働き方！」(18,000部)の作成、配布及び「ワーク・ライフ・バランスの実現」として、大阪府ホームページへの掲載を通じて啓発を実施した。

また、府内各地域労働ネットワークや中小企業労働環境向上塾などで行うセミナーにおいて、ワーク・ライフ・バランスを推進するため「労働時間、休日、休暇」の基礎知識、就業規則の法的諸問題の解説、「マタハラ事例」などを基にした改正育児・介護休業法の解説などをテーマとして取り上げ、中小企業の労使双方に対して啓発を行った。

さらに、総合労働事務所が発行するメールマガジンにおいて、職場環境の整備、改正された労働関係法令などワーク・ライフ・バランスに関連するセミナーや相談会について情報を発信した。

<課題及び今後の取組み>

引き続き、府内各地域労働ネットワークを通じた市町村等との連携を中心に、労使双方に対する啓発を行うとともに、メールマガジンなどのツールを活用し、広く府民に情報を発信していく。

8 外国人留学生の就職促進と成長戦略

「大阪の国際化戦略アクションプログラム」を策定し、大阪府国際化戦略実行委員会において、外国人留学生の日本における就職を支援するため、有給インターンシップや企業（工場）見学会等を実施した。

(1) 有給インターンシップ

日本企業への就職を目指す留学生が、一定の報酬を得ながら、実際に社員と同様の就業を体験することで、より現実的な就職意欲の醸成と即戦力人材の育成をめざして実施。

平成 29 年 3 月 31 日現在で、登録者数が留学生 84 名・企業 26 社、マッチング成立数が留学生 33 名・企業 17 社、インターンシップ体験者数が留学生 15 名・企業 11 社となっている。

(2) 企業（工場）見学会

来日後の早い段階から、留学生と企業が直接接点を持つ機会を提供し、両者の相互理解の促進を図る取組みであり、平成 28 年 11 月以降は、株式会社神姫バスツアーズ（参加留学生 11 名）、フェンリル株式会社（参加留学生 3 名）、シャープ化学工業株式会社（参加留学生 12 名）、株式会社ササクラ（参加留学生 20 名）の見学会を実施した。

<課題及び今後の取組み>

今後、留学生就職支援事業を実施する各団体や大学等との連携をさらに強め、参加企業及び留学生の拡大とともに一層効率的な事業の実施を図る。

9 人材の育成支援

府立高等職業技術専門校において、産業界のニーズを踏まえた職業訓練を実施し、ものづくり分野で活躍できる中核的人材を育成している。

平成 28 年度は、北大阪校 141 名、東大阪校 80 名、南大阪校 165 名、計 386 名に、職業訓練を行った。

また、障がい者や就職困難者等への就職に向けた人材育成のため、芦原校 197 名、夕陽丘校 325 名に、職業訓練を実施した。

さらに、民間教育訓練期間を活用し、情報通信、介護、福祉、事務系等、190 コース、4,115 名への職業訓練を実施した。

<課題及び今後の取組み>

引き続き、府立高等職業技術専門校等の職業訓練を通じて、仕事に必要な知識等の習得を図る。また、雇用情勢の改善とともに訓練受講者の確保が課題となっているため、国等と連携し、広報の強化等による職業訓練の認知度アップに取り組んでいく。

11 「働き方改革推進企業」の顕彰・動機づけ制度創設に向けた検討

4（3）記載の、「男女いきいき・共同宣言」事業者登録制度を実施した。（実績は4（3）に記載）

<課題及び今後の取組み>

引き続き、女性活躍推進の意欲のある企業等を積極的に登録していくとともに、府内の企業等に対して、制度内容や他の企業等の取組事例についての情報提供や意見交換会を実施し、登録事業者数の増加に努めていく。

加えて、制度を見直し、女性活躍を後押しする顕彰制度や公共調達制度の導入について検討を進めていく。

12 運輸事業における取組

4（2）①記載の、女性・若者働き方改革推進事業において、運輸業界における人材確保のための取組みを実施した。（実績は4（2）①に記載）

<課題及び今後の取組み>

引き続き、女性・若者働き方改革推進事業を通じて、運輸業界における職場環境の改善と人材確保の支援を行う。

13 介護事業における取組

労働環境の改善等に取り組むモデル事業者の募集・支援や、小規模事業者の介護人材キャリアパスを支援する事業等を実施するとともに、離職者等を対象に、介護業界への就職を実現するための職業訓練を実施している。

(1) 介護人材育成確保支援事業

介護保険サービス事業者による「労働環境・処遇の改善」「介護職員の資質の向上」「多様な人材の参入促進」のための自主的な取組を促進し、その成果を普及することで介護人材の育成や確保、定着率の向上を図ることを目的に、他の事業者のモデルとなる事業を募集した。平成 28 年度は 5 事業者を選定し、補助の対象となる経費の 1/2 (最大 100 万円) を補助する事業を実施した。

(2) 職員の資質向上・職場定着支援事業 (介護人材キャリアパス支援事業)

府内の小規模な介護サービス事業所に対し、事業所ごとのニーズにあった研修計画の策定支援や研修主任の育成等を介護福祉士等養成施設の教員が行うことにより、介護職員が事業所において見通し (キャリアパス) を持って働けるよう、資質の向上が可能な体制づくりと、職場定着の支援を行った。

(3) 民間教育訓練機関を活用した職業訓練

介護福祉士養成科 (受講者 96 名)、介護福祉士実務者研修科 (受講者 137 名)、介護職員初任者養成研修科 (受講者 462 名)、介護・福祉サービス科 (受講者 12 名) を実施した。

<課題及び今後の取組み>

(1) 介護人材育成確保支援事業

応募数や事業提案内容の更なる向上のための周知等の方策や選考した取組を普及促進するための周知方法の検討。

(2) 職員の資質向上・職場定着支援事業 (介護人材キャリアパス支援事業) について

介護職員の資質の向上を図り、質の高いサービスを提供するため、引き続き、介護職員の継続的な資質向上に向けた研修体制づくりを支援する取組を進める。

第3章 大阪市の取組

3 高齢者及び障がい者の雇用の促進

大阪市では、若者・女性をはじめ、中高年齢者・障がい者・ひとり親家庭の親など、就職に向けた支援が必要な方を対象に、無料の職業相談・職業紹介を行う「しごと情報ひろば」を市内5か所に開設し、うち3か所で、ハローワークとの一体的運営を行っている。

また、働く意欲・希望がありながら、高齢の方、障がいのある方、長期離職者など、就労において様々な阻害要因を抱える方の就労を支援する「地域就労支援センター」を運営し、区役所、大阪労働局、ハローワーク、クレオ大阪各館、各種就労支援機関などと幅広く連携して、求職者を就職に結びつけている。

(1) 取組の成果

「しごと情報ひろば」の平成28年度の実績としては、相談件数が24,344件、就職者数が2,082人となっている。また、新規登録者数3,146人のうち、中高年齢者の割合が75%（うち55歳以上の高齢者の割合が31%）となっている。

なかでも、ハローワークとの一体的運営窓口での相談件数が多くなっており、きめ細かな就労支援を行う「しごと情報ひろば」とハローワークとの一体的運営による相乗効果が見られるところである。平成28年9月に、施設狭隘等によりクレオ大阪西における一体的運営を解消し、平野区内で単独運営していたクレオ大阪南の窓口とを統合して、新たに平野区役所内に「しごと情報ひろば平野・阿倍野ハローワークコーナー」を開設したところであり、平野の利用も堅調に伸びている。

【しごと情報ひろば】

(平成28年度)

運営形態	名称	開設場所	窓口実績	
			相談件数	就職者数
一体的運営	天下茶屋	南海電鉄、地下鉄天下茶屋駅共用コンコース内	10,391	702
	西淀川	西淀川区役所内	6,370	669
	平野	平野区役所内 ※H28.9開設 9月まではクレオ大阪南（市単独施設）で開設	3,063	305
市単独施設	クレオ大阪西	※クレオ大阪西はH28.9まで一体的運営 クレオ大阪西内	2,801	207
	マザーズ		882	127
	クレオ大阪南	クレオ大阪南内 ※H28.9に「平野」に統合	837	72
合計			24,344	2,082

「地域就労支援センター」では、センター窓口での相談に加え、利用者が身近な区役所で就労相談を受けられる機会を提供しており、平成28年度の実績としては、相談

件数が3,844件、就職者数が257人となっている。

また、対人関係能力やコミュニケーション能力向上に向けたグループワークを実施し、延べ137人を支援している。

センターの認知度向上も兼ねて、大阪労働局・ハローワークなどの関係機関の協力を得て市民の身近な場所で就職相談会を行う「ハローステップ就職応援プラザ」を市内5か所で開催し、359人の参加があったところである。

名 称	開催場所	開催日	参加者数
ハローステップ就職応援プラザ			
in じょうとう	城東区民センター	2016/8/5	151
in すみよし	住吉区役所	2016/9/15	32
in 中央図書館	大阪市立中央図書館	2016/10/7	53
in ふくしま	福島区役所	2016/12/8	82
in ひがしよどがわ	東淀川区民ホール	2107/2/9	41
合 計			359

(2) 今後の取組

求職者のさらなる利用の促進を図るため、「しごと情報ひろば」等相談窓口の存在及びその有用性の認知度が向上するよう、SNS、民間の情報サイトなど各種媒体を積極的に活用し、事業の情報発信を行っていく。

4 女性の活躍促進

(1) 子育てをしながら働くことのできる環境整備

大阪市においては、平成 30 年 4 月に保育を必要とする全ての児童の入所枠を確保するなど、市民の保育ニーズにきめ細かく対応するための取組を進めている。

平成 28 年度においては、民間保育所の新設、認定こども園、地域型保育などの整備により 1,971 人分の入所枠を確保したところであるが、平成 29 年度においては、次のような取組を進めている。

【多様な保育ニーズへの対応】

- ◆ 平成 29 年度予算で新たに 6,053 人分の入所枠確保のための整備予算を計上
- ◆ 平成 30 年 4 月時点の保育ニーズ量約 5.5 万人分に対応する入所枠を確保することで待機児童を含む利用保留児童の解消を図る
- ◆ 平成 28 年 7 月に設置した、市長をリーダーとする「待機児童解消特別チーム」の議論等を踏まえ、従来の手法にとらわれない、強力な特別対策に取り組む

■ 民間保育所等整備事業（116 億 5,600 万円）

➤ 認可保育所や地域型保育事業所等の創設などで新たに 6,053 人分の入所枠を確保

- ・ 認可保育所等の創設 55 か所 4,220 人分
(保育送迎バス事業 2 か所 140 人分含む)
- ・ 地域型保育事業所の創設 88 か所 1,644 人分
(庁舎活用分 25 か所 475 人分含む)
- ・ 認可保育所等の建替整備 7 か所 189 人分

(参考) 平成 28 年度当初予算額 (43 億 3,900 万円)

≪2,590 人分の入所枠確保≫

➤ 従来の手法にとらわれない、強力な特別対策の取組

- ◇ 全区役所庁舎及び市役所本庁舎に保育施設（小規模保育事業所）を開設
- ◇ 保育送迎バス事業の実施（2 か所）
- ◇ 保育所用に土地を提供した土地所有者に対する補助
(固定資産税等相当額 10 年分)
- ◇ 土地を賃借して保育所を整備する場合の整備補助金を増額
(約 3,200 万円の補助金増・60 人定員の場合)
- ◇ 各区内の市有財産について、保育所用途として優先活用
- ◇ 都市公園を活用した保育所整備に着手
- ◇ 大規模マンションの建設計画前に保育所設置の事前協議を義務化する条例を制定

(2) 女性の活躍促進企業の推進

大阪市では、企業における女性活躍促進の取組を広げていくため、女性の管理職登用や継続就労等女性が働きやすい職場環境づくりに積極的に取り組む企業等を認証する「大阪市女性活躍リーディングカンパニー認証事業」を平成 26 年 10 月から実施しており、企業が認定に向けて取り組むメリットの周知を含め情報発信を行うとともに、認定を受けた企業を積極的にPRしている。

(ア) 取組の成果

平成 28 年度当初に、「女性活躍リーディングカンパニー認証企業」等を対象に実施したアンケート調査により女性登用等による企業経営上の具体的なメリットについて把握し、認証によるメリット（企業のイメージアップや人材確保につながったことなど）をホームページで情報発信した。

経営・管理者層を対象とした研修会や、経済団体と共催したセミナー等を通じて、認証制度のPRをはじめ、男性中心型労働慣行の見直しや女性登用等について啓発を実施するとともに、473 社に対し個別にリーディングカンパニー認証の勧奨を行った。

認証制度及び認証企業のPRに向け、とくに優れた取組を行っている企業を対象に、市長表彰（最優秀企業4社、優秀企業6社）を平成 29 年 3 月 3 日に行うとともに、認証企業名入りのポスターを作成し、大学等において掲示するとともに地下鉄駅構内への掲示を行った。

また、認証を受けるメリットを高めていくため、認証企業に対し、市が実施した就職支援イベント（合同企業説明会等）への優先的な参加を働きかけ、人材確保を支援するとともに、企業間の情報交流の支援に向け、「ネットワークフォーラム」を平成 28 年度は5回開催し、延べ 301 社、441 人の参加があり、参加者からは、情報が得られ参考になったとの声が多くあがっているところである。

以上の取組を実施する中、平成 28 年度中においては 139 件の認証を行ったところであり、認証数累計としては、平成 29 年 3 月末時点で 299 件、5 月 1 日時点で 303 件となっている。

(イ) 今後の取組

平成 28 年度に本市が実施した企業アンケート調査では、女性の管理職登用に取り組む企業の割合は 26.6%であり、うち、従業員 301 人以上の大企業が 54.5%であるのに対し、301 人未満の中小企業は 23.7%と、中小企業の取組は大企業ほど進んでいない。

認証制度の認知度についても、大企業の 38.2%に比べ、中小企業は 9.2%と低い状況にあり、また、実際に中小企業に勧奨を行うなか、どのように取り組んでいけばいいのかわからない企業や、女性の活躍推進に意欲はあるものの認証の条件をクリアできるまでの取組が進んでいない取組初期段階の企業も少なくない。

こうした状況を踏まえ、中小企業における女性活躍推進の取組を促進・支援するため、平成 29 年度から、「大阪市女性活躍リーディングカンパニー」認証制度の拡充を行い、女性活躍の取組を進めようとしている取組初期段階の意欲的な中小企業をチャレンジ企業として新たに認証することとし、各社のニーズ・状況を把握し、取組が進むよう必要な情報、ノウハウの提供やコンサルティングなどきめ細かな支援を行うとともに、認証企業をはじめとした中小企業の先進的な取組事例の情報発信等を行っていく。

(3) OSAKAしごとフィールド等を軸とした女性の就業支援

大阪市では、若者・女性が力を十分に発揮し、活躍できる社会づくりを進めているところであり、「しごと情報ひろばマザーズ」や、「女性の就労支援事業「女性向けキャリアサポート事業」において、一時保育付の就労相談や、再就職の不安を解消するためのセミナーの開催を行うとともに、女性の活躍を応援する企業を中心としたマッチング機会と保育に関する情報を一体的に提供するなど、家庭生活と両立できる仕事探しを支援している。

(ア) 取組の成果

「しごと情報ひろばマザーズ」では、市内在住のすべての女性を対象に、保育士が常駐の上、キャリア相談、保育サポートブックの提供、職業能力開発に向けた各種セミナーなどを実施するとともに、求職者のニーズにあった独自求人開拓による職業紹介や、就職説明会を行っており、平成 28 年度の実績としては、相談件数が 882 件、就職件数が 127 件となっている。

また、「女性向けキャリアサポート事業」では、「Woman Career Design OSAKA」と題し、女性の働く意欲やこれまでのキャリアを発揮して、自分らしく輝けるキャリアデザインを応援する取組を実施した。具体的には、「仕事と家庭を両立するための心構えやテクニックを学べるセミナー」や、家族をもちながら社会で活躍する先輩ママとの交流会、女性のキャリアを応援する求人企業と出会えるマッチングイベント、キャリアカウンセリングや個別相談など、多彩なプログラムを提供し、平成 28 年度の実績としては、各種セミナー参加者が延べ 452 人、マッチングイベントの参加者が延べ 369 人で、就職者数 38 人となっている。

さらに、本年 1 月から 2 月には、「大阪マザーズハローワーク、ハローワークプラザ難波女性活躍応援コーナーと連携、役割分担を図りながら、パソコン講座や就職面接会を開催する「保育士有資格者等マッチング支援事業」を実施し、潜在保育士と保育施設の結びつけにも取り組んだところであり、その実績としては、参加者数が 369 人、就職者数が 53 人となっている。

【取組実績】

	イベント内容	実施回数	参加者数	就職者数
しごと情報ひろばマザーズ	セミナー	7	52	-
	就職説明会	3	38	5
女性向けキャリアサポート事業	セミナー	22	452	38
	マッチングイベント	11	367	
保育士有資格者等マッチング支援事業	パソコン講座	14	190	24
	就職面接会	3	179	29
合 計		60	1,278	96

(イ) 今後の取組

「しごと情報ひろばマザーズ」には、子育てなど様々な制約を持った就労希望の女性が来所してくるため、今後も引き続き、求職者のニーズに即した独自求人開拓を行い、少しでも多くの就職を支援する。

女性の就労支援事業についても、より多くの求職者を支援できるよう、ホームページ、Facebook、地下鉄広告はもとより、子育て層をターゲットとする民間フリーペーパーなど民間情報媒体といった、連携可能なツールを活用し、情報が支援を必要とする方に届くよう努める。

また、提供するプログラムとしても、求職者及び求人企業のニーズをふまえ、再就職・育休復帰の不安感の解消、子育てとの両立の壁を乗り越えるためのノウハウや情報の提供、参加者同士で話すワークや、ロールモデルとの交流等を内容とする、一時保育付のセミナーを開催するとともに、大阪市女性活躍リーディングカンパニー認証企業やくるみん・えるぼし認定企業など、ワーク・ライフ・バランスや仕事と育児・介護等の両立を支援する職場づくり、女性の登用、継続就業等の取組を進めている求人企業を積極的に開拓し、これらの企業等とマッチングを図ることにより、女性の就労を支援していく。

さらに、平成29年度においても、ハローワークプラザ難波と大阪市が連携・役割分担したパソコン講座や面接会を開催することとしており、再就職を希望する女性求職者の就職を効果的に支援する。

【役割分担】

大阪市	ハローワーク
潜在求職者向け広報、講座の機材調達や講座運営、講座受講中の一時保育の運営	会場提供、面接会の運営、求職者の誘導、受付業務・予約管理、個別職業紹介など

就職面接会：平成 29 年 5 月 19 日

就職基礎講座（パソコン初級）：平成 29 年 6 月～平成 30 年 3 月の第 3 金曜日（10 回）
約 2 時間

5 若者の活躍促進

(1) 若者の就労支援

大阪市では、若者・女性が力を十分に発揮し、活躍できる社会づくりを進めているところであり、とりわけ、若者に対しては、「しごと情報ひろば」や若者就労支援事業「若者就業支援プログラム」を通じて、社会人としてのコミュニケーション能力向上のガイダンスや相談等を通じて働く意識付けを図るとともに、自分に合った仕事を見つけるための適性診断やカウンセリングなど就職準備段階から、中小企業等を対象に幅広いマッチング機会の提供、就職後の職場定着までの切れ目のない、ワンストップでのきめ細かな支援を行っている。

(ア) 取組の成果

「しごと情報ひろば」は、若者に対し、就職準備から就職、就職後の職場定着まで、一貫して切れ目のない支援を行う、ワンストップの総合相談窓口として役割を果たしている。さらに、相談窓口にはわざわざ出向かない若者も多い中、一人でも多くの若者を支援するため、大学へ出向いての相談や就職支援イベントといった窓口以外の場所で、若年求職者を掘り起こすアウトリーチ型・掘起し型相談・コーディネート業務を実施しその実績として、457人の参加を得たところである。

【しごと情報ひろばアウトリーチ型・掘起し型相談・コーディネート業務の実績】

名称	回数	参加者数
若者応援フェア (会社求人説明会)	7	238
就労支援セミナー (出張面談会、業界研究セミナー)	35	193
その他セミナー (ワークライフバランスなど)	2	26

※就職者9人(アウトリーチ事業全体を通じた人数)

また、「若者就業支援プログラム」としては、仕事に就き継続して働くことについての意識付けや適性に合った仕事選びのためのキャリアデザインセミナーの開催、若者の採用・人材育成や女性が働き続けられる職場づくりに積極的に取り組む企業等とのマッチングイベントの開催、就職内定後の定着支援などを行い、若者の安定した就職に向けた支援を行った。マッチングイベントでは、大阪府をはじめ、堺市、大阪府内7信用金庫および大阪府信用金庫協会との連携による開催も実施した。平成28年度の実績としては、各種セミナー・研修参加者数が545人、マッチングイベント(しごと応援フェア)参加者数が962人で、就職者数は167人となっている。

【若者就業支援プログラム】

名称	回数	参加者数
しごと応援フェア (合同企業説明会)	13	962
キャリアデザインセミナー	51	502
内定者研修	2	43

(イ) 今後の取組

「しごと情報ひろば」、若者の就労支援事業においては、一人でも多くの求職者を支援できるよう、引き続き、大学との連携や若者が集まる場所へのアウトリーチをはじめ、求職者を掘り起こすアウトリーチ型・掘起し型相談・コーディネート業務を積極的に展開するとともに、SNSなど若者が日ごろ利用する情報収集ツールを活用するなど、情報発信を効果的に行う。

若者の就労支援事業の提供プログラムとしても、求職者及び求人企業のニーズをふまえ、働くことの意義や職業選択における適性診断、コミュニケーション能力といった社会人として身につけるべき能力向上に向けたガイダンスを行うとともに、関係機関と連携を図りつつ、大阪市女性活躍リーディングカンパニー認証企業をはじめ、くるみん、若者応援宣言企業を中心とした合同企業説明会を開催する。また、若者の早期離職防止に向け、企業に対し、「若年離職を出さないための取組」や「仕事と家庭が両立できる職場環境整備」、「女性のキャリアアップを支援する取組」等をテーマとした企業向けガイダンスを実施する。

(2) 中・高生へのキャリア教育

子どもたちの進路をめぐる環境が大きく変化している中、子どもたちが「生きる力」を身につけ、社会人・職業人として自立できるキャリア教育の推進が社会全体で求められている。

このような状況を踏まえ、大阪市教育振興基本計画において、「社会的・職業的自立に向け、子どもの勤労観・職業観を育てるため、企業や団体の協力による職業講話や職場見学、職場体験学習など、子どもの発達段階に応じて体系的・系統的にキャリア教育を進めます」と、キャリア教育を位置付けている。

(ア) 取組の成果

○中学生・・・キャリア教育推進のために体験的な学習（3日間程度の職場体験学習・ボランティア学習）。

平成28年度：130校中125校で職場体験学習等を実施。

○高校生・・・インターンシップ（企業、施設、学校等での就労体験）、地域連携（商

品販売、商品開発、広報活動など)、大学連携(見学会、模擬授業、課題発表など)等の体験的な学習。

平成 28 年度：インターンシップ実施状況－参加者延べ 375 名

地域との連携－・企業経営者による社会人育成講座

「淀川フェスティバル ものづくり体験指導」 など

(イ) 今後の取組

生徒のキャリアアップを目的に、働くことに自信が持てない若者の自立支援事業である「コネクションズおおさか」による「出前セミナー」の実施を予定している。

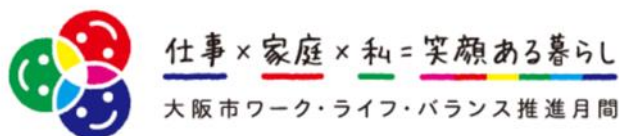
7 ワーク・ライフ・バランスの実現

(1) 大阪市ワーク・ライフ・バランス推進月間の取組

大阪市では、市民、企業の方々に広くワーク・ライフ・バランスの意義、重要性を理解し、取組を進めていただけるよう、平成28年度から新たに、8月を「大阪市ワーク・ライフ・バランス推進月間」として設定し、大阪女性きらめき応援会議の構成員（一般財団法人大阪市男女共同参画のまち創生協会、大阪市女性起業家情報交流協会、大阪市地域女性団体協議会、大阪市PTA協議会、大阪商工会議所、大阪労働局、公益財団法人21世紀職業財団関西事務所、公益社団法人関西経済連合会、公立大学法人大阪市立大学、特定非営利活動法人大阪NPOセンター、日本労働組合総連合会大阪府連合会）の協力を得て、ワーク・ライフ・バランス推進の気運を盛り上げるべく市民が一体となり啓発を行った。

(ア) 取組の成果

「大阪市ワーク・ライフ・バランス推進月間」のコンセプトとして、だれもが「やりがいを感じながら働く時間」と「家族とともに過ごす時間」と「自分自身の趣味や地域活動を楽しむ時間」を調和させることで「笑顔ある暮らし」を実現することをめざし、ロゴマークも作成・活用し、わかりやすく広報・周知を行った。



市の取組として、情報誌、ホームページ、区民まつり等を通じて市民等への広報・啓発、ワーク・ライフ・バランスに関するセミナーの開催、「女性活躍リーディングカンパニー認証企業」への周知・協力依頼、期間中に市民が家族で有意義な余暇を過ごせるようなイベント等の紹介などを行った。

あわせて、関係団体の取組として、経済団体、PTA等各団体の機関紙を活用しての広報・啓発や、関連イベントの開催、地域団体による啓発チラシの地域行事での配付を行うなど、幅広く啓発の取組を共同で実施できた。

(イ) 今後の取組

平成29年度においても、大阪女性きらめき応援会議の構成員の協力を得て、8月に「大阪市ワーク・ライフ・バランス推進月間」の取組を実施する。

今年度は、ワーク・ライフ・バランス及び推進月間の認知度をさらに高めるべく啓発方法を充実していくとともに、経済団体及び女性活躍リーディングカンパニー認証企業等の協力を得て、各企業に推進月間にあわせて具体的取組を実施してもらえよう、働きかけを行っていく予定。

(2) 介護離職防止に向けた取組

介護のために離職する中堅社員、ベテラン社員が増加傾向にあるが、離職者にとって、その後の生活が不安定になり、企業にとっても中核となる人材の退社は大きな痛手であり、双方デメリットが大きく、「ニッポン一億総活躍プラン」においても介護離職ゼロをめざすなど、仕事と介護を両立できる環境整備が重要な課題となっていることから、大阪市では、大阪労働局、経済団体と連携し、「仕事と介護の両立支援」についての啓発や、先進的な取組をされている企業の取組事例を紹介する事業に取り組んだ。

(ア) 取組の成果

介護離職を防止する企業の取組を支援するため、企業の人事労務担当者向けの支援セミナー、シンポジウムを開催し、172人の参加があった。

セミナー、シンポジウム及び、あわせて実施したアンケートを通じて、企業の実態として、介護にかかる諸制度について十分に情報を持ち合わせていないこと、介護との両立支援を図るための取組が十分に浸透していないこと、他社の取組についての情報を得て検討したい企業が多いことなどが明らかになったところである。

- セミナー 平成28年11月24日、29日 大阪市中央公会堂 参加者78名
テーマ「介護支援取組助成金と改正育児・介護休業法」
「仕事と介護の両立について」
- シンポジウム 平成29年3月14日 大阪府立国際会議場 参加者94名
基調講演「介護離職ゼロの職場をめざす」
パネルセッション「企業取組事例の報告」（3社）

【仕事と介護の両立支援】シンポジウムのアンケート結果より

・現在、あなたの勤務先で、家族の介護をされている方がおられますか。

はい 39 いいえ 8 わからない 31

はいの場合、わかる範囲で人数を教えてください。

家族の介護をされている人数

	30歳未満	30代	40代	50代	60代以上	不明
男性	0人	1人	11人	13人	4人	57人※
女性	1人	2人	11人	15人	0人	

※1社で全体数57人と回答

・あなたの勤務先では、現在、介護のための、何らかの対策をとられていますか。

はい 57 いいえ 17 わからない 5

はいの場合、それはどのような対策ですか。

仕事と介護の両立支援制度の従業員への周知	19社
フレックスタイム制度	12社
短時間労働への変更	34社
社内に相談窓口の設置	12社
地域包括支援センター等公的機関の紹介	7社
介護休暇制度	48社
介護休業制度	46社
時間休暇、半日休暇	30社
その他 { 申し出による時間外労働の回避、勉強会の開催 } { 介護についての Web, 積立有給制度 80 日、同一の団体で回答有 }	5社

- ・介護離職予防に関して、どのようなことが知りたいですか、その他、ご意見をお願いします。(いくつでも)

① 介護保険について詳しく知りたい	30社
② 介護についての相談窓口を教えてください	21社
③ 育児・介護休業法について詳しく知りたい	19社
④ 他社の取り組み事例を知りたい	42社
⑤ その他 { ・日生のヒアリングシートの内容を知りたい ・制度利用の従業員の声を聴きたい ・介護サービスについて知りたい ・失敗事例を知りたい ・両立できず、退職した事例をしりたい }	5社

(イ) 今後の取組

各種就労支援事業において、企業人事担当者を対象に、介護離職防止、仕事と介護との両立支援に関する啓発を引き続き実施するとともに、先進的な企業の取組事例を収集し、情報発信を行っていく。

11 「働き方改革推進企業」の顕彰・動機づけ制度創設に向けた検討

(1) 本年度内に結論を得る事項

(ア) くるみん、ユースエール等認定企業に対する公共調達での受注機会の増大 ＜女性活躍の認証企業等にかかる取組＞

大阪市においては、平成 25 年度から総合評価一般競争入札（政策提案型）において、「男女共同参画に関する取組」として、次世代育成支援対策推進法に基づく一般事業主行動計画を策定し、かつ、くるみん認定など一定の取組を行っている場合を評価項目に加えてきた。平成 26 年度からは、「女性の活躍に関する取組」として、「女性活躍リーディングカンパニー」の認証を得ていることや同等の取組がなされると認められる場合も評価項目として加えてきた。平成 28 年度は、40 件の総合評価方式一般競争入札に適用したところである。

また、指定管理者制度にかかる市のガイドラインにおいても、選定基準の中で具体的選定項目及び配点の標準例として「女性の活躍に関する取組」を掲載しているところである。

さらに、平成 28 年度に市民局が実施した 4 件における公募型プロポーザル方式による業務委託において、女性の活躍推進に関する認証等があれば加点する取組を行ったところである。

(イ) 認定一般事業主等に対する金融機関等の支援

＜女性活躍リーディングカンパニー認証企業にかかる取組＞

大阪市では、「女性活躍リーディングカンパニー認証企業」に対して、金融機関（商工中金、大阪シティ信用金庫、大阪信用金庫、日本政策金融金庫）と連携し融資において利率の優遇を行っている。当該融資の利用実績としては 3 件となっている。

(2) 平成 29 年度以降の取組

(ア) 各地方公共団体における認定一般事業主等の受注機会の増大等の施策の検討

(1) (ア) に記載のとおり、総合評価一般競争入札等において、女性の活躍推進に関する認証等があれば加点する取組をすでに実施しており、今後も、女性活躍促進企業の受注機会の増大に向け検討を行っていく。

(イ) 認定一般事業主に準じた優良な企業の取扱いの検討

基本方針においては、「働きやすい企業をできる限り増やしていくためには、若者を応援する企業や女性の活躍促進企業等に対する各種認定制度を有効に活用していくことはもとより」、「認定基準を取得可能な適度な水準にして、各企業が認定取得をあきらめずに働き方改革に意欲的に取り組んでもらえるようにすることが適当である」としている。

大阪市では、平成 29 年度から、女性活躍の取組を進めようとしている取組初期段

階の意欲的な中小企業も対象にできるよう、「大阪市女性活躍リーディングカンパニー」認証制度の拡充を行い、そうした意欲的な中小企業をチャレンジ企業として新たに認証するとともに、各社のニーズ・状況を把握し、取組が進むよう必要な情報、ノウハウの提供やコンサルティングなどきめの細かな支援を行っていく。

13 介護事業における取組

(1) 介護ロボット等の開発

<介護ロボット等導入支援特別事業>

介護ロボットは、介護従事者の身体的負担の軽減や業務の効率化に資する新たな技術が活用され、介護従事者が継続して就労するための環境整備として有効なものであり、介護従事者の介護負担の軽減を図る取組が一層推進されるよう、事業者負担の大きい介護ロボット導入について特別に支援を実施している。

(ア) 取組の成果

国において、介護ロボット導入について特別に支援を実施するため、平成 27 年度補正予算が成立し、本市においても、介護ロボットを導入する際の費用について、国の交付基準に基づき助成するため、平成 28 年度において補正予算（1 億 904 万 4 千円）を計上した。1 法人 1 事業所について 92 万 7 千円を上限として、対象外及び協議取下げの法人を除く 94 法人に対し、8,485 万円を交付決定した。

現在、交付決定法人からの介護ロボット使用状況報告書等を取りまとめ中である。

(参考)

交付決定機器は、マッスルスーツ等の移乗支援機器が約 6 割、見守り支援システム等が約 4 割となっている。

(イ) 今後の取組

国においては、介護施設等への介護ロボットの導入支援を行うとともに、介護機器の開発支援や、介護ロボットを導入した場合の介護業務の効率化・負担軽減効果について、実証検証を行うこととしている。

また、介護ロボットの活用を促進するため、平成 30 年度の介護報酬の改定において、これら効果検証の結果をもとに、介護ロボットを導入した場合の介護報酬加算に向け、検討がされている。

このようなことから、国における効果検証や、介護報酬改定等の国の動向についても注視しながら、本市においても、本事業の効果検証を行うとともに、その結果について情報提供を行うなど、介護人材確保の観点から、介護ロボットの普及、啓発に取り組むこととしている。

第4章 堺市の取組

1 非正規雇用労働者の待遇改善

●不本意正規雇用割合の減少

所管：産業振興局商工労働部雇用推進課

(1) 取組の趣旨・目的

非正規労働者の増加、とりわけ若年者が、正規雇用を希望しているにもかかわらず不安定な就労をせざるをえないことは、本人のキャリアアップや生涯賃金への影響だけでなく、結婚・出産等の障害となり、少子化の増長や社会保障制度の不安を増大させるなど、地域の活性化や発展にも大きな影響を与えるものである。このように、若年者が正社員等常用労働者として就労することの重要性を鑑み、平成17年度に「ヤングJOBステーション事業」として開始した後、平成21年度からは現在の「さかいJOBステーション事業」を、15歳から39歳までの若者及び全年齢の女性を対象に、若者の正社員等安定した就職への支援や育児・介護等様々な理由で離職した女性の再就職支援を実施するとともに、市内企業に対して、雇用・定着に関する支援を実施している。

(2) 取組内容・成果

若年者については、さかいJOBステーション事業「JOBカフェSAKAI」において、就職相談や各種セミナーのほか、正社員求人を募集する市内企業とのマッチングイベント、ハローワークコーナーでの職業紹介等、総合的な就職支援を実施しており、平成28年度の就職決定者の実績としては1,426名、そのうち常用労働者は1,139人(79.9%)、正社員は1,057人(74.1%)である。

(3) 課題

若年求職者、全年齢の女性等に対する職業支援及び市内中小企業の人材確保支援を実施する「さかいJOBステーション事業」のさらなる利用拡大に向けて、周知につとめる必要がある。

(4) 今後の取組

今後とも、若年者や就職困難者等に対する就職支援、安定雇用の実現に向け、きめ細かな支援を行う。

3 高齢者及び障害者の雇用の促進

所管：産業振興局商工労働部雇用推進課

(1) 取組の趣旨・目的

少子高齢化の進展に伴い、企業が高齢者の雇用継続を促進するとともに、高齢者が長年培ってきた知識・経験を活かすことは重要である。また、障害者の雇用については、近年のノーマライゼーション理念の浸透や事業主の皆様の理解と関心が高まっているものの、法律で定められている障害者雇用率を達成していない企業も未だ見受けられる。このような状況において、堺市では関係機関との連携のもと、事業所及び障害者一人ひとりの自立・就労に向けた支援を行っている。

(2) 取組内容・成果

高齢者や障害者など就職に際し阻害要因を持った求職者に対し、(公財)堺市就労支援協会への委託により、堺市地域就労支援センター事業を実施しており、同協会においては平日に毎日、堺区を除く各区役所で毎週1回の就労相談を行っているほか、年4回の職業能力開発講座と、年1回の合同企業面接会を実施している。

障害者雇用については、「堺市障害者雇用貢献企業認定制度」により、障害者雇用に積極的に取り組む市内中小企業を、障害者雇用管理に係る情報提供や奨励金の支給等により支援しており、平成28年度の認定企業は19社であり、市の総合評価落札方式における加点にもなっている。堺公共職業安定所との共催による、企業の事業主や人事労務所管者を対象にした「障害者雇用促進セミナー」における平成28年度の参加者は40名。「障害者面接会」の平成28年度参加企業は10社、参加者は102名、就職決定者は16名である。平成28年度初めて実施した「障害者雇用管理サポート講座」の参加者は5名である。

また高齢者雇用については、「高齢者雇用管理セミナー」の平成28年度の参加者は11名。平成28年度に初めて実施した「シニア面接会」の平成28年度参加企業は10社、参加者は125名である。

(3) 課題

堺市地域就労支援センター事業をはじめ各種事業のさらなる利用拡大に向け、周知につとめる必要がある。

(4) 今後の取組

今後とも、働く意欲・希望がありながら、様々な阻害要因を抱え、就労を実現できないでいる就職困難者への支援を行うとともに、事業所に対しては高齢者や障害者雇用に関する理解を深め、雇用の促進・安定を支援する。

4 女性の活躍促進

●大阪の低い女性就業率

所管：産業振興局商工労働部雇用推進課

(1) 取組の趣旨・目的

堺市においても、就労を希望する女性が、そのライフスタイルに応じた働き方を実現できるよう取り組んでいくことが重要であると考えます。また、企業の競争力強化のためには、女性の活躍推進は重要である。

これらを踏まえ、就労意欲のある女性求職者への総合的な就職支援と女性をはじめとする人材を必要とする事業主への支援、そして女性の再就職支援として「女性のキャリアブランク解消支援事業」を実施している。

(2) 取組内容・成果

平成 21 年度から、さかいJOBステーション事業「女性しごとプラザ」において、全年齢の女性を対象に、結婚・育児・介護等様々な理由で離職した女性の再就職支援を実施しており、平成 28 年度の来場者数は 3,945 名、就職決定者は 345 名である。

また、「女性のキャリアブランク解消支援事業」では、座学研修と市内企業での短期間のインターンシップ研修を行うことで、キャリアブランクに対する不安の解消を図る女性の再就職支援を行っており、平成 28 年度は 25 名が参加した。

(3) 課題

全年齢の女性に対する職業支援及び市内中小企業の人材確保支援を実施する「さかいJOBステーション事業（女性しごとプラザ）」と「女性のキャリアブランク解消支援事業」のさらなる利用拡大に向けて、周知につとめる必要がある。

(4) 今後の取組

今後とも、女性の再就職支援と、市内事業所に対する雇用確保に関する支援を行う。

所管：教育委員会事務局地域教育支援部女性センター

(1) 取組の趣旨・目的

働く女性やこれから働きたいと思っている女性とそのライフスタイルに応じた働き方を実現できるように、堺市内在住、在勤、在学者の女性を対象に就職支援講座「ステップ・アップ・スタディ」を 3 回シリーズで開催する。

(2) 取組内容・成果

再就職のための“今”“自分”発見の講座開催

- ①「今日より明日、私が素敵になる源を探そう～私を見つける色彩心理～」(講師：カラーココロジ研究所 所長 竹村英子、協力：さかいJOBステーション 参加者 29名)
- ②「第一印象を磨く。パーソナルカラーと立ち居振る舞い」(講師：モデル・イメージアップアドバイザー 佳衣(かい)、参加者 44名)
- ③「自分らしく働くを考える～仕事の準備とお金の話」(講師：ファイナンシャル・プランナー 久保田あき、参加者 21名)

(3) 課題

参加者の受講後の調査が行えるとこれからの事業展開に役立つ。PRの方法に工夫ができるとうい。

(4) 今後の取組

今年度も同様に実施予定。

●子育てをしながら働くことのできる環境整備

所管：子ども青少年局子育て支援部幼保推進課

(1) 取組の趣旨・目的

就労等による女性の社会進出の増加、核家族化の進展にともない保育ニーズも拡大・多様化している。

このような中で、本市では働く子育て家庭を支援するため、認定こども園等の新設や既存施設の増改築、幼稚園の認定こども園への移行促進等により受け入れ枠の拡大を進め、待機児童の解消をめざしている。

(2) 国の制度との関係

平成 24 年に、子ども・子育て関連 3 法(「子ども・子育て支援法」、「就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律の一部を改正する法律」、「子ども・子育て支援法及び就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律の一部を改正する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律」)が制定され、平成 27 年 4 月から「子ども・子育て支援新制度」が施行された。

国の「待機児童解消加速化プラン」では、平成 25 年度及び 26 年度を「緊急集中取組期間」、平成 27 年度から 29 年度を「取組加速期間」として、平成 29 年度末までに待機児童解消をめざすとしている。

(3) 取組内容・成果

<認定こども園・保育所等利用申込数と待機児童数の推移> (単位：人)

	25年4月	26年4月	27年4月	28年4月	29年4月
利用申込数	15,416	15,824	16,500	16,911	17,542
待機児童数	62	23	54	16	31

<平成28年度の取り組み>

認定こども園の創設1か所、増改築3か所、大規模修繕2か所
小規模保育事業5か所などで714人分の受け入れ枠を拡大した。

(4) 課題

受け入れ枠の確保にあたっては、将来的には人口減少が予測されていることもふまえ、私立幼稚園も含めた既存ストックを最大限活用しながら進めていく必要がある。

(5) 今後の取組

就学前児童は減少しているが保育所の利用申込者は年々増加しており、この傾向はしばらく続くものと思われる。引き続き、地域におけるニーズの把握・分析に努め、必要な受け入れ枠の拡充を進める。

●女性の就業環境の整備・意識改革

所管：産業振興局商工労働部ものづくり支援課

(1) 取組の趣旨・目的

最近増加している女性の起業家に特化した支援策として、「堺市女性起業家メンター制度」を平成27年度に創設した。

女性の起業家は、「家庭の両立」や「相談相手の不在」といった課題を抱えており、起業に踏み出せない場合があるが、このような女性を支援し、新たな経済活動の担い手を創出することを目的にした取組である。

具体的には、3名にメンターとして就任していただき、自らの経験に基づくアドバイスや相談を行うことで、女性の起業希望者の不安解消に努め、起業を後押ししている。

(2) 取組内容・成果

公募により集った女性の起業希望者に対して、女性の先輩企業家から事業計画について継続的なアドバイスや相談を受けられる「女性メンターミーティング」を毎年度実施している。

なお、メンターは、過去においてさかい新事業創造センターに入居し、経営サポートを受けていた堺の女性起業家に就任いただいている。

【これまでのメンターミーティング実績について】

平成 27 年度参加者 16 名（うち起業者 7 名）

平成 28 年度参加者 16 名（うち起業者 1 名）

(3) 課題

事業実施の際に、無料託児サービスを設けているが、当日に子どもの都合で出席できなくなる方がいるなど、全回出席をすることが厳しい方がいる。起業に対するレベル感の違いから、途中で脱落してしまう方がいる。メンターとメンティーの日程の都合により、メンティーが希望のメンターにつけないといったミスマッチングもある。

(4) 今後の取組

今後とも、起業をめざす女性を対象とした支援事業をきめ細かく実施し、更なる女性の起業促進を図っていく。

所管：産業振興局商工労働部雇用推進課

(1) 取組の趣旨・目的

生産年齢人口の減少が続く中、地域産業の持続的な発展のためには、女性をはじめとする多様な人材の活用と定着が求められている。その一方、堺市内製造業等事業所において、女性専用の更衣室等が無いなど、女性の採用について職場環境整備が十分でないという状況をふまえ、女性の職域拡大や働きやすい職場環境づくりを推進するため、市内中小企業等に対して、職場における労働環境の改善のための経費の一部を補助する制度「堺市女性雇用促進等職場環境整備支援事業補助金」を平成 29 年度に新たに創設した。

(2) 取組内容・成果

平成 29 年度の新たな制度であり、要件を満たす市内の法人・個人事業主を補助対象としており、補助対象事業としては①専ら労働者の使用に供するための女性用施設（トイレ・シャワールーム・更衣室・休憩室）の整備と、②女性の就労に際しての安全対策である。

(3) 課題

平成 29 年度の新たな制度であるため、広く市域の中小企業等への周知する必要がある。

(4) 今後の取組

平成 29 年度の申請状況・申請内容を確認しつつ、さらに使い勝手の良い制度にしていく。

所管：消防局総務部人事課

(1) 取組の趣旨・目的

女性消防職員が活躍することにより、子どもや高齢者、災害時の要支援者など、様々な状況にある多様な住民への対応力が向上し、住民サービスの向上が図れるもの。

消防全体として、消防吏員に占める女性消防吏員の全国の比率を平成 38 年度当初までに 5%に引き上げることを目標とする総務省消防庁の通知に基づき、当局においても全職員における女性比率 5%を目標とし、女性活躍推進に関する取組を実施している。

(2) 取組内容・成果

女性活躍推進に関する内容についてホームページに掲載するとともに、女性を対象とした就職説明会を開催することで、採用試験の女性受験者を確保し、女性職員数の増加を目標とするもの。

平成 29 年 4 月 1 日現在では女性職員が 31 名、全体の 3.4%であり、平成 28 年 4 月 1 日現在の女性職員 26 名、全体の 2.9%と比較すると上昇傾向にある。

(3) 課題

現状では女性の管理職員がいないため、同じ職場にロールモデル等がないことにより、将来のキャリアを描きにくいことも考えられることから、市長事務部局とも連携し、キャリア形成を支援する必要がある。

(4) 今後の取組

今後とも、計画的な女性職員の採用を継続するとともに、老朽化による庁舎の建て替え時には女性用の施設を整備するなど、計画的に事務を進める。

5 若者の活躍促進

所管：産業振興局商工労働部産業政策課

(1) 取組の趣旨・目的

堺市では、平成 17 年度より堺市ものづくり投資促進条例（旧：堺市企業立地促進条例）による市税の軽減やオフィスの新規立地に対する補助金などの優遇措置を行うことで企業立地を促進し、雇用機会の拡大に取り組んでいる。

さらに、平成 28 年度からは、国の地方拠点強化税制の適用除外区域において、同等の優遇措置を適用し、本社機能の移転・拡充を促進する企業中核拠点立地促進事業補助金制度を実施したところ。

(2) 取組内容・成果

昨年度は、堺市ものづくり投資促進条例に基づき、5 社の企業投資を認定した。オフィス立地を促進する業務系機能集積促進補助金では、3 社を認定した。

(3) 課題

市内外の企業に対し、本市の立地ポテンシャルや、企業立地に係る優遇制度の更なる周知を図る必要がある。

(4) 今後の取組

本市の有するネットワークを活用し、あらゆる機会をとらえて、引き続き本市の立地ポテンシャルや当該制度をはじめとする投資優遇制度の周知を図るとともに、今年度より新たに首都圏の展示会へ出展し、更なる企業誘致に取り組む。

所管：産業振興局商工労働部雇用推進課

(1) 取組の趣旨・目的

近年、中小企業にも目を向けつつあるものの、依然として学生の大企業志向は強いなかで、就職先として堺市の中小企業を選択するようなきっかけづくりを行うとともに、学生が、社会・企業が求める人材像を理解し、正しい職業観を持つことを支援する。

(2) 取組内容・成果

社会や企業の将来を支える若年層の育成の観点から、堺経営者協会、南大阪地域大学コンソーシアム、堺市が連携し、「堺・南大阪地域インターンシップ推進協議会」を立ち上げ、平成 28 年度は 212 名の学生がインターンシップに参加した。

また、「堺地域人材ネットワーク協議会」では、堺市の企業で活躍する人材の確保・

育成を図るため、若者の採用に積極的な中小企業と高等学校、大学等とのネットワーク構築の支援を行っている。

- ・社会人基礎講座：平成 28 年度 569 名
- ・企業出前講座：平成 28 年度 671 名
- ・企業見学バスツアー：平成 28 年度 32 名
- ・産学交流会：平成 28 年度 115 名

(3) 課題

新規学卒者等の雇用のミスマッチ解消を目的にインターンシップ事業、キャリア教育支援事業や、教職員と市内企業のネットワーク形成支援事業を実施し、市内企業の人材確保支援と学生の安定雇用を図る。

(4) 今後の取組

インターンシップ事業への参加について、大学のキャリアセンターへの働きかけを強化するなど、参加者の確保を行い、今後とも、若年者に対する就職支援、安定雇用の実現に向け、きめ細かな支援を行う。

7 ワーク・ライフ・バランスの実現

所管：市民人権局男女共同参画推進所管男女共同参画推進課

(1) 取組の趣旨・目的

ワーク・ライフ・バランスの実現のためには、固定的性別役割分担意識の解消や、長時間労働を前提とした従来の働き方を見直す等により、仕事と育児や介護、地域活動などが両立できる社会を実現することが必要である。

このことより、労働関連各種法令や男性の家事・育児参画等男女共同参画に関する幅広いテーマを扱い市民意識の啓発を図るため、男女共同参画に関する情報を発信する男女共同参画推進課だより『W i n d y』を発行（年1回、7,000部）している。

(2) 取組内容・成果

本市で開催した講演会や講座等の実施内容を主な記事とし、それらに関連するテーマの統計データをグラフ等も用いて掲載するとともに、市民グループの活動や、女性活躍推進法関連情報の紹介など、幅広い内容の情報発信し、市民一人ひとりが男女共同参画について問題を認識し、考える機会を提供できた。

(3) 課題

本情報誌の効果検証や市民の意識の変化等を把握するため読者アンケートを募っているが、所管数が少ないため回収率を上げる工夫が必要である。

(4) 今後の取組

労働関連各種法令の周知及び情報提供や男性の家事・育児参画等幅広いテーマやタイムリーな話題をとりあげ、今後も継続的に市民意識の啓発を行う。また、効果的な配布先についても検討する。

所管：市民人権局男女共同参画推進所管男女共同参画推進課

(1) 取組の趣旨・目的

ワーク・ライフ・バランスの実現のためには、固定的性別役割分担意識の解消や、長時間労働を前提とした従来の働き方を見直す等により、仕事と育児や介護、地域活動などが両立できる社会を実現することが必要である。

本市では、全国初の男女共同参画都市を宣言したことを記念し、1月21日を中心とする1週間を『さかい男女共同参画週間』と定め、男女共同参画社会の実現に向けた事業を集中的に実施し、市民意識の啓発や高揚を図っている。

(2) 取組内容・成果

記念講演をはじめ、課題別ワークショップ、女性の労働に関するセミナー等、1週間の期間中に男女共同参画社会の実現に向けた事業をさまざまな観点から集中的に展開し、市民意識のより一層の高揚を図った。記念講演・課題別ワークショップの企画・運営は、市民で構成される堺市男女共同参画推進会議との協働で取り組み、より市民ニーズを反映したものとする事ができた。

(3) 課題

参加者が比較的中高年層または女性に偏っていたため、効果的な広報手段や講演テーマを検討し、若年層や男性も含めた幅広い層に多く参加していただけるよう工夫する必要がある。

(4) 今後の取組

引き続き『さかい男女共同参画週間』において、集中的に事業を展開し、課題に挙げたとおり、若年層や男性にも参加してもらえるような企画を検討する。

所管：産業振興局商工労働部雇用推進課

(1) 取組の趣旨・目的

国の「働き方改革」の考え方にもあるとおり、女性をはじめ、若者・高齢者・障害者・外国人などあらゆる人が活躍できる労働環境整備が重要であると考え、堺市では、市域の事業所に対して、継続した啓発事業を行うとともに、就労意欲のある求職者への総合的な就職支援を行っている。ワーク・ライフ・バランスの推進に関しては、事業所向けに毎年、セミナーの開催と、専門コンサルタントの派遣を行っている。

(2) 取組内容・成果

「第4期さかい男女共同参画プラン」の中にも事業を位置付けるなど、庁内関係部署と連携して事業を行っている。実績としては「ワーク・ライフ・バランスを考えるセミナー」については、市内経済団体の後援を受けて開催しており、平成28年度は20名が参加し、「ワーク・ライフ・バランス推進コンサルタント派遣事業」について、平成28年度は3社に専門コンサルタントを派遣した。

(3) 課題

働きやすい職場づくりに取り組みたい市内事業所に対し、「ワーク・ライフ・バランスを考えるセミナー」、「ワーク・ライフ・バランス推進コンサルタント派遣事業」について、さらなる周知につとめる必要がある。

(4) 今後の取組

今後とも、庁内関係部署と連携し、女性をはじめとするあらゆる人が活躍できるよう、市内事業所に対し、ワーク・ライフ・バランス制度の導入を支援し、取組の拡大を促していく。

所管：教育委員会事務局地域教育支援部女性センター

(1) 取組の趣旨・目的

女性の学習意欲に応え、女性が主体的にその能力を培い、社会のあらゆる面に積極的に参加し、活動ができるように、女性の文化と教養を高めるために開催する生涯学習講座「堺自由の泉大学」の男女共同参画市民啓発講座にて「女性の経済の発展」講座を年間3回開催し、ワーク・ライフ・バランスの実践など啓発を行う。

(2) 取組内容・成果

- ①「リケジョの活躍」(講師：工学博士 相馬芳枝、参加者 419名)
- ②世界の潮流 2016 女性が活躍するための条件とは？(講師：関西大学客員教授 大崎麻子、参加者 273名)
- ③社会保険の適用拡大と女性の働き方(講師：社会保険労務士 松井一恵、参加者 190名)

(3) 課題

若者が参加しやすい時間帯での開催。

(4) 今後の取組

今年度も引き続き堺自由の泉大学にてワーク・ライフ・バランスの実践、女性活躍推進法の意義とその活用などをテーマとして講座を展開していく。

8 外国人留学生の就職促進と成長戦略

所管：産業振興局商工労働部産業政策課

(1) 取組の趣旨・目的

堺市内の企業やタイ王国の日系企業で広く活躍できる人材の育成および堺市や堺市内の企業とタイ王国との相互理解を深めることを目的に、市内の留学生に対し、インターンシップ等の機会を提供している。

(2) 取組内容・成果

タイ王国・泰日工業大学の学生を半年程度、大阪府立大学へ留学生として受け入れ、専門教育、日本語研修、堺市内の企業へのインターンシップ等の機会を提供。

平成 26 年度～平成 27 年度、計 7 名の留学生を受け入れ、1 名がインターンシップ先企業へ就職。

(3) 課題

本事業のさらなる周知により、留学生・インターンシップ受入企業双方の参加を促進し、堺市内企業のグローバル人材確保の手段として安定した実績を上げられるようにするとともに、タイ王国における堺市の知名度を向上させる。

(4) 今後の取組

本事業の実施主体である大阪府立大学、堺市、堺商工会議所が引き続き協力して、来日した留学生、インターンシップ受入企業への細やかな対応を行い、堺市内の企業または現地日系企業への就職率を向上させる。

13 介護事業における取組

●介護現場の構造的問題

所管：健康福祉局長寿社会部地域包括ケア推進課

(1) 取組の趣旨・目的

平成 24 年度から「さかい介護人材確保・育成支援事業」として、介護事業者の新規雇用の採用力の強化と、介護人材の定着に向けた働きやすい職場づくりに対する支援を実施している。個々の介護事業者の人材マネジメント等の職場環境の改善により、「採用→定着→育成→職場の活性化→採用→・・・」の好循環を生み出し、魅力ある介護業界となることをめざしている。

(2) 国の制度との関係

平成 29 年度に介護職員処遇改善加算が拡充された。

(3) 取組内容・成果

「働きやすい職場環境づくり」のコンセプトの下に、各事業者が職場環境を自己点検するためのアンケート調査の実施と改善策を導くためのワークショップの他、人材の確保に向けた事業者のスキルを向上するための「採用力向上研修」や、人材の定着に向けた「定着力向上研修」等を行っている。自己点検の結果、各事業者の漠然としていた問題点が明らかになり、その問題点を解決するために事業者ごとに具体的な取組みを立て易くなるという成果が得られた。また、離職の可能性のある年代の傾向が判明するなど、介護業界全体の課題も明らかになり、本市の今後の事業展開の参考となった。

(4) 課題

平成 28 年度に実施した高齢者実態調査において、職員が不足していると感じている事業者は半数以上に及び「思ったほどの人材を確保できなかったため」が主な理由となっていた。大阪府と連携した広域でのアプローチを検討していくことが今後の課題である。

(5) 今後の取組

引き続き「働きやすい職場環境づくり」に向けた事業を展開していくと共に、介護業界のイメージアップを図る取組も検討していく。

14 広報・啓発活動

所管：産業振興局商工労働部雇用推進課

(1) 取組の趣旨・目的

現在、国をあげて、働き方改革が大きな課題となっており、非正規雇用の処遇改善、超過勤務の削減、過労死の防止や、若者、女性、高齢者、障害者などあらゆる方が活躍しやすい環境整備等の取組を進めていかなければならない。

(2) 国の制度との関係

働き方改革実現計画

(3) 取組内容・成果

堺市が事務局を担う堺雇用労働推進会議では、堺市域の雇用・労働問題に対処するため、産業界・労働界・行政等が、雇用推進や中小企業支援等に関する方策の検討を行い、また、労働に関わる課題や問題を共通認識し、それらの解決に向けて相互に連携・協力を行っている。

平成 29 年度は、構成団体がそれぞれの立場から強みを活かし、市内事業所の事業主、人事担当者等を対象に、堺雇用労働推進会議が主催となり、9 月 13 日に「働き方改革セミナー」を開催する。

セミナーの内容としては、働き方改革について総合的な全体像を理解してもらうことをはじめとして、ワーク・ライフ・バランスの実現、女性及び若者の活躍推進、高齢者及び障がい者の雇用推進等を予定している。多様な働き方の推進、労働者一人ひとりのニーズに対応した働き方ができる環境づくり等の実現に向けた考え方やヒント、取組事例などを伝えるものである。

(4) 課題

平成 29 年度の新たな取組であるため、構成団体と協力のうえ、広く市域の事業主等への周知する必要がある。

(5) 今後の取組

平成 29 年度の取組について、参加者対象の事後アンケートを実施するとともに、構成団体に意見を聞いた上で、次年度以降の取組について検討する。

第5章 日本労働組合総連合会 大阪府連合会の取組

日本労働組合総連合会大阪府連合会（以下、連合大阪）は、めざすべき社会像として「働くことを軸とする安心社会」を掲げ、「働くこと」に最も重要な価値を置き、誰もが公正な労働条件のもとで、社会に参画するための取組を推進している。政府の「一億総活躍社会」の実現は、働き方改革の取組が大きな柱となっているが、労働の質、すなわちディーセントワーク、「働きがいのある人間らしい仕事」という観点にこだわった取組が肝要と考えている。この改革が労働組合のない職場で働く未組織労働者も含め、すべての働く者の立場に立った「働き方改革」となるよう、連合大阪は関係団体と連携し、強力に取組を展開してきた。また、一方で、人工知能（AI）やIoTなどの技術革新による働き方改革への対応にも、近い将来、職場や仕事がなくなってしまうかねないとの危機感をもって、労働組合が能動的、自発的に取り組んでいかなければならないと考えている。

1 非正規雇用労働者の待遇改善

（1）同一労働同一賃金

政府「働き方改革実現会議」において、同一労働同一賃金の議論が行われ、2016年12月に正規雇用労働者と非正規雇用労働者の待遇差に関する具体例などを示した「同一労働同一賃金ガイドライン案」がまとめられた。さらに2017年3月には、連合本部が求めてきた長時間労働の是正や非正規雇用労働者の処遇改善などを盛り込んだ「働き方改革実行計画」が決定された。今後は、同一労働同一賃金の実現に向けた法整備（労働契約法、パートタイム労働法および労働者派遣法の3法）に向けた取組が進められる。

連合大阪は、（公社）関西経済連合会との「大阪労使会議」（2016年11月1日）で政府「同一労働・同一賃金の実現に向けた検討会」の委員を講師に招聘し、労使で学習会を開催した。労働側からは、労使自治を原則とした労働条件と法整備のあり方や働く者の納得性と実効性を高める職務分析・職務評価の普及、待遇に関する合理性の立証責任は使用者側が負うことなどを意見提起した。さらに「働き方改革実現会議」に委員として参画する連合本部には、労使自治の原則と非正規労働者の声が反映される仕組みの必要性等についても各種会議を通じて意見具申してきた。また、連合大阪が主催する「労働関係セミナー」では、連合大阪法曹団と連携し、「同一労働同一賃金のガイドライン案～その位置づけ、内容、評価と問題点～」をテーマに、弁護士からの解説で理解を深めた。

今後の取組として、ガイドラインの実効性を高めるために労使協議の加速と労働組合による職場点検活動の強化を方針に掲げていくが、同一労働同一賃金に限らず、「働

き方改革」は、現場の労使の取組こそがカギとなってくる。労働組合のない職場で働く人を含めたすべての働く者の立場に立った「働き方改革」となるよう、全力で取組を展開していく。

<主な取組>

- ・各種学習会の企画開催（労働関係セミナー）と参画
- ・大阪労使会議で有識者との意見交換
- ・府民へのアピール

（2）不本意非正規雇用割合の減少

連合本部は、すべての働く者の処遇改善をめざして、2010年から「職場から始めよう運動」を展開している。この運動は、労働組合に結集するものとして「同じ職場・地域で働く非正規労働者が抱えている課題を、みずからにつながる課題として捉え、その改善のために何ができるのかを考え、具体的なアクションを、それぞれの職場・地域から始めていくこと」をめざすものである。

連合大阪は、2017春闘で非正規共闘会議を設置し、非正規メーデーの企画や構成組織・単組の協力を得て「職場から始めようアンケート」を展開している。具体的には、正社員への転換ルールの導入・促進、無期労働契約への転換促進、諸手当、各種休暇取得、教育訓練の機会などについて、非正規労働者の実態調査を行っている。今次調査では2018年4月からの改正労働契約法の施行に基づき、有期契約労働者の無期転換が可能となることからその前段で調査を行い、非正規労働者の処遇改善に向けた取組を進めている。回収目標は200単組とし、2017年8月に集約結果をまとめて報告する。

<主な取組>

- ・非正規メーデーの開催
- ・「職場から始めようアンケート」を実施
- ・非正規共闘会議の設置

（3）無期転換ルールの周知徹底

上記（2）に加えて、2017春闘で経済団体や経営者協会との協議において2018年4月より労働契約法18条に基づく、有期契約労働者の無期契約への転換開始など、雇用の安定化に向けて、使用者側へ周知するとともに法の順守を要請した。

<主な取組>

- ・経済団体や経営者協会への要請

2 労働生産性向上等を通じた、超過勤務の削減等職場環境の整備

連合大阪 2017 春闘方針では、健康で働き続けられる労働時間と過労死ゼロの実現に向け、以下の内容を掲げて職場点検活動を実施、強化した。

- ①中小企業における月 60 時間を超える割増賃金率の 50%以上への引き上げ、
- ②勤務間インターバル規制（原則 11 時間）の導入、
- ③特別条項付き 36 協定を適用する場合における構成組織ごとの年間上限時間の設定、
- ④36 協定の遵守状況の点検とそれを踏まえた労使協議、
- ⑤年次有給休暇の取得状況の点検とともに取得率向上に向けた環境整備・計画的付与制度の導入。

また、経済団体や経営者協会との協議では、賃金改善の要求のみならず、特別要請として、時間管理の適正化や年休取得推進など、長時間労働の是正を強く要請した。長時間労働の是正に関しては、3月13日の経団連と連合本部による労使合意に基づき、「罰則付き時間外労働規制の導入」という、労働基準法 70 年の歴史の中での大改革に至った。今後、労働政策審議会労働条件分科会において、実行計画に基づく法・制度整備の議論が行われるが、実効性担保に向けた法制化を早期に実現し、長時間労働を是正していくことが重要である。また、労働組合のない職場では、36 協定の仕組みが適切に機能していない実態もあり、これを機にその適正化を進めることが必要である。時間外労働の上限規制は、あくまでも「これ以上働かせてはならない」というもので、労使合意においても特別条項を適用する場合に上限時間水準までの協定を安易に締結するのではなく、月 45 時間、年 360 時間の原則的上限に近づけるべく、不断の努力をはかることの重要性を示している。そして「ここまで働かせてもよい」との誤解を生じさせないよう、連合大阪は時間管理の適正化に関する発信力を強化していく。

また、府民へのアピールでは、職場で働く者の声を目に見える形で結集し、長時間労働是正に向けた実効性ある法規制の実現の後押しとなるよう、大阪府域で街頭行動と街角アンケートをおこなった。街角アンケートは、河内地域、北大阪地域、大阪市地域の 3 カ所で「時間外労働と年休取得」の現状、「36（サブロク）協定や勤務間インターバル規制」の認知度について、タックシールアンケートをおこなった（結果は下表のとおり）。アンケートの結果は、地域や時間帯、雇用形態や年齢層によってバラツキが生じているものの、時間外労働は意外と少ない結果が表れた。しかし、労働時間に関する制度や労使間のルールに関する認知度は低く、組織内外で制度の概要等について広く周知していく。

○街角アンケート結果（期間：4/17～19、時間帯：17：30～19：00）

（回答数：426人、場所：近鉄八尾駅前・大阪モノレール千里中央駅前・京阪天満橋駅前）

<質問内容>	はい	いいえ
時間外労働はありますか	43.1%	56.9%
年次有給休暇はとれていますか	66.1%	33.9%
36（サブロク）協定を知っていますか	52.1%	47.9%
勤務間インターバル規制を知っていますか	23.3%	76.7%

また、「集めよう、届けよう、働く私たちの声」として取組を展開したフォトメッセージでは、「長時間労働をなくそう」や「過労死をなくそう」と書き込んだメッセージペーパーを用いて、構成組織や単組、地域・地区協議会の幹事会や集会等でアピールした。さらに第88回大阪地方メーデーでも、同じように参加者全員の掛け声でメッセージペーパーを高く掲げ、長時間労働の撲滅に向けた取組の前進を誓うとともに世論に訴えた。この取組にあたっては、参加する組合員が長時間労働の是正を「自分事」としてとらえてもらうことも狙いとして推進した。

連合は、働く者・生活者の立場から「働く人が報われる社会」の実現に向けて、組合員だけでなく広く国民に訴える新たなキャンペーン「クラシノソコアゲ応援団！RENGOキャンペーン」を2015年12月から全国各地で展開してきた。また、2016年12月からの第2弾の取組として、暮らしの底上げに関するテーマを広く社会に浸透させるとともに、職場と一体となったワーク・ライフ・バランス実現に取り組んでいる。特に深刻な問題となっている長時間労働の是正および過重労働の防止については、「社会への広がり」（世論喚起）と「職場への深掘り」（組織内徹底）をより強化した取組を行っている。

<主な取組>

- ・フォトメッセージによるアピール（第88回大阪地方メーデー、大阪労働局長と連合大阪会長によるトップメッセージの発信、各種委員会や会合でのアピール）
- ・府域の街頭でのタックシールアンケートやアピール行動
- ・過労死防止大阪センターと連携した取組（80時間超えの特別協定の情報公開等）



4/28 連合大阪非正規メーデー



5/1 大阪地方メーデー



4/4 大阪労働局長との意見交換



4/17 クラシノキャンペーン(近鉄八尾駅)

3 高齢者及び障がい者の雇用の促進

高齢者や障がい者雇用の促進については、高年齢者雇用安定法や障害者差別解消法および改正障害者雇用促進法に基づく、ワークルールの順守と労使協議の推進が重要である。連合大阪では、特に障がい者雇用の促進に関して、「NPO大阪障害者雇用支援ネットワーク」と連携し、9月の障がい者雇用支援月間に合わせて「障害者雇用フォーラム」を開催している。また障害者雇用促進法では、採用など雇用の分野で障がい者に対する差別が禁止され、合理的配慮の提供が義務づけられた。さらに事業主には相談窓口の設置など体制整備が求められたことから、連合大阪ではNPO大阪障害者雇用支援ネットワークとの共催で働く障がい者および働く意欲のある障がい者とその家族、障がい者を雇用する事業主を対象に相談キャンペーンを昨年より実施している。

今後は、NPO大阪障害者雇用支援ネットワーク内に「障がい者なんでも相談センター」の開設支援を行うとともに、障がい者雇用関連法への対応の取組として、事業所の点検活動による実態把握にも努めていく。

<主な取組>

- ・ NPO大阪障害者雇用支援ネットワークと連携した取組（定例会への参画）
- ・ 障害者雇用フォーラムや相談キャンペーンの開催（府域で案内チラシの配布）
- ・ NPO大阪障害者雇用支援ネットワークに「障がい者なんでも相談センター」を開設（2017年6月1日から開設予定）

4 女性の活躍促進

連合本部では、女性の活躍推進に向けて連合第4次男女平等参画推進計画を策定し、つぎの3つの目標を掲げて活動を進めている。①働きがいのある人間らしい仕事（ディーセントワーク）の実現と女性活躍促進、②仕事と生活の調和、③多様な仲間の結集と労働運動の活性化。また、具体的な数値目標として、①2015年までに、運動方針に男女平等参画推進と「3つの目標」の取組を明記している組織を100%、②2017年までに、女性役員を選出している組織を100%、③2020年までに連合の役員・機関会議の女性参画率を30%、とする高い目標を設定して強力に取り組んでいる。

連合大阪においても「第5次労働組合への女性参画促進行動計画」（期間：2013年11月～2020年10月の7年間）を策定し、定期大会ごとに計画を見直し、必要に応じて取組の改善をはかってきた。2016年からは全国で唯一のモデル地方連合会として、2017年までに①全構成組織において「運動方針に男女平等参画を明記する」、②全構成組織において「女性役員を選出する」ことを目標として掲げ、運動を進めてきた。また、「第5次行動計画」を組織全体で取り組むために、会長・専従副会長・事務局長・副事務局長・地域事務局長で「女性参画30%達成プロジェクト（略称：達成PT）」を立ち上げた（現段階での達成状況は、下表のとおり）。そしてモデル地方連合会としての取組を強化するため、連合大阪会長自らが構成組織の機関会議等に出向き、2つの目標について共有化をはかった。さらに、全構成組織と地域協議会のトップを対象に、女性活躍に関するトップリーダー宣言を行い、機関紙やホームページで広く周知した。

当面の取組として、構成組織の協力を得て以下の調査項目で現状把握に努めている。調査項目は、①組合員の人数・男女比率（雇用形態別）、②組合役員（産別の執行委員会ならびに幹事会等）の人数・男女比率（役職別）、③組合員専従役員の数・男女比率、④組合議決機関等の代議員・参加者の男女比率、⑤組合の各種研修参加者の男女比、⑥労働相談アドバイザー、オルガナイザーの人数と男女比などとした。また、三役構成組織の代表者（連合大阪副会長）と女性役員選出の課題等について、連合大阪女性委員会とフリーディスカッションを実施し、問題認識の共有をはかった。さらに運動方針への明記ができていない構成組織と、女性参画促進行動計画の意義等について改めて意見交換を行った。

○取組強化前の数値（2016.4.20現在）

	構成組織数	目標を達成している組織	比率
運動方針への明記	44	25	56.81%
女性役員を選出	44	22	50.00%

○取組強化後の数値（2017. 4. 14 現在）

	構成組織数	目標を達成している組織	比率
運動方針への明記	41	34	82. 92%
女性役員の選出	41	29	70. 73%

連合大阪と関西経済連合会で実施した女性活躍推進に関する共同研究では、2015年に女性の就業継続アンケートをもとに労使共同シンポジウム「女性の声から考える一人ひとりが輝く働き方」を開催した。その後の大阪労使会議でも「介護支援、介護離職防止に向けた実態調査」や「子ども・子育て支援施策の会議メンバーおよび自治体との意見交換」などの取組報告を行い、問題認識の共有をはかっている。また、大阪府が開発を進めた産業界のニーズを反映した人材育成プログラム（しごと力育成プログラム）に関西経済連合会と連携し、セミナー企画やモニター募集の協力をおこなってきた。さらに女性が活躍できる社会の実現に向けた連携や方策の検討、情報発信をおこなっていく「OSAKA女性活躍推進会議」や「大阪女性きらめき応援会議」にも構成員の一員として参画し、オール大阪で女性活躍推進の機運の盛り上げに努めている。

<主な取組>

- ・女性参画 30%達成プロジェクトの設置とPTをコアとした各組織への働きかけの強化
- ・構成組織・地域協議会のトップリーダー宣言
- ・女性リーダーセミナーや女性委員会による学習会の企画開催、への参画

5 若者の活躍促進

大阪における雇用環境は着実に改善しているが、若年層についてはまだまだ厳しい状況にあり、連合大阪はキャリア教育の推進に注力している。子ども期から「働く」現場を見学し体験することにより、働くことの楽しさ、難しさを知ること。さらにその体験を通して職業観、就労観の醸成につなげていくことを目的として、2005年から小学生を対象に「Kids 職場見学会」を開催し、高校には就労前教育への講師派遣に取り組んでいる。また、連合大阪単独で初めての寄付講座として、大阪市立大学経済学部で「労働経済論特殊講義 1」～働くということと労働組合～を実施した。講義内容は、「働くこととは」、「労働者の権利とは」「労働組合、労働運動とは」等を柱に、そして労働市場と現場で生じている諸課題等については、産業別労働組合の役員や研究者を講師に招き、専門的な知見による講義をおこなってきた。このような教育活動を通じて、ともに学び、経済・社会活動を担っていく人材育成に取り組んだ。

連合大阪でも次代を担う若手労働組合役員を対象に「次世代リーダー養成講座」を開催し、現在の職務にとどまらず、幅広い知識と公正な価値観を備え、経営側ともしっかりと対話ができ、組合員の相談にのれるリーダーの育成をめざした取組を行っている。

また、2015年より地域の活性化と地域で働く者の労働条件向上とは、車の両輪で進めるべきものとの観点から、全国の地方連合会で「地域フォーラム」を開催している。連合大阪も働く者の賃金の「底上げ・底支え」「格差是正」の実現に向け、2017春闘方針で取組を確認し、大阪府域の各地域での開催をめざし、2015年には大阪南地域（堺市）で初めて開催し、2016年は河内地域（東大阪市）で開催してきた。今年の2017年には北河内地域（枚方市）で「LO活で見つけよう！私たちの未来をこの街で」をテーマに、地域で学ぶ学生と地域で活躍している企業の架け橋となる取組を計画している。

※LO活（「ローカル就活」を略した造語）とは・・・厚生労働省が主導している大学生の地方での就職を支援するプロジェクト。

<主な取組>

- ・連合大阪の加盟組合を基本に職場見学会（体験）を開催【4コース】（対象：小学生）
 - ① 阪急電鉄株式会社 正雀工場（私鉄総連）7月25日（火）※運輸業
 - ② 日本郵政株式会社 新大阪郵便局（JP労組）8月23日（水）※運輸・郵便業
 - ③ パナソニックサイクルテック株式会社（電機連合）8月7日（月）※製造業
 - ④ 株式会社近鉄百貨店 あべのハルカス本店（UAゼンセン）8月17日（木）※百貨店・総合スーパー
- ・連合大阪「2017地域活性化フォーラム in 北河内」の開催
日 時：2017年6月27日（火）

場 所：ラポールひらかた

内 容：①将来社会に出る若者に集まっていただき、基幹産業の礎となっている地元
中小企業の魅力を若者に伝えるとともに働くことの意義を感じてもらえる
企画。

②地元の大学と企業の協力をいただき、働くことの魅力や地元で勤める良さを
伝えていく。さらに、学生と企業が直接交流することで、就職への悩み
や不安の解消や、若者の就職に関する意識の引き上げをする場の提供。

③開催にあたっては、行・労・使・学のネットワークで推進し、今回の開催
を契機に継続した取組をめざす。

・大阪まちひとしごと創生推進会議や大阪新卒者就職応援本部への参画

6 最低賃金の引上げのための環境整備

経済の自律的成長に向けては、日本のGDP約6割を占める個人消費を喚起し、消費性向の高い低所得者層の処遇改善をはかることが、景気の底支えや内需拡大につながるものと認識している。しかし、現在の日本の最低賃金水準は、先進国の中でも極めて低い水準にあり、このままでは社会を不安定化させかねないと懸念している。

大阪府の最低賃金は、2016年に中央最低賃金審議会が示した目安額25円を引き上げ、時間額883円となったが、連合は春闘方針に「誰もが時給1,000円」を掲げ、さらなる大幅な時間給の引き上げをめざしている。

連合大阪は、大阪府の最低賃金を改正決定する「大阪地方最低賃金審議会」に対して、連合大阪加盟の構成組織（産別）と連携し、製造業・サービス業・交通・運輸業など多様な業種から労働者側委員を選出している。また、「大幅な時間給の引き上げと円滑な審議を求めた意見書」をまとめ、加盟組合からも集約するとともに、大阪労働局長および経済団体等への要請行動を精力的に行っている。さらに金額審議で重要な要素を占める生計費においては、セーフティネットとなる賃金水準の「連合大阪リビングウェイジ」（单身男性の最低生計費・時間額）990円を当面の到達目標として定め、金額審議における労働者側の主張の根拠としている。これは連合大阪が連合本部の算出方法を参考に構成組織・単組の協力を得て、独自で商品価格の実態調査や生計費の情報を集約したものである。

加えて大衆行動の強化として、世論喚起するために審議のヤマ場では、大阪府域の商店街を中心に街頭行動を行っている。2016年の街頭行動では、中央最低賃金審議会が示された大阪の目安額25円以上の大幅な引き上げをめざして、その必要性や審議状況をリレートークで訴えるとともに、「誰もが最低賃金1000円以上」の横断幕やプラカードを掲げ、最低賃金に関する「うちわ」や「チラシ」を行きかう人々へ配布し、アピールした。

一方、特定（産業別）最低賃金の改正決定に向けては、改正の意向表明、申し出等の手続きを行うとともに、企業内最低賃金協定の拡大、合意労働者数の確保、疎明資料の収集など円滑な審議に向けた取組を行っている。大阪府の特定最低賃金の業種は、2008年最低賃金法の施行以降、地域別最低賃金の大幅な賃金引上げにより、都市圏において産業ごとのセーフティネット、ミニマム基準の維持、確保が困難な状況となっている。連合大阪は、このような経過から、さらなる特定最低賃金の維持、向上に向けて、真に労使でイニシアチブが発揮できるよう、「改正決定の必要性審議から金額改正審議」までの審議会運営を当該労使で構成する「専門部会方式」を労働者側から提案し、2014年から全国に先駆けて導入してきた。また、大阪府域における産業の基準賃金にふさわしい水準の確保に向けて、最低賃金水準近傍者の職務実態や属性の把握、基幹的労働者の定義の見直し等を行うことを目的に、「連合大阪特定（産業別）最低賃金のあり方研究会」を

設置した。今後は、学識者を主査に研究会メンバーで議論を深め、今夏には一定の方向性を示す報告書を作成し、シンポジウム等で広く関係者に周知していきたいと考えている。

※連合大阪リビングウェイジとは・・・労働者が最低限の生活を営むのに必要な賃金水準を連合が独自に算出しているもの。労働者として健康に働き続けるための基本となる「衣・食・住」と「保健・医療」に関わる費用、暮らしていく上で必要な一定の社会的・経済的つながりに必要となる「交通・通信費」「交際費」、健康で文化的な最低限度の生活のために必要な「教育費」「教養・娯楽費」を費目ごとに試算したもの。

<主な取組>

- ・最低賃金の大幅な引き上げに向けた意見書の集約
- ・経済団体や経営者協会への要請行動と大衆行動による世論喚起
- ・非正規労働者からの意見聴取と審議会での陳情

7 ワーク・ライフ・バランスの実現

2 「労働生産性向上等を通じた、超過勤務の削減等職場環境の整備」を参照

<主な取組>

- ・府民を対象とした働く女性のワーク・ライフプランセミナーの企画開催
～働く女性のための“ホッとカフェ”「ハッピー脳の作り方」～
- ・連合大阪労働関係セミナー「育児介護休業法の改正について」の開催

12 運輸事業における取組

交通・運輸業における人手不足の問題については、共通認識をもっている。このような状況の中で、昨年12月に「大阪人材確保推進会議」が発足し、特に製造業・運輸業・建設業において人材を確保するために、行政と業界、関係団体が一堂に会して、事業の魅力を発信し、雇用促進に繋げていこうという会合が継続的に開催されていることに対して、労働組合も、大いに期待しているところである。

具体的な取組として、人材確保に向けた直接的な事業ではないものの、「5若者の活躍促進」の項で述べたがキャリア教育の推進として、「kids職場見学会」では、製造業・運輸業を中心に事業を企画、推進した。

連合大阪の加盟組合である運輸労連では、全国の主要高速道路のS.A、P.Aや一般道、トラックターミナルなどで、運輸労連の調査員が、未組織のトラックドライバーを対象にアンケート調査を実施している（毎年約1万人前後が回答）。取組内容は、労働時間・運行の実態・労働条件・安全教育など様々な調査を行い、運輸業の政策や行政要望への基本的な資料として活用されている。また、こうした取組をきっかけに組合結成や交通・運輸業に関する労組への加盟等を通じて、労働諸条件の向上に向けた運動を展開している。今後は、このような「現場の声」を大切にした取組を交通・運輸に関する労連と連携し、大阪府域でも活動を展開していきたいと考えている。

<主な取組>

- ・大阪人材確保推進会議への参画
- ・運輸業でのkids職場見学会の開催
- ・交通運輸関連産業の産業別労働組合との意見交換

14 広報・啓発活動

大阪働き方改革推進会議においては、「誰もが安心して働き活躍できる元気な大阪を創り上げる」という気概のもと、多様な構成団体が14項目にわたる基本方針とロードマップを策定した。

これらの協力関係をさらに有機的な連携とするため、情報の共有化や見える化が必須と認識している。その意味では、ホームページでのリンクや責任者クラスによる構成団体での会合など、キメ細かな対応が必要と思われる。また、第2回大阪働き方改革推進会議でも申し述べたが、具体的な数値目標が重要ではないかと考えている。連合大阪としては、2007年に「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）憲章」で定められた数値目標（就業率・各種休暇取得率・労働生産性等）の大阪版として「大阪労働モデル」（仮称）の策定をめざしていきたいと考えている。

<主な取組>

- ・ 広報活動の充実（HP上でのリンク）
- ・ 指標となる「大阪労働モデル」（仮称）の策定

第6章 公益社団法人 関西経済連合会の取組

関西経済連合会では、下記2016年度基本方針に基づき、女性の活躍推進など多様な働き方を支える雇用システムの構築支援、留学生の就業・定着支援および「働き方改革」等の推進に関して活動を行ってきた。

1 関経連の雇用・労働政策関連事業の運営についての基本方針

関経連は、雇用・労働政策、労働法制に関する総合的な検討、中小企業が有する人事・労務課題の整理と解決支援を行うため、「労働政策委員会（委員長 井狩雅文 日本ネットワークサポート社長）」を設置している。同委員会は、ここ数年、女性・高齢者・障がい者・外国人など多様な主体が活躍できる雇用システムの検討および環境整備を行っており、2016年度は、女性活躍推進に加え、雇用労働政策の諸課題（介護離職、同一労働同一賃金、解雇規制など）への機動的な対応を行う。このため、会員企業の人事労務部門とのネットワークを構築、経団連をはじめ、経済産業省・近畿経済産業局、厚生労働省・大阪労働局、大阪府、大阪市、堺市、連合大阪を始めとする関係機関との連携を強化する。

併せて、「グローバル人材育成・活用委員会」（委員長 小川克己 淀川ヒューテック）により、グローバル人材の集積・企業での活用を促し、関西経済の活性化につなげるための取組を行う。特に、留学生については、産学官の連携による「グローバル人材活用運営協議会」事業を通じて関西の中堅・中小企業の魅力をアピールするとともに、関経連の強みである会員企業のネットワーク・他団体関係機関との連携を活用できる事業を強化し、留学生の関西企業への就業拡大と就職後の定着支援を推進する。

2 取組内容・成果

(1) 実効性ある働き方改革の実現に向けた取組

(ア) 意見書「実効性ある働き方改革の実現に向けての提言」（2月13日）を発表。有期雇用労働者・パートタイム労働者・派遣労働者等の処遇改善や長時間労働の是正等に向けて、会員企業に対し自主的な取組の強化を働きかけるとともに、政府に対しては規制強化だけではない総合的な施策の展開を要望した。

2月27日には、政府・与党へ要望活動を行った。

(イ) 雇用労働政策に関する会員企業のニーズ把握や意見集約のため、労働政策委員会に企業の実務担当者を対象とした「人事労務ネットワーク」を設置。2016年度は、働き方改革に関して、有識者を招いた意見交換や政府の施策動向に関するの情報提供（2回）、提言に関するアンケートを実施した。

(2) 女性活躍推進に向けての取組

- (ア) 経済資料「女性の活躍推進に資する雇用システムの課題と対応策（検討会報告書）」（7月）を発行。労働政策委員会のもとに2015年に設置した「女性の活躍推進に資する雇用システム検討チーム」（主査 寺井基博 同志社大学社会学部准教授）において、「多様な働き方」（在宅勤務、短時間勤務などの仕事と家庭の両立制度）や「多様な正社員」（勤務地・職務・勤務時間限定正社員等）の企業への導入に関する課題を整理するとともに、課題に対応する会員企業の取組をヒアリングし、先進事例を紹介した。
- (イ) 「女性部下を持つ管理職対象のマネジメント研修」（2回）、「女性のセルフリーダーシップ力向上のための研修」（全8回）をOSAKA女性活躍推進会議と共催。
- (ウ) 女性のネットワーク構築に資する事業（あけびネットワーク、おしごと女子会ネットワーク、明日のビジネスを担う女性たちの交流会）を支援、共催。
- (エ) 「女性のエンパワメントのための米国派遣プログラム」を米国国務省、在大阪・神戸米国総領事館とともに実施（女性5名、男性2名が参加）。
- (オ) 女性活躍推進の取組を関西広域に拡大するための検討を関西広域連合と開始。

(3) 雇用労働政策の諸課題への対応

- (ア) 連合大阪との「大阪労使会議」の開催に際し、「介護支援、介護離職防止に向けた実態調査」を実施し、調査結果を報告した。併せて、特に労働時間規制などを中心に働き方改革についての意見交換を行った。
- (イ) 厚生労働審議官や大阪労働局に対して働き方改革に関する経営側の意見を述べるとともに、今後の方向性についての意見交換を実施した。
- (ウ) 障がい者雇用について、関経連正副会長会社を中心に会員企業へのヒアリングを実施。働き方改革提言の中で、法定雇用率の設定や算定方法などについて政府に要望した。加えて大阪労働局と連携し、障がい者の雇用促進に向けて、3月6日に会員企業向けの講演会を開催した。

(4) 会員企業への最新労働情報の提供

- (ア) 法改正への対応や最新労働判例の解説をテーマとして労働情報講演会を開催（8回）。大阪労働局からは「改正均等法・育介法」（12月）、「障害者雇用促進施策の概要」（3月）の2つのテーマについて講師を派遣いただいた。
- (イ) 最低賃金に関しては改正結果と「キャリアアップ助成金」などをはじめとする政府による各種支援策について、関経連主催の講演会でのリーフレット説明・配布や全会員を対象に配布する労働情報月報等により、きめ細かく会員企業に情報を提供した。また、経済産業省の設備投資にかかわる助成金の説明等を行い、生産性の向上への取組を行った。

- (ウ) 各種労働条件調査（標準勤続者賃金、賃金・賞与改定、初任給）を実施した。
- (エ) 毎月発刊の労働情報月報にて人事労務に関する情報を提供した。

(5) 中堅・中小企業の参加者拡大と他の委員会との連携強化

中堅中小企業向けメンバーシップ部会を開催（5回）。内部統制や事業承継、女性活躍、留学生の採用・定着等に関する講演を実施し、情報提供した。特に、この部会参加者を対象に、政府の実施する中小企業施策に関する情報提供を行った。

(6) 留学生の就業支援への取組

(ア) 産学官協働の「グローバル人材活用運営協議会」を通じて、留学生の就業支援のための事業を実施。他団体・関係機関と連携しながら、交流会やセミナー等を開催した。

◆留学生とOB・OGの交流会

◆企業と留学生の交流会（主な連携機関：近畿経済産業局）

◆中堅・中小企業見学会（主な連携機関：大学コンソーシアム大阪）

◆企業向けセミナー・ワークショップ（主な連携機関：ジェトロ、日経 HR、近畿経済産業局）

◆留学生支援関係教職員向けセミナー（主な連携機関：留学生支援ネットワーク）

◆就職面接会（主な連携機関：大阪労働局、近畿経済産業局、大阪商工会議所）

◆マッチングイベント（主な連携機関：経済産業省貿易経済協力局、近畿経済産業局）

◆元留学生社会人交流会「サロン・デ・ゼクスパット」

(イ) 「グローバル人材活用運営協議会」内に「総点検部会」を設置し、これまでの活動の点検と今後の活動の方向性の検討を行った。

(ウ) 留学生の採用・定着に関する講演会を開催し、留学生採用に関する課題等について会員企業間の意見交換・情報交換の機会を設けた。

(エ) 人材育成に関する企業と大学の議論の場として2014年度に設置した「人材育成に関する関西産学懇談会」（設置期間3年）については、日本学生支援機構、関西社会人大学院連合と連携して、2回の会合を開催した。

3 評価と課題

(1) 評価

- (ア) 働き方改革提言を踏まえ、今後の法制化の動向を注視し、会員への情報提供を継続。自主的取組の強化に向けて、会員企業への働きかけの具体化が必要。
- (イ) 「雇用の流動化」や、雇用システム検討会報告書で中長期課題とした「職務型雇用システム」は、働き方改革の文脈の中での検討が必要。
- (ウ) 女性活躍推進のアクションの横展開が必要（関西広域化など）。
- (エ) 就職後の定着支援の取組として 2016 年度から新たに実施した「元留学生社会人交流会サロン・デ・ゼクスパット」は、月に1回の頻度で定期的で開催した結果、企業 22 社から 31 名の国際社員が参加し、留学生OB・OGのネットワーク構築に貢献できた。
- (オ) 協議会内外の関係機関と連携したセミナー等の開催が増え、事業の充実を図ることができた（連携を拡充／新たに連携した主な機関：近経局、ジェトロ、経産省貿易経済協力局、留学生教育学会、日経 HR、留学生支援ネットワーク）。
- (カ) 留学生就職面接会 2016 では、企業 39 社、留学生 391 名が参加し、44 名が内定するなど、企業と留学生のマッチングに貢献できた。
- (キ) 総点検部会の議論の結果、重点化すべき事業の整理を行うことができた。

(2) 課題

労働力人口が減少するなかで、企業競争力の源泉である優秀な人材の確保・定着と生産性の維持・向上を図るため、「多様で柔軟な働き方の実現」と「多様な人材が能力を発揮できる環境の整備」に取り組む。具体的には、政府の働き方改革実行計画への実務的な対応とともに、雇用の流動化（企業横断的な労働力移動）やポートフォリオ化（多様な雇用形態での戦略的な人員配置）など雇用労働環境の変化を見据えた中長期課題の検討を始める。あわせて女性、高齢者、障がい者、外国人など多様な人材が活躍できる環境づくりに向けた具体的なアクションを強化する。

4 2017 年度の取組方向

- (1) 多様で柔軟な働き方の実現や、雇用労働関連の法改正への企業ニーズに即した対応
 - (ア) 政府の働き方改革実行計画に関する会員への情報提供（4月講演会：担当内閣参事官）。
 - (イ) 同一労働同一賃金ガイドライン案や時間外労働の上限規制等の関連法改正の動きや実務的課題などの情報提供（労働情報講演会、人事労務ネットワーク、メンバーシップ部会など）。
 - (ウ) 働き方改革に向けた会員企業の自主的な取組強化に向けたフォローアップ。
（企業ヒアリング、働き方改革に関するセミナーの開催、自主的取組事例の紹介な

ど)。

(エ) 上記を含め、働き方改革実行計画にもとづく政策動向を注視し、必要な対応を検討。

(2) 雇用労働環境の変化に対応した中長期的課題の抽出、検討

(ア) 今後の雇用労働環境の変化に関する講演会の開催や有識者・関連機関へのヒアリング。

(イ) 関連連の次期中期計画(2018年～)への反映。

(3) 多様な人材が能力を発揮できる環境の構築に向けたアクション

(ア) 女性活躍推進：米国派遣プログラムや関係各機関との研修セミナーの共催継続。

関西広域連合との連携による取組の広域拡大(「女性の活躍推進会議(仮称)」の設置、セミナー等の共催)。

(イ) 介護離職防止：大阪労使会議での合意により、連合大阪と連携した労使共同セミナーを開催。

(ウ) 障がい者雇用促進：労働情報講演会において、関連施策情報とともに取組事例を紹介。

(エ) 高齢者雇用促進、若年者雇用促進：地域政労使の関連協議会の取組への参画。

(4) 雇用労働政策の諸課題への対応のためのネットワーク強化

経団連(政策動向への対応)、連合大阪(大阪労使会議など)、厚生労働省(次官・審議官、大阪労働局長との懇談)、経営法曹会議、社会保険労務士会、関西生産性本部、大阪府市労政部門等との連携。

(5) 留学生の就業支援

(ア) 留学生向け事業

大学・行政をはじめとする他団体関係機関との連携により、日本で就職し働くことについての留学生の理解促進や企業と留学生の相互理解の促進につながる事業を実施する。(留学生とOB・OGの交流会、企業と留学生の交流会等)

(イ) 企業向け事業

留学生の採用・活躍事例の紹介、在留資格に関する解説、留学生採用後の育成・定着等をテーマとした企業向けセミナーの開催により企業への情報提供を図り、留学生を採用する企業の増加と、採用後の活躍推進を後押しする。

(ウ) マッチング事業

大阪労働局、近畿経済産業局、大商等との連携による「外国人留学生就職面接会」は参加企業数の拡大を検討し、さらに多くの企業と留学生のマッチングを推進する。

(エ) 企業に就職した留学生の定着支援

元留学生社会人交流会「サロン・デ・ゼクスパット」の定期的な開催による国際社員のネットワーク構築等、企業に就職した留学生の定着支援に関する事業を実施する。

(オ) 協議会構成団体や企業・大学間の意見交換・情報交換

協議会構成団体の実務担当者会議である「幹事会」において意見交換・情報交換の充実を図り、企業と大学間においても、留学生の採用等に関して意見交換の機会を設ける。

■労働政策委員会

開催日	会合名	内容
2016/05/10	「しごと力育成プログラム」 セミナー	・全8回(5/10、24、6/7、21、7/5、19、8/2、23) ※大阪府、連合大阪と共催
05/17	労働政策委員会 講演会	演題：女性活躍推進法に基づく行動計画について 講師：大阪労働局 雇用環境・均等部長 四方 智美 氏 演題：大阪女性活躍リーディングカンパニー認証 制度について 講師：大阪市 市民局 ダイバーシティ推進室 女性活躍推進担当課長 西中 東 氏 演題：ひとり一人が輝く働き方を目指して 講師：リーディングカンパニー認証企業 (阿村製作所 関西支社、ミスノ)
05/20	第1回メンバーシップ部会	<講演> 演題：中堅・中小企業における内部統制の必要性 と取り組むべき労働CSR 講師：ハーネス社労士事務所 所長 沼田 博子 氏 <事務局報告> 議題：わが国企業の持続的な企業価値向上とコー ポレートガバナンス整備の在り方に関する 報告書について
05/20	女性のエンパワメントのための 「米国派遣プログラム2016」 第1回事前研修	・講義およびワークショップ
05/26	労働情報講演会(トピックス編)	演題：管理監督者が知っておくべき近年の労働関 係法改正とポイント 講師：社会保険労務士法人ティムス 特定社会保険労務士 玉坪 郁子 氏
06/13	労働情報講演会(トピックス編)	演題：働き方改革～長時間労働是正に向けての取 組み～ 講師：HRM総研・八木社会保険労務士事務所 代表 八木 裕之 氏
06/17	女性をより戦力化するためのセミナー ①～部門長・工場長クラスの方へ～	講師：21世紀職業財団 客員講師 大野 任美 氏
2016/06/17	女性のエンパワメントのための 「米国派遣プログラム2016」 第2回事前研修	・講義「日米における女性活躍の比較」 ・ディスカッション
06/23	労働政策委員会	議題：女性活躍推進に資する雇用システム検討 チーム報告書(案)について
07/08	女性のエンパワメントのための 「米国派遣プログラム2016」 第3回事前研修	・ディスカッション「米国現地研修で何を学ぶか」 ・企業の役員層との懇談
07/11	保育=少子化のライフライン ～2年連続・待機児童ゼロ 越直美大津市長に聞く～	パネリスト：大津市長 越 直美 氏 NPO法人ノーベル代表 高 亜希 氏 弁護士 松山 純子 氏 コーディネーター：弁護士 飯島 奈絵 氏 ※主催：大阪弁護士会 共催：日本女性法律家協会大阪支部

07/16~24	女性のエンパワメントのための「米国派遣プログラム2016」現地研修【ニューヨーク、シカゴ】	※在大阪・神戸米国総領事館と共催
07/21	労働情報講演会(トピックス編)	演題：定年延長を見据えた人事制度の整備および定年後の再雇用者における人事制度と企業事例 講師：社会保険労務士法人 MIRACREATION 代表社員 下村 勝光 氏
07/28	第2回メンバーシップ部会	<講演> 演題：経営者のみなさまへ 女性をより戦力化するためのヒント 講師：21世紀職業財団 関西事務局長 佐野 由美 氏 <事務局報告> 議題：女性の活躍推進に資する雇用システム検討 チーム報告書について
08/05	女性のエンパワメントのための「米国派遣プログラム2016」第1回事後研修	・現地研修の総括 ・研修課題の集中討議
09/08	男性管理職対象「女性をより戦力化するためのセミナー～課長クラスの方へ～」	講師：21世紀職業財団 客員講師 大野 任美 氏
09/09	女性のエンパワメントのための「米国派遣プログラム2016」第2回事後研修	・グループ発表の共同ワーク
09/14	労働政策委員会 講演会	演題：労働法制を巡る動き 講師：日本経済団体連合会 労働法制本部長 輪島 忍 氏
09/14	第1回人事労務部門ネットワーク	演題：同一労働同一賃金について 講師：日本経済団体連合会 労働法制本部長 輪島 忍 氏
09/21	第3回メンバーシップ部会(グローバル人材育成・活用委員会と合同開催)	演題：留学生の採用・定着から退職まで 講師：大阪外国人雇用サービスセンター 室長 濱田 充哲 氏
10/04	「しごとと子育てプログラム」セミナー(秋セミナー)	・全8回(10/4、11、18、25、11/1、8、15、22) ※OSAKA女性活躍推進会議と共催
10/07	女性のエンパワメントのための「米国派遣プログラム2016」第3回事後研修	・研修課題の集中討議 ・研修報告会のリハーサル
10/12	連合大阪との事務局定例懇談会	テーマ：11月1日 大阪労使会議について
10/17	女性のエンパワメントのための「米国派遣プログラム2016」研修報告会	・課題発表「現地での学び」、「自社への提案と自らの目標・アクションプラン」

11/01	大阪労使会議	<p><意見交換> 議題：①女性活躍推進の取り組みについて（共催事業、子ども・子育て施策） ②「介護支援、介護離職防止に向けた実態調査」について</p> <p><勉強会> 演題：同一労働同一賃金の検討状況について 講師：立教大学 法学部国際ビジネス法学科 准教授 神吉 知郁子 氏</p>
11/02	第5回明日のビジネスを担う女性たちの交流会 in 大阪	<p><パネルディスカッション> テーマ：明日のビジネスを担う女性たちへ コーディネーター：読売新聞 東京本社編集委員 永峰 好美 氏 パネリスト：パナソニック 役員 小川 理子 氏 西日本旅客鉄道 執行役員 多田 真規子 氏 井村屋グループ 専務取締役兼 上席執行役員 中島 伸子 氏</p> <p><交流会> ・主催：21世紀職業財団、共催：大阪商工会議所</p>
11/11	大阪弁護士会との共催講演会	<p>演題：経営戦略としての女性活躍推進～女性取締役登用に期待する～ 講師：21世紀職業財団 会長 岩田 喜美枝 氏 ※大阪弁護士会、日本女性法律家協会大阪支部と共催</p>
11/14	第4回メンバーシップ部会	<p><説明> 演題：人形の仕組みと操作について 講師：人形浄瑠璃文楽座技芸員 人形遣い 吉田 幸助 氏</p> <p><文楽鑑賞> 「増補忠臣蔵 本蔵下屋敷の段」、「艶容女舞衣 酒屋の段」、「勳進帳」</p>
2016/12/01	労働情報講演会(トピックス編)	<p>演題：改正均等法・育介法について 講師：大阪労働局 雇用環境・均等部指導課 課長 砂 修 氏</p> <p>演題：改正雇用保険法について 講師：大阪労働局 職業安定部雇用保険課 雇用保険適用係 係長 亀井 義之 氏</p>
12/08	労働情報講演会(応用編)	<p>演題：労働条件の不利益変更に関する実務上の留意点 講師：弁護士法人淀屋橋・山上合同 弁護士 吉田 豪 氏</p>
12/14	「しごと力育成プログラム」秋セミナー	・成果報告会
12/16	第2回人事労務部門ネットワーク	<p><講演> 演題：働き方改革の現状と課題 講師：ニッセイ基礎研究所 生活研究部 主任研究員 松浦 民恵 氏</p> <p><事務局報告> 議題：意見書「実効ある働き方改革の実現に向けて(仮題)」骨子案について</p>
12/20	大阪労働局との意見交換会	<p>議題：①大阪働き方改革にかかる今後の基本方針について ②「名目GDP600兆円経済達成に向けて～関西の役割と成長戦略」について</p>

2017/01/13	労働政策委員会 正副委員長会議	議題：①2016年度事業中間報告と2017年度活動方針(案)について ②意見書「実効性ある働き方改革の実現に向けて(案)」について
01/13	労働政策委員会	<講演> 演題：働き方改革の論点整理 ～非正規労働者の均等・均衡待遇、ワーク・ライフ・バランスと労働時間～ 講師：同志社大学 社会学部 准教授 寺井 基博 氏 <審議> 議題：「実効性ある働き方改革の実現に向けての提言(案)」について
01/19・20・27	関西労使政策フォーラム(関西生産性本部と共催)	テーマ：政労使による“成長と分配の好循環”を実現するには
01/19	岡崎厚生労働審議官との懇談会	テーマ：働き方改革について
02/06	第5回メンバーシップ部会	演題：事業承継のポイント 講師：大阪市都市型産業振興センター 大阪産業創造館 経営相談室 中小企業診断士 田口 光春 氏 演題：株式会社ミヤワキ 事業承継と事業発展戦略 講師：ミヤワキ 代表取締役社長 宮脇 健輔 氏
02/07	連合大阪との事務局定例懇談会	テーマ：2月20日 大阪労使会議について
02/14	労働情報講演会(トピックス編)	演題：集团的労使関係を取り巻く状況について 講師：大阪府総合労働事務所 地域労政課 主査 小川 晋 氏
02/17	労働法実務研究会	テーマ：日本の雇用システムの課題と政府の目指す「働き方改革」を考える <基調講演> 演題：日本の雇用システムの課題 講師：労働政策研究・研修機構 主席統括研究員 濱口 桂一郎 氏 <パネルディスカッション> パネリスト：竹林・畑・中川・福島法律事務所 弁護士 竹林 竜太郎 氏 弁護士法人淀屋橋・山上合同 弁護士 渡邊 徹 氏 松下法律事務所 弁護士 松下 守男 氏 進行：中之島中央法律事務所 弁護士 勝井 良光 氏 ※経営法曹会議と共催
02/20	大阪労使会議	<意見交換> 議題：①2017春季生活闘争に関する要請について ②長時間労働の是正に向けた特別要請について ③同一労働同一賃金ガイドライン案について <報告> 議題：①「介護支援、介護離職防止に向けた実態調査」結果について ②「子ども・子育て施策」自治体ヒアリング状況等について ③来年度の取り組みについて

02/28	セミナー「多様な働き方と女性の活躍推進 ～世界銀行グループの取り組みから見えること～」	<p><基調講演> 講師：世界銀行グループ 人事担当副総裁 ショーン マクグラス 氏</p> <p><パネル討論> モデレーター：世界銀行 東京事務所 上級広報担当官 大森 功一 氏</p> <p>パネリスト：同志社大学 准教授 中村 艶子 氏 元毎日放送 経済部記者、人事局キャリア推進室長 大谷 邦郎 氏 世界銀行グループ 人事担当副総裁 ショーン マクグラス 氏</p> <p>※世界銀行東京事務所と共催</p>
03/03	大阪市女性活躍シンポジウム ～働く女性の未来のために今できること～	<p><表彰式> 大阪市女性活躍リーディングカンパニー表彰式</p> <p><事例発表> テーマ：女性活躍推進への今後の取り組み</p> <p><特別講演> 演題：女性が向き合う、働くということ 講師：フリーキャスター、四条畷学園大学 客員教授 八木 早希 氏</p> <p><パネルディスカッション> テーマ：女性活躍推進の課題と展望</p> <p>※大阪市と共催</p>
2017/03/06	労働情報講演会(トピックス編)	<p>演題：障害者雇用促進施策の概要について 講師：大阪労働局 職業安定部 職業対策課 地方障害者雇用担当官 渡邊 和江 氏</p> <p>演題：障害者雇用における取り組み・合理的配慮の事例 講師：ダイキンサンライズ摂津 社長 澁谷 栄作 氏</p>
03/15	女性のしごと力向上セミナー トライアル会	<p>テーマ：女性のしごと力向上セミナーについて</p> <p>グループワーク1：セルフマネジメント力</p> <p>グループワーク2：ビジネス行動力</p>
03/30	労働政策委員会 正副会長会議	<p>議題：①労働政策委員会2017年度運営方針について ②2月27日「実効性ある働き方改革の実現に向けての提言」要望活動結果について</p>

■グローバル人材育成・活用委員会

開催日	会合名	内容
2016/04/25	グローバル人材活用運営協議会 2016年度定時総会	第1号議案：2015年度事業活動報告(案) 第2号議案：2016年度事業計画(案) 第3号議案：構成員への参画
04/25	企業と留学生の交流会	<パネルディスカッション> テーマ：関西企業への就職を目指す留学生の思い コーディネーター：エバオン 人材開発部 参事 谷口 慎吾 氏 パネリスト：エバオン 営業部 魯 静文 氏 関西大学 大学院 商学研究科 崔 世明 氏 関西大学 商学部 施 美欣 氏
05/25	元留学生社会人交流会 サロン・デ・ゼクスパット	・元留学生 5名参加
06/14	元留学生社会人交流会 サロン・デ・ゼクスパット	・元留学生 9名参加
07/08	「中堅・中小企業等の海外展開における高度外国人材の活用」に係るワークショップ(採用準備編)	演題：外国人材の採用について 講師：留学生支援ネットワーク 事務局長 久保田 学 氏 ※日本貿易振興機構(ジェトロ) 大阪本部、大阪商工会議所と共催
07/09	NIN2 JOB Fair 2017 外国人留学生のための就職/ コミュニティーイベント	・企業20社、参加者237名 ※経済産業省貿易経済協力局と共催
07/12	グローバル人材活用運営協議会 第1回総点検部会	
07/20	元留学生社会人交流会 サロン・デ・ゼクスパット	・元留学生10名参加
08/29	グローバル人材活用セミナー ～各国の教員が語るASEAN諸国の 大学生の就業観～	<講演> 演題：外国人から見た日本の就職活動の不思議 講師：トモノカイ 留学生支援事業部門 エンピカンドル 氏 <パネルディスカッション> テーマ：ASEAN各国の日本語教育の現状と 日本企業への就職に関して モデレーター：日本経済研究センター 副事務局長 兼 主任研究員 湯浅 健司 氏 パネリスト：大阪大学 国際教育交流センター 特任准教授(常勤) 金 孝卿 氏 ハノイ貿易大学 日本語学部 学部長 TRAN THI THU THUY 氏 チュラーロンコーン大学 文学部 東洋言語学科 日本語講座講師 Yuphawan Sopitvutiwong 氏 インドネシア大学 日本語学科 学科長 I Ketut Surajaya 氏 ※日経HRと共催

08/30	教育機関における留学生支援関係教職員向けセミナー	<p><講演> 演題：外国人留学生就職支援における現状と支援方策のポイント 講師：留学生支援ネットワーク 事務局長 久保田 学 氏 演題：外国人留学生の就職に必要なビジネス日本語教育 講師：コミュニケーション学院 学院長 奥田 純子 氏 <パネルディスカッション> テーマ：外国人留学生の就職支援の方策について モデレーター：留学生支援ネットワーク 事務局長 久保田 学 氏 パネリスト：立命館大学 キャリアセンター 次長 松原 修 氏 関西大学 国際部 国際教育グループ 課長補佐 横山 隆太 氏 エール学園 キャリア教育事業本部 キャリア支援室 室長 西村 康司 氏 コミュニカ学院 学院長 奥田 純子 氏 ※留学生支援ネットワークと共催</p>
08/31～09/01	中堅・中小企業見学会	<p>見学先：丸エム製作所（31日）、カワソーテックセル堺工場（1日） ※大学コンソーシアム大阪と共催</p>
09/01	元留学生社会人交流会 サロン・デ・ゼクスパット	<p>・元留学生9名参加</p>
2016/09/08	グローバル人材育成講座	<p>演題：企業が求める「グローバル人材」とは 講師：日東電工 経営インフラ統括部門 人財統括部 グローバル人事部長 片山 孝 氏 ※大学コンソーシアム大阪と共催</p>
09/21	グローバル人材育成・活用委員会 講演会	<p>演題：留学生の採用・定着から退職まで 講師：大阪外国人雇用サービスセンター 室長 濱田 充哲 氏 ※メンバーシップ部会と共催</p>
09/26	OSAKAジョブフェア	<p>・企業97社、参加者720名（うち留学生148名） ※近畿経済産業局等と共催</p>
10/06	元留学生社会人交流会 サロン・デ・ゼクスパット	<p>・元留学生8名参加</p>
11/04	ダイバーシティ経営シンポジウム (海外人材編)	<p>演題：海外人材を活かす人材マネジメント 講師：本多機工 社長 龍造寺 健介 氏 演題：海外人材が活躍している企業の取組紹介 講師：サラヤ 取締役 総合企画室 室長 兼 海外事業本部 本部長補佐 井上 政行 氏 西山酒造場 社長 西山 周三 氏 ファシリテーター：同志社大学 キャリア支援課 キャリアコーディネーター 上田 修三 氏 ※近畿経済産業局、大阪商工会議所と共催</p>

11/10	元留学生社会人交流会 サロン・デ・ゼクスパット	・元留学生6名参加
11/16	外国人留学生就職面接会2016	・企業39社、参加者391名
11/17	「中堅・中小企業等の海外展開における高度外国人材の活用」に係るワークショップ(育成・定着、異文化マネジメント編)	演題：関西における留学生の就職後の定着支援の取り組み 講師：大阪大学 国際教育交流センター 特任准教授(常勤) 金 孝卿 氏 演題：外国人材の育成・定着について 講師：新輸出大国コンソーシアム・エキスパート 綾戸 高志 氏 演題：異文化マネジメントについて 講師：新輸出大国コンソーシアム・エキスパート 金栗 雅実 氏
12/03	GLOBAL ROOKIES 外国人留学生のための日本企業を理解する交流会【神戸】	基調講演：シスメックス 人事部人事課 シニアプランナー 中野 宗彦 氏 ・参加企業：7社、参加留学生：34名 ※近畿経済産業局、大学コンソーシアムひょうご神戸と共催
12/07	グローバル人材活用運営協議会 第2回総点検部会	
12/10	GLOBAL ROOKIES 外国人留学生のための日本企業を理解する交流会【大阪】	基調講演：ヤンマー 人事部採用グループ 課長 上田 弘二 氏、 マーケティング部 マーケティング戦略グループ イブラギモブ ショハルフベック 氏 ・参加企業：12社、参加留学生：64名 ※近畿経済産業局、大阪商工会議所と共催
12/14	拡大版 元留学生社会人交流会 サロン・デ・ゼクスパット(留学生とOB・OGの交流会)	・元留学生12名、留学生10名参加
12/17	GLOBAL ROOKIES 外国人留学生のための日本企業を理解する交流会【京都】	基調講演：オムロン グローバル人財総務本部 グローバル人事部 TMグループ マネージャ 長見 真 氏 同 グローバル人事部 陳 莉 氏 ・参加企業：13社、参加留学生：41名 ※近畿経済産業局と共催
12/17	KYOTOジョブフェア	・企業122社、参加者668名(うち留学生37名) ※近畿経済産業局等と共催
2017/01/23	グローバル人材育成・活用委員会 正副委員長会議	
01/23	元留学生社会人交流会 サロン・デ・ゼクスパット	・元留学生10名参加

01/24	キャリア教育・就職支援ワーク ショップ (人材育成に関する関西産学懇談会)	演題：インターンシップの拡大に向けた施策について 講師：文部科学省 高等教育局 専門教育課 課長補佐 山路 尚武 氏 演題：産学連携教育に向けた期待と要望 講師：堺経営者協会 専務理事・事務局長 植松 高志 氏 演題：教育から就職支援へ ～世界の高等教育改革をもとに考える～ 講師：元立命館大学教授、 キャリア教育センター長 加藤 敏明 氏 ※日本学生支援機構と共催
02/16	グローバル人材活用運営協議会 幹事会	
02/16	拡大版 元留学生社会人交流会 サロン・デ・ゼクスパット(留学生と OB・OGの交流会)	・元留学生5名、留学生11名参加
02/24	平成28(2016)年度 産学交流会	演題：女性を育てる！～活躍推進で上司・企業が できること～ 講師：関西学院大学 専門職大学院 経営戦略研究科 准教授 大内 章子 氏 ※関西社会人大学院連合と共催
03/13	グローバル人材育成・活用委員会 正副委員長会議	
03/13	グローバル人材育成・活用委員会 講演会	演題：グローバル化の中で外国人の部下と共に働くために 講師：立命館アジア太平洋大学(APU) 事務局長 村上 健 氏
03/16	元留学生社会人交流会 サロン・デ・ゼクスパット	・元留学生3名参加

第7章 大阪商工会議所の取組

大阪商工会議所では、2017年度から3年間にわたって取り組む中期計画「たんと繁盛 大阪アクション～最前線×最先端で、日本とアジアを牽引～」に沿って事業を推進している。本中期計画では、「3つの戦略フィールド」と「8つの戦略プロジェクト」を展開するとともに、「5つの基盤強化」を推進し、中堅・中小企業の成長分野への参入支援を通じて、大阪・関西の成長力強化に全力を挙げる。

「8つの戦略プロジェクト」のうち、人材の確保・育成事業では「新戦力フロンティア人材発掘プロジェクト」を推進、新規学卒者や女性、外国人留学生など、次代を担う人材を“新戦力フロンティア人材”として捉え、これらの人材の活用を推進する事業を精力的に実施するとともに、関係機関への政策要望や意見照会を行っていく。

今後の基本方針に沿った項目のうち、大阪商工会議所が実施する事業は以下のとおりである。

4 女性の活躍促進

(1) これまでの活動について

平成26年度より「企業における女性の発掘・戦力化支援事業」に取り組んでおり、この間、「女性活躍推進フォーラム」や在阪企業における女性活躍の事例を紹介した事例集「女活のススメ」を発刊した。

また、平成28年度には、内閣府が実施している「企業主導型保育ネットワーク事業」と連携し、内閣府、大阪府と共催で同事業の説明会を3回にわたって実施した。また、既に企業内で保育所を設置・運営している企業と開設計画のある企業との意見交換会や事例発表会、企業内保育所の見学会を実施した。

さらに、同年度に企業活動や文化的活動において活躍する女性の役員・管理職をたたえる「大阪サクヤヒメ表彰」を創設、第1回表彰式と記念フォーラムを開催した。

その他、近畿経済産業局や大阪府・市が開催するシンポジウムを共催実施した。

(2) 平成29年度事業計画について

引き続き、中堅・中小企業における女性の活躍や確保、継続就労を支援するため、他の機関と連携してフォーラム等を開催する。また、「企業主導型保育サービス・ネットワーク」の構築に向け、見学会や情報交換会を行うほか、保育施設の共同利用促進や保育所設置企業と保育運営会社とのマッチングを実施する。さらに、第2回「大阪サクヤヒメ表彰」を実施するとともに、受賞者同士のネットワーク構築やセミナーへの出講等を通じて、女性管理職のロールモデル輩出につなげる。

5 若者の活躍促進

(1) 平成 29 年度事業計画について

中堅・中小企業における新規学卒者の採用を支援するため、大阪府内の新卒者採用支援会社と連携し、企業が直接学生にオファーを送る求人サイトを本格稼働させる。また、経営者や人事担当者を対象に、採用のノウハウや成功事例を紹介するフォーラムや勉強会を開催するほか、中小企業と大学とのネットワークを構築するための交流会を開催する。

8 外国人留学生の就職促進と成長戦略

(1) これまでの活動について

平成 26 年度より中堅・中小企業における人材確保と海外ビジネスの拡充を人材面で支援するため、「外国人留学生採用支援事業」に取り組んでおり、企業向けの「外国人留学生採用支援セミナー」や外国人留学生を対象とした「インターンシップ」の実施、「合同企業説明会」を開催してきた。

(2) 平成 29 年度事業計画について

引き続き、中堅・中小企業における外国人留学生の採用を支援するため、企業向けのセミナーやインターンシップ受入れ企業の発掘と外国人留学生とのマッチング、他機関・他団体とも連携した「合同企業説明会」を開催する。これらの事業を開催するにあたり、大阪大学、大阪市立大学、大阪府立大学、関西大学で組織する「CARE S-O s a k a」と連携して実施する。

第8章 堺商工会議所の取組

4 女性の活躍促進

基本方針及びロードマップでは、「子育てをしながら働くことのできる環境整備」、「製造」、「運輸」、「建設」分野に対する職場環境整備事業、高校生・大学生等に対する職業教育、「OSAKAしごとフィールド」における就業支援のハローワークとの一体的実施の強化、「ママ就活応援キッズ安心事業（仮称）の創設を検討」、「えるぼし・くるみん認定企業に対する資金調達面での助言などの支援を検討」を行うこととなっている。

(1) 堺商工会議所では、多くの企業における重要課題である「女性活躍促進」をテーマに、女性社員を育成・活用する管理職としての考え方や指導について学ぶセミナーを、平成28年8月26日に開催し、女性を部下に持つ管理職男女26名の参加者を得た。当日は、働く女性を取り巻く環境の変化や女性部下育成のポイントの説明と、「ケースで考える女性育成・支援の具体策」について、参加者同士で、グループ討議を行った。

(2) 平成29年度は、前年度のアンケート結果をもとに、後輩や部下などをもち、リーダーとしての役割を果たすことが必要な女性社員を対象に、女性ならではの「強み」「悩み」などを参加者同士で共有し、スキルアップを図ること目的にセミナーを開催する予定である。

7 ワーク・ライフ・バランスの実現

基本方針及びロードマップでは、「各業界のトップ企業への働きかけの強化」、「働き方改革宣言企業の募集」、「好事例の収集・広報」、「セミナーの実施」、「ワーク・ライフ・バランスの普及」、「ワーク・ライフ・バランスに努める企業に対する資金調達面での助言などの支援を検討」を行うこととなっている。

(1) 堺商工会議所では、「ワーク・ライフ・バランスの普及」の一環として、当所所報8月号・9月号と2カ月間にわたり、働く人の心身の健康を促進することを目的に、「職場でのメンタルヘルス対策」を特集記事として掲載し、職場ストレスの現状と、平成27年12月より義務化されている「ストレスチェック制度」に関する実施手順についての普及促進に努めた。併せて、平成28年6月27日に113名の参加者を得て、メンタルヘルス対策セミナーを開催し、「これで困らない!職場のメンタルヘルス対策」をテーマに、大阪経済大学経営学部・大学院経営学研究科教授の田中健吾氏から説明が行われ、予防活動の重要性や、「ストレスチェック」の実施手順や注意点、メンタル不調者とのコミュニケーション方法について理解を深める機会となった。

- (2) 平成 29 年度も、6 月 15 日に職場のメンタルヘルス問題に関する基礎知識や対応方法について、具体的な事例等を交えて解説するメンタルヘルス対策セミナーを開催する予定である。

8 外国人留学生の就職促進と成長戦略

基本方針及びロードマップでは、「外国人留学生向け企業説明会」、「外国人留学生向け就労型インターンシップ事業の実施を検討」、「長時間労働の削減等働き方改革の啓発の強化」、「外国人留学生に対する就職促進の方策を展開」を行うこととなっている。

- (1) 堺商工会議所では、日系企業で働く人材養成を目的に日本とタイ王国が協力して設置された「泰日工業大学」と「大阪府立大学」が学術交流協定・学生交換覚書を締結した中、平成 25 年 12 月大阪府立大学と堺国際ビジネス推進協議会とともに、留学生の公募・選考・奨学金の給付、協力企業の募集・決定、留学生のインターンシップ活動の支援、堺市及び堺市内の企業とタイ王国との相互理解を深めることを目的として実行委員会を設置し、留学生の日本語教育を行い、4 月から 9 月のインターンシップカリキュラムを行う「泰日工業大学留学生支援事業」を実施している。
- (2) 平成 28 年度のインターンシップ活は、堺市内製造業 2 社の協力のもと、2 名の留学生企業がでのインターンシップを体験し、泰日工業大学卒業後は堺市内の中小企業やタイ王国の日系企業で活躍することを支援すると共に、海外に進出する堺市内の中小企業の人材確保に向け支援を行っており、インターンシップ経験者が協力企業に就職することとなった。
- (3) また、平成 29 年度については、協力企業 3 社のもと事業を実施していくこととなっている。

14 広報・啓発活動

基本方針及びロードマップでは、「広報・啓発活動の連携」を行うこととなっている。堺商工会議所では、当所所報等を通じて、堺市内の企業を中心に、行政が取り組んでいる大阪働き方改革の広報・啓発活動を行った。

引き続き、平成 29 年度も行政等連携し広報・啓発に努めていく。

なお、平成 28 年度の掲載記事は以下のとおり。

【所報 6 月号】

ハローワーク堺『「障害者の雇用の促進等に関する法律」を改正』

堺市『堺市障害者雇用貢献企業認定制度のご案内』

【所報8月号】

授産活動支援センターによる障害者就労施設のご案内

【所報10月号】

堺市『さかい健康づくりポイントラリー事業のお知らせ』

ハローワーク堺『厚生労働省の「若年雇用促進総合サイト」に職場情報を登録案内』

【所報11月号】

堺市『「障害者週間」フェスティバル開催』

【所報2月号】

堺市『仕事と治療の両立支援に関する講演会のお知らせ』

第9章 近畿経済産業局の取組

4 女性の活躍促進

女性、外国人、高齢者、障がい者等の多様な人材の能力を最大限発揮できる機会を提供することで、イノベーションの創出、生産性向上を図るダイバーシティ経営の普及のため、平成28年度はダイバーシティ経営企業フォーラム（8/3・77人参加）、ダイバーシティ経営シンポジウム（女性編3回：9/28・75人、11/29・36人、1/24・37人参加）を開催した。平成29年度においても、多様な人材の活躍、柔軟な働き方に関するシンポジウムを開催予定。

5 若者の活躍促進

学生等若者が中小企業の経営者や人事担当者等と出会える「しごとリサーチ交流会」を昨年度（11/10・企業4社、学生50人参加）に続き平成29年度も開催予定。働くことや仕事内容等のリアルな話を企業から伝えることで、働くことを考えるきっかけを創出し、参加者の視野を広げる。

若者、女性、シニア、留学生等の多様な人材をターゲットとし、近畿圏のオンライン、ナンバーワンの技術・製品・商品・サービス等の魅力を持つ企業が出展する広域ジョブフェア「天下一合説」を昨年度（3/8・企業148社、学生ほか1,394人参加）に続き平成29年度も開催予定。

学生が中小企業の経営課題の解決に向けて取り組むことにより、企業との相互理解を深め、企業とのコミュニケーションを通じて、その魅力やポテンシャルへの理解を深め、就職活動における選択肢の拡大に繋がることを目的とした実践型課題解決プロジェクト「A i - S P E C（アイスペック）」を昨年度（5～11月・企業21社、学生137人参加）に続き平成29年度も開催予定。

8 外国人留学生の就職促進と成長戦略

外国人留学生を積極的に活用している意識の高い中小企業を集め、日本での就職を希望する外国人留学生と地域の中小企業が出会える交流会「GLOBAL ROOKIES」を昨年度（12/10・企業12社、学生64人参加）に続き平成29年度も開催予定。企業と留学生が座談会形式でフラットに話し合いができる雰囲気を作ると同時に、先輩の外国人社員（元留学生）に多く参加してもらうよう企業に促し、自身の体験談や、日本で働くということについての心構え等が聞ける内容。留学生の採用を検討中の企業にも参加を促し、活用に向けた啓発を兼ねることも狙いとしている。

第 10 章 近畿運輸局の取組

12 運輸事業における取組

(1) トラック運転者の労働時間短縮のための施策

平成 28 年度は、食品卸から食品小売店への配送工程においてパイロット事業を行い、現在その取りまとめを行っているところである。6 月に開催予定の第 5 回トラック輸送における取引環境・労働時間改善大阪府地方協議会で報告を行う予定である。

さらに平成 29 年度も新たな配送工程を対象にパイロット事業を行うこととしており、現在対象となる事業集団を選定中である。

(2) バス運転者の労働時間短縮のための施策

ツアー会社及びバス会社を対象としたセミナーの開催、旅行業関係団体に対する要請及び意見交換会を行うこととしており、現在、近畿運輸局、大阪労働局及び大阪府で実施方法等について検討を重ねているところである。

要請、意見交換会については、6 月に実施することで調整している。

第 11 章 大阪信用金庫の取組

10 金融機関との連携

(1) 包括連携協定締結

「大阪労働局との働き方改革にかかる包括連携協定」締結
平成 28 年 8 月 2 日 於：大阪信用金庫本店

(2) 働き方改革・助成金等勉強会の実施

講師 大阪労働局 「助成金センター」東係長他
対象者 大阪信用金庫 得意先担当者

第 1 回 平成 28 年 8 月 23 日 於：大阪信用金庫本店
内容 「雇用関係助成金の概要」など

参加 171 名

第 2 回 平成 28 年 10 月 6 日 於：大阪信用金庫本店
内容 「キャリアアップ助成金」など

参加 100 名

第 3 回 平成 28 年 11 月 8 日 於：大阪信用金庫本店
内容 「高齢者雇用に関する助成金」など

参加 80 名

平成 29 年度においても、引き続き大阪労働局と連携を図り、改正後の助成金制度についての助成金勉強会を実施する予定。

(3) 支店とハローワーク・労働基準監督署との連携事業

(ア) 「雇用管理改善セミナー」

平成 29 年 3 月 16 日 於：大阪信用金庫堺東支店

対象者：介護事業所（30 名参加）

講師：ハローワーク堺・堺労働基準監督署・大阪信用金庫

(イ) 「地元企業が元気になる“キックオフ・ミーティング”（予定）」

平成 29 年 6 月 2 日予定 於：クリエイターズプラザ（東大阪市）

対象者：東大阪地域の中小企業 30 社程度

講師：ハローワーク布施 東大阪労働基準監督署 近畿大学
大阪信用金庫

(4) 働き方改革支援融資「いきいき」取扱開始

平成 29 年 4 月 7 日より

融資対象者：①「くるみん」「プラチナくるみん」認定企業

②「えるぼし」認定企業

③「ユースエール」認定企業

④「大阪市女性活躍促進企業認証」を受けた企業

※ 金利優遇商品 審査あり。

(5) 労働局よりの情報の広報

大阪労働局と連携を図り、働き方改革の取組内容について、店内アナウンス、「デジタルサイネージ」への掲載及び広報紙「だいしんNOW」へ掲載することにより、大阪府下の中小企業事業主に対して広報活動を引き続き行っていく。

(6) その他

「外国人労働者啓発セミナー」にブース出展

平成 29 年 5 月 26 日予定 於：大阪府立体育館

第 12 章 株式会社池田泉州銀行の取組

1 非正規雇用労働者の待遇改善

(1) 「キャリアアップ助成金」の浸透

平成 28 年 10 月 21 日に、大阪労働局と池田泉州銀行において、地域の中小企業における「働き方改革」をサポートするため、「働き方改革にかかる包括連携協定」を締結しました。

その後、各店舗においては雇用関連助成金のパンフレットやチラシなどを配架し、PR 活動に努めました。

(2) 人財活躍応援融資「輝きひろがる」の取扱いを開始

平成 28 年 12 月 16 日には、包括連携協定における具体的施策の一環として、「働き方改革」や「健康経営」を実践する地元中小企業者を応援するため、人財活躍応援融資「輝きひろがる」の取扱いを開始しました。

本融資商品は、厚生労働省が認定する「くるみん」「プラチナくるみん」「えるぼし」「ユースエール」のいずれかの認定企業や、「雇用関係助成金」等を受給する中小企業者、または経済産業省が認定する「健康経営優良法人」などを対象としており、中小企業の「働き方改革」などを金融面からサポートするため、利率の優遇を行っております。

(3) 営業・融資担当者を対象とした「働き方改革・助成金等勉強会」を開催

平成 29 年 4 月 25 日には、大阪労働局による「働き方改革・助成金等勉強会」を営業・融資担当者を対象に開催しました。「キャリアアップ助成金」を含め、助成金制度や国の施策・方針を理解し、適時適切なアドバイスを中小企業者に行えるよう制度の周知をしました。

平成 29 年 5 月から 6 月にかけて、支店長向けの助成金説明会を各地区で開催する予定にしており、制度の普及の強化を図ります。

平成 29 年 6 月には、大阪府との共催で取引先向けセミナーを開催する予定にしており、中小企業者・零細企業者に対しても国の施策を浸透できるように努めていきます。

2 労働生産性向上等を通じた、超過勤務の削減等職場環境の整備

(1) 「働き方改革・助成金等勉強会」の開催（再掲）

平成 29 年 4 月 25 日には、大阪労働局による「働き方改革・助成金等勉強会」を営

業・融資担当者を対象に開催しました。その中で、「職場意識改善助成金」等の制度や国の施策・方針を理解し、適時適切なアドバイスを中小企業者に行えるよう制度を周知しました。

(2) 「働き方改革委員会」の設置

平成 29 年 5 月 1 日からは、我々自身の「働き方改革」をより一層実践するために、行内に「働き方改革委員会」を設置しました。

3 高齢者及び障がい者の雇用の促進

平成 29 年 4 月 25 日には、大阪労働局による「働き方改革・助成金等勉強会」を営業・融資担当者を対象に開催しました。その中で、「高年齢者雇用安定助成金」「65 歳超雇用促進助成金」等の制度や国の施策・方針を理解し、適時適切なアドバイスを中小企業者に行えるよう制度を周知しました。

4 女性の活躍促進

(1) 「えるぼし」認定企業に対する融資面での支援

平成 28 年 12 月 16 日には、「えるぼし」の認定企業に対し、企業が実施する女性活躍支援を金融面からサポートするため、人財活躍応援融資“輝きひろがる”の取扱いを開始しました。

(2) 「均等・両立推進企業表彰」等の受賞

行内における女性の活躍促進の取組として、平成 28 年 12 月に、厚生労働省が主催する平成 28 年度「均等・両立推進企業表彰」の推進均等企業部門において「厚生労働大臣優良賞」を受賞しました。

また、平成 29 年 3 月には、「大阪市女性活躍リーディングカンパニー市長表彰」において「最優秀賞」を受賞しました。

5 若者の活躍促進

(1) 「ユースエール」認定企業に対する融資面での支援

平成 28 年 12 月 16 日には、「ユースエール」認定企業に対し、若者雇用促進を金融面からサポートするため、人財活躍応援融資“輝きひろがる”の取扱いを開始しました。

(2) 職業能力開発拠点の紹介

平成 29 年 4 月 24 日には、職業能力開発拠点である「ポリテクセンター関西」と連携し、若手専門人材の雇用ニーズがある地元企業約 30 社を集めた見学会を開催しました。

6 最低賃金引上げのための環境整備

平成 29 年 4 月 25 日には、大阪労働局による「働き方改革・助成金等勉強会」を営業・融資担当者を対象に開催しました。その中で、「業務改善助成金」等の制度や国の施策・方針を理解し、適時適切なアドバイスを中小企業者に行えるよう制度を周知しました。

7 ワーク・ライフ・バランスの実現

平成 28 年 12 月 16 日には、大阪労働局主催の「働き方改革セミナー」において、「池田泉州銀行におけるダイバーシティ推進～女性活躍推進の取組～」と題して、ワーク・ライフ・バランスやダイバーシティ推進についての考え方・問題意識、女性活躍推進に向けた取組、働き方改革に向けた取組、これまでの成果・今後の取組について、それぞれの取組の概要や工夫、苦労した点など中心に紹介しました。

9 人材の育成支援

職業訓練施設である「ポリテクセンター関西」や「ぎせんこう」を中心に、地域の中小企業を対象とした施設見学会などを実施し、各機関の人材育成カリキュラム等を紹介いただきました。

10 金融機関との連携

(1) 国や地方公共団体の企業に対する支援策を浸透

平成 28 年 10 月 21 日には、大阪労働局と働き方改革にかかる包括連携協定を締結しました。その後、各店舗において、雇用関係助成金のパンフレットやチラシなどを配架し、国や地方公共団体の企業に対する支援策の PR 活動に努めました。

(2) 「働き方改革」や「健康経営」を実践する地元中小企業者を応援

大阪労働局との連携協定項目における具体的施策の一環として、「働き方改革」や「健康経営」を実践する地元中小企業者を応援するため、人財活躍応援融資“輝きひろがる”の取扱いを開始しました。

(3) 「働き方改革」や「健康経営」を実践する地元中小企業者を応援

平成 29 年 4 月 25 日には、大阪労働局による「働き方改革・助成金等勉強会」を当行の営業・融資担当者を対象に開催しました。助成金制度や国の施策・方針を理解し、適時適切なアドバイスを中小企業者に行えるよう制度の周知を図りました。

平成 29 年 5 月には、支店長向けの助成金説明会を各地区で開催する予定です。

11 「働き方改革推進企業」の顕彰・動機づけ制度創設に向けた検討

平成 28 年 10 月 21 日には、大阪労働局と池田泉州銀行において、「働き方改革にかかわる包括連携協定」を締結しました。連携協定における具体的施策として、「働き方改革」や「健康経営」を実践する地元中小企業者を応援するため、人財活躍応援融資“輝きひろがる”の取扱いを開始しました。

融資対象者は、厚生労働省が認定する「くるみん」「プラチナくるみん」「えるぼし」「ユースエール」の認定企業や「雇用関係助成金」等を受給する中小企業者、経済産業省が制度を設立した「健康経営優良法人」としており、企業の「働き方改革」や「健康経営」を金融面からサポートしております。

第 13 章 株式会社りそな銀行・株式会社近畿大阪銀行の取組

1 非正規雇用労働者の待遇改善

(1) 金融機関を通じたキャリアアップ助成金の浸透

りそなグループ（株式会社りそな銀行および株式会社近畿大阪銀行）では、平成 28 年 10 月 25 日に大阪労働局との働き方改革にかかる包括連携協定を締結し、その後、提携の一環として中小企業を中心とした取引先企業への情報発信チャネルの「ビジネスプラザおおさか」の営業職員に対し、大阪労働局による「働き方改革・助成金等勉強会」を 1 回開催している。

また、平成 29 年 6 月以降に平成 29 年度の労働関係助成金についての大阪労働局による中小企業事業者向けのセミナーの開催を企画している。

今後も「ビジネスプラザおおさか」を起点とした中小企業事業者への労働関係助成金等のセミナーや営業職員向けの勉強会を今後も継続していく。

(4) 無期転換ルールの周知徹底

株式会社りそな銀行、株式会社近畿大阪銀行で中小企業等の取引先企業向けの情報発信拠点として共同運営している「ビジネスプラザおおさか」のセミナーホールにて、大阪府、大阪労働局など行政機関のイベント情報や制度紹介のチラシラックを常設し、大阪労働局では無期転換ルールに関する周知用資料等を配備し制度の周知を行っている。

平成 29 年 5 月には大阪労働局との共催で「働き方改革セミナー」を中小企業事業者向けに開催し、無期転換ルールおよびキャリアアップ助成金を活用した無期転換への取組みを周知した。

また、株式会社りそな銀行、株式会社近畿大阪銀行では、大阪労働局の指導を受けつつ平成 29 年 4 月に有期労働契約者にかかる無期労働契約への転換ルールを制定し社内周知を行った。

3 高齢者及び障がい者の雇用の促進

平成 29 年 1 月、2 月に大阪府主催による合理的配慮や雇用・定着支援等をテーマにした中小企業事業者向けのセミナーを協力開催した。

8 外国人留学生の就職促進と成長戦略

平成 29 年 5 月に開催の厚生労働省および近畿各労働局主催の外国人留学生向けの合同企業説明会に株式会社りそな銀行、株式会社近畿大阪銀行が参加するなどし、外国人留学生の就職の促進に引き続き取り組んでいく。

10 金融機関との連携

大阪労働局および大阪府、大阪市、堺市の各労働関係行政当局の行う働き方改革にかかる施策について、中小企業事業者への情報発信や助言等を引き続き行っていく。